

## NEXCO東日本レポート 2022

発行:東日本高速道路株式会社

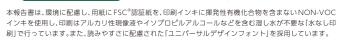
〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14階) NEXCO東日本お客さまセンター 0570-024-024または03-5308-2424 https://www.e-nexco.co.jp/













# 地域をつなぎ、地域とつながる。

NEXCO東日本グループは、

東日本地域における高速道路の

管理事業、建設事業、サービスエリア事業および

高速道路関連ビジネスを行っています。

今後も、地域・国・世代を超えた持続可能な社会の実現に向けて、

「つなぐ」価値を創造し、

あらゆるステークホルダーの皆さまに貢献する企業として

成長してまいります。

#### CONTENTS

企業理念	3
NEXCO東日本グループのCSR ······	4
NEXCO東日本グループの事業 ······	5
トップメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
中期経営計画(2021年度~2025年度)	9
NEXCO東日本グループ 主要重点計画とSDGsへの貢献	13
特集 新しい未来社会に向けたNEXCO東日本グループの取組み ·····	1!
道路管理事業 ~持続可能なベストウェイを目指して~・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
サービスエリア事業 ~より便利で快適なサービスの提供に向けて~	39
道路建設事業 ~高速道路の整備・強化と4車線化の推進によるネットワーク機能の充実~ ・・・・・・・・・・・	4
技術開発・海外事業 ~「進化した技術」で未来を拓く~ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5!
	6!
ステークホルダーの皆さまからのメッセージ	8
会社概要/役員一覧/組織図/グループ会社一覧/営業道路一覧/建設道路一覧/	
インターチェンジ・SA・PA/財務諸表	8.
企業CMのご案内/提供番組「My Best Way」のご案内/コーポレートサイトのご案内	9:



#### あ な た に、ベ ス ト・ウェ イ。



[本レポート編集方針] 「NEXCO東日本レポート」は、NEXCO東日本グループの高速道路事業や、高速道路事 業を通じた社会の持続的な発展に向けての取組みをステークホルダーの皆さまにお

伝えするために発行しています。「NEXCO東日本レポート」は、本編とCSR BOOKを ご用意しており、どちらも当社コーポレートサイトからダウンロードいただけます。

[ 報 告 対 象 組 織 ] NEXCO東日本およびグループ会社28社

[報告対象期間] 2021年4月1日~2022年3月31日(一部期間外の活動なども掲載しています)

#### ▲ 半井のいせ

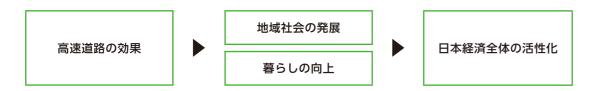
	江の石里
1956	日本道路公団が発足
1960	京葉道路 一之江出入口〜船橋IC開通 翌年日本初の自動車専用道路となる
1971	北海道初の高速道路(道央道 北広島IC~千歳IC、札樽道 小樽IC~札幌西IC)開通
1985	関越道 全線開通
1987	東北道 全線開通
1988	北陸道 全線開通
1997	東京湾アクアライン 開通
1999	上信越道 全線開通
2001	ETCサービスを開始

2005	日本道路公団が民営化し、東日本高速道路株式会社が発足
2006	ブランドネームを「NEXCO東日本」とする
2008	商業施設のフラッグシップブランド「Pasar (パサール) 幕張」がオープン
2011	東日本大震災が発生し、当社管内の高速道路も大きく被災
2015	常磐道 全線開通/高速道路リニューアルプロジェクト着手
2017	圏央道 境古河IC~つくば中央IC 開通 圏央道で東名高速~東関東道がつながる
2018	外環道 三郷南IC~高谷JCT 開通 外環道で関越道~東関東道がつながる
2019	インド現地法人設立/東日本最大級のサービスエリア [Pasar (パサール) 蓮田] がオープン
2020	「NEXCO東日本 総合技術センター」運用開始
2021	次世代高速道路の目指す姿(構想)の発表

#### Mission Statement 企業理念

#### グループ経営理念

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支 え、日本経済全体の活性化に貢献します。



#### グループ経営ビジョン

NEXCO東日本グループは、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、あらゆる ステークホルダーに貢献する企業として成長します。



#### グループ経営方針

- お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、経営資源を最適に活用することにより、健全なグループ経営を行うとともに、的確 な企業情報の発信を行います。
- 終わりなき効率化を追求し、技術とノウハウを発揮した事業により、社会の発展を支えます。
- グループ社員が健康でやりがいを持って働ける環境を整え、社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精 神を大切にします。
- CSR経営を推進し、ステークホルダーにとどける価値とグループ全体の企業価値を高め、持続可能な社会の実現 に貢献します。

# Corporate Social Responsibility NEXCO東日本グループのCSR

#### NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿

# CSRキーワード 「地域をつなぎ、地域とつながる」

NEXCO東日本グループは、CSR経営の指針とし て、「NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿」を右 図のとおり定め、「地域をつなぎ、地域とつながる」を キーワードに、持続可能な社会の実現を目指したCSR の取組みを進めています。

NEXCO東日本グループの事業活動そのものが企 業の社会的責任を果たすことにつながると考え、これ からも社会の中の会社という考えのもと、持続可能な 社会の発展に貢献していきます。

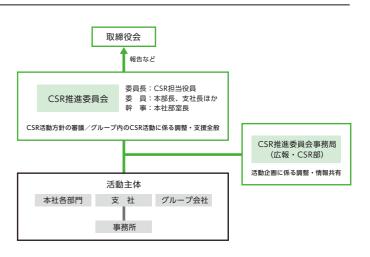


#### CSR推進体制

CSR担当役員を委員長とするCSR推進委員会に おいて、活動の方針や課題を審議し、活動の推進 体制を築いています。

また、当社は「国連グローバル・コンパクト」に 加入しており、国連グローバル・コンパクトに定 める人権、労働、環境、腐敗防 **WE SUPPORT** 止の4分野10原則を支持して います。





#### SDGs達成への貢献

NEXCO東日本グループは、国連が策定した「持続可能な開発目標(SDGs)」を支持し、高速道路事業を通じて社会 課題の解決を推進することで、世界の持続可能な発展を目指します。詳細は13~14ページをご参照ください。











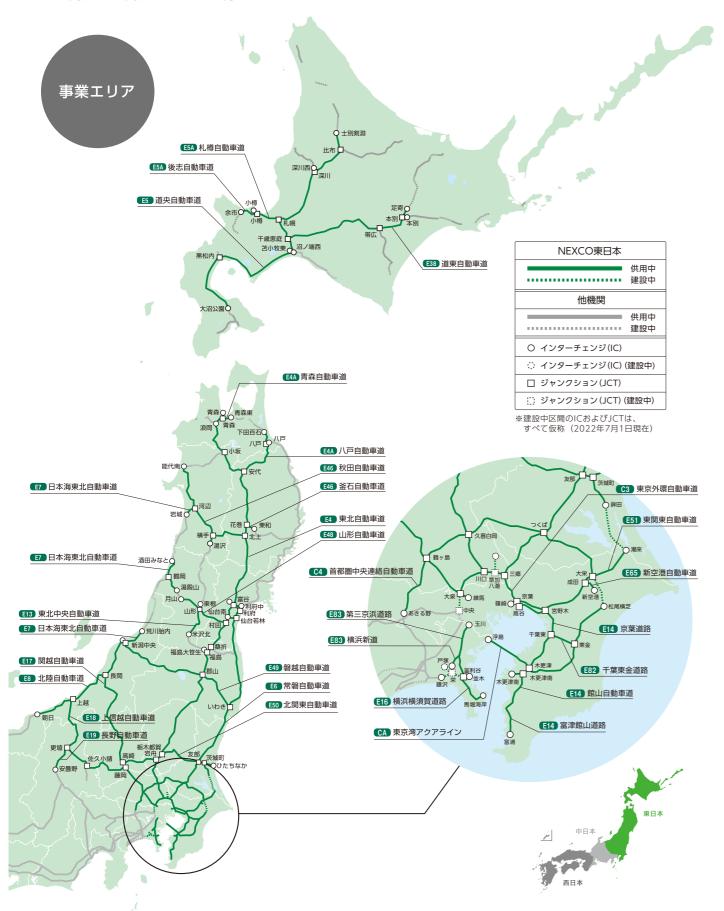


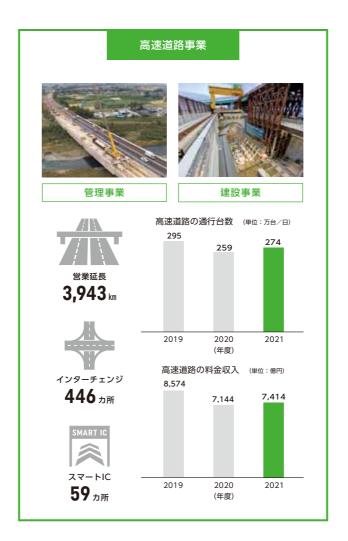


NEXCO東日本グループが事業を通じて貢献する主要なSDGs

## Business Details NEXCO東日本グループの事業

NEXCO東日本グループは、東日本地域における高速道路の管理事業、建設事業、サービスエリア事業および高速道路関連ビジネスを行っています。







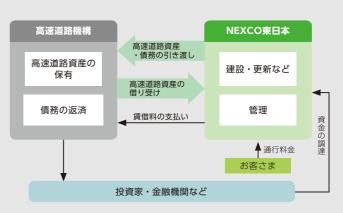
# 高速道路事業の枠組み

1956年に設立された日本道路公団は、他の道路関係公団とともに民営化され、 2005年10月1日に、高速道路会社6社および独立行政法人日本高速道路保有・債務 返済機構(以下、「高速道路機構」)が誕生しました。



当社は、東日本地域において高速道路の建設・更新事業を行い、高速道路機構に資産と債務を引き渡すとともに、高速道路機構から借り受けた高速道路資産の管理運営をすることによって、高速道路機構へ高速道路資産賃借料(以下、「賃借料」)を支払っています。

高速道路事業では、高速道路の料金設定にあたって利潤を含まないこととなっています。通行料金収入は、高速道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに、高速道路機構への賃借料を通じて債務の返済にあてています。



# TOP MESSAGE

NEXCO東日本の価値創造



#### 高速道路を取り巻く経営環境とその役割

2020年初頭から約2年半におよぶ新型コロナウイルス 感染症の影響により、国民のライフスタイルは大きく様 変わりしました。

その影響は当社グループ事業にとっても例外ではなく、行動制限や移動の自粛などにより小型車を中心に交通量が減少するなど他の交通インフラ同様、経営環境は大きく変化しました。2021年度の交通量は2020年度対比で5.8%増加したものの、2019年度対比では7.3%減少しており、コロナ禍前の水準までは回復していません。

しかし、このように社会経済活動が不安定な状況下に あっても、高速道路が人やモノの流れを支える重要な社 会基盤の一つであることは変わらないと考えています。

#### 安全・安心・快適・便利な高速道路空間の持続的な提供

当社グループは「お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。」を経営方針の最初に掲げており、その実現のためにグループ社員一人ひとりが、日々業務に精励しています。

最近では、本年3月16日深夜に最大震度6強を観測した福島県沖を震源とする地震で、東北道(下り)国見IC~白石IC間に最長100mのひび割れが発生しましたが、翌17日15:30には応急復旧工事を完了し、通行止めを解除しました。

このような災害発生時に迅速かつ的確な対応を可能と

しているのは、2011年3月の東日本大震災をはじめ過去の様々な大規模災害における道路復旧、復興支援から培われた知見、技術を蓄積し、グループ社員が一丸となって「一刻も早く復旧させなければならない」という強い使命感をもって励んでいるからであると考えています。

引き続き、災害に強い道路づくりを進めるとともに、関係機関と連携し、訓練などを通じて災害への備えを行うとともに、こうしたマインドや技術を次世代にもしっかり継承してまいります。

2021年には、中期経営計画(2021年度~2025年度)を策定し、今後10~20年程度先の内部・外部環境の変化を想定したうえで、6つの基本方針のもと5年間で取り組むべき主要重点計画を定めました。

その一つがインフラ老朽化対策です。高速道路の一部 区間では開通から40~50年が経過しており、防災・減災、 国土強靭化の面でも適切な対策が喫緊の課題となっています。

このため2015年度から橋梁の床版取替やトンネル補強などの道路構造物の大規模更新・修繕事業(高速道路リニューアルプロジェクト)を展開しています。今後の対象区間には首都圏の重交通路線も含まれるため、プレキャスト工法やコンクリート製防護柵を専用車両で自在に移動させる移動式防護柵(ロードジッパーシステム)などの新技術を活用することにより、より一層効率的な施工を行いながら、円滑な交通流の確保に努めてまいります。

このような高速道路機能の持続的な維持のほか、地域 活性化などの観点から高速道路ネットワークの更なる整 備や機能強化が必要です。

当社グループは2005年10月の民営化以降も約605km の開通により高速道路ネットワークを拡充し、地域社会の発展や暮らしの向上を支えてまいりました。当社管内の主要な地域間を結ぶ高速道路については、圏央道、東京外環道などの首都圏環状道路を中心にミッシングリンクの解消を図るとともに、暫定2車線区間における渋滞緩和、安全性の更なる向上などを目的とした4車線化事業および付加車線設置事業を圏央道(久喜白岡JCT~大栄JCT)などで順次展開していきます。

また、東京外環道建設工事における陥没・空洞事故の対応につきましては、今後も住民の皆さま方の不安解消を 最優先に会社を挙げて取り組み、信頼の回復に誠心誠意 努めてまいります。

#### 新たな未来社会に向けた新しい価値の創造

当社グループでは、事業を効率的に進めるためICTやロボティクスなどの最先端のテクノロジーを駆使したSMH (スマートメンテナンスハイウェイ)やi-Constructionなどの支援ツールを活用しています。

さらに、新たな未来社会に向けた新しい価値を創造し、 ステークホルダーの皆さまにお届けするため大きく2つ の取組みをスタートさせたところです。

一つ目は「moVision(モビジョン)」の推進です。

これは、本格的な自動運転社会の到来が迫っているなかで、高速道路機能の高度化と社会課題の解決に向けた新たなモビリティサービスを提供することを目的に、2021年4月に取りまとめた「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)」の愛称です。

この構想は、走行位置に応じて行先方向の道路交通状況をアプリで配信する「次世代ハイウェイラジオ」や準天頂衛星を活用した「除雪車運転支援」など試行段階のプロジェクト、自動運転車両やコネクテッドカーの普及に対応した「自動運転専用レーン」や「自動運転対応標識」など未来を見据えて実証実験の計画段階に入ったプロジェクトなど31項目の重点プロジェクトから構成されています。

自動運転技術の進展により、自動車産業を取り巻く社会環境が大きく変革しようとしている今日において、高速道路というハード面での対応が今後の日本経済の成長のためにも急務であると認識しています。

二つ目は「新たなパートナーシップによる事業開発と 人材育成」の推進です。

そのなかで、二つの具体的な取組みを行っています。

まず、スタートアップ企業など幅広い方々と連携し、新しい高速道路サービスの創造や地域活性化、様々な社会課題の解決に繋がる新事業を共創・社会実装することを目的に、2021年7月に設立した「ドラぷらイノベーションラボ」です。

これは高速道路会社初のアクセラレータープログラムの試みであり、同年9月1日~10月31日までの2カ月間に応募を募ったところ84件のご提案をいただきました。そのなかから将来性やフィージビリティなどを勘案、審査のうえ、5社のご提案を採択し、同年12月から実証実験を開始しています。

もう一つが、東日本大震災の復興支援として、当社グループとの結びつきが強い東北地域の活性化やそれを将来担う人材の育成を目的に、当社支援のもと、本年4月に設立された「仙台事業構想大学院」です。

この大学院を活用することにより、新しい事業を構想し、実践できる人材を育成して、新たなビジネスチャンスを創出するとともに、地域貢献へ繋げていくことを目指していきます。

#### 企業としてのサスティナビリティ

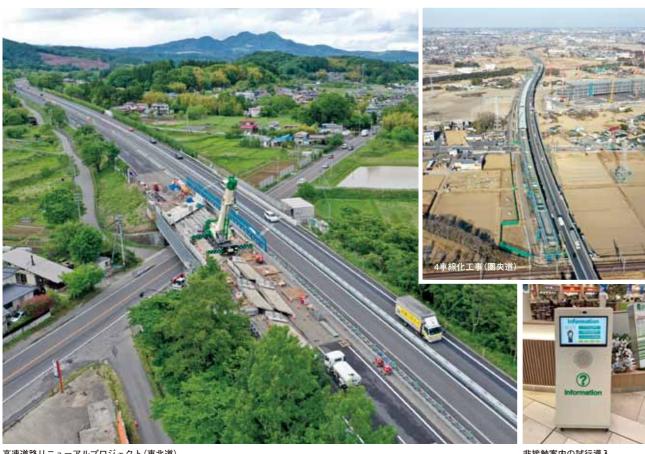
当社グループが、これからもずっとお客さまに安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供しつづける企業として存続していくためには、時代の変化に敏感になり、地域や国内レベルに留まらず世界共通の課題や潮流にも対応していく必要があります。

業務の高度化・効率化・集約化を目指した経営の実現、ESGに関する取組みの推進などにより、インフラ老朽化、少子高齢化、ポストコロナ、カーボンニュートラル、ダイバーシティ&インクルージョン、世界情勢の混乱による物価高騰など、経済活動に影響を与えるさまざまな課題に対応してまいります。

なかでもSDGsは、全世界共通の課題を解決するために設定された17の目標ツールですが、中期経営計画では、当社グループの高速道路事業や関連事業と密接に関連する6つの目標(3、8、9、11、13、17番)を主要課題として、その達成に貢献することを目指しています。

翌2023年度は中期経営計画が折り返し地点を迎えます。私がトップマネジメントを発揮し、今後より一層強力に推し進める取組み、社会経済情勢の変化に応じて柔軟に対応する取組みなどをしっかり判断したうえ、あらゆるステークホルダーの皆さまの信頼と期待に応えられるよう当社グループの成長に貢献してまいります。

# SDGsの達成に貢献し、 新たな未来社会に向け変革していく期間



高速道路リニューアルプロジェクト(東北道)

非接触案内の試行導入 (東北道 蓮田SA(上り線))



取締役 兼 常務執行役員 経営企画本部長

伊勢田 敏

NEXCO東日本グループは、2021年度から2025年度までの5年 間を「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向け変革していく期 間」と位置づけた『中期経営計画(2021年度~2025年度)』を2021 年に策定しました。

現在、当社グループはこの中期経営計画に基づき、当社グループの 社会的使命を果たすため、「安全・安心で自動運転等のイノベーショ ンにも対応した快適な高速道路の実現」、「老朽化や災害に対する高 速道路インフラの信頼性の飛躍的向上」、「高速道路の整備・強化と4 車線化の推進によるネットワーク機能の充実」、「多様なお客さまの ニーズを踏まえた使いやすさの追求」、「ポストコロナ時代における グループ全体の経営力の強化」および「新たな日常に対応した誰もが 生き生きと働けるワークスタイルの実現」に取り組んでいます。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すというSDGsの 達成に貢献できるよう、グループ経営ビジョンで掲げた「つなぐ」価 値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業グループと して成長することを目指し、NEXCO東日本グループー体となって 計画を推進してまいります。

## 6つの基本方針

2022年度 2023年度 2025年度 2021年度 2024年度

#### 基本方針1

安全・安心で自動運転等のイノベーションにも対応した 快適な高速道路の実現

#### 基本方針2

老朽化や災害に対する高速道路インフラの信頼性の飛躍的向上

#### 基本方針3

高速道路の整備・強化と4車線化の推進によるネットワーク機能の充実

#### 基本方針4

多様なお客さまのニーズを踏まえた使いやすさの追求

#### 基本方針5

ポストコロナ時代におけるグループ全体の経営力の強化

#### 基本方針6

新たな日常に対応した誰もが生き生きと働けるワークスタイルの実現

# 3 すべての人に 健康と福祉を

2030年度











#### KPI(Key Performance Indicators/主要業績指標)

番号	主要業績指標(KPI)	2022年度	2025年度	備考
1	総合顧客満足度	3.7ポイント	3.8ポイント	総合CS (満点5点)
2	本線渋滞損失時間	779万台·時間	770万台·時間	暦年値
3	快適走行路面率	95%	95%	
4	売上高営業利益率	3.1%	5.8%	SA·PA事業 (連結)
5	年間総実労働時間	1,965時間	1,950時間	

#### 6つの基本方針と重点計画

#### 基本方針1

#### 安全・安心で 自動運転等のイノベーションにも対応した 快適な高速道路の実現

- 事故対策による安全性の向上、渋滞対策等による 定時性の確保を推進します。
- 自動運転、トラック隊列走行等のイノベーション に対応した道路空間を整備します。
- 管理の高度化・効率化を図り、快適な高速道路の実 現に向けて取り組みます。













#### 基本方針3

#### 高速道路の整備・強化と4車線化の推進による ネットワーク機能の充実

- 持続可能な社会のため高速道路ネットワークの安 全・安心・着実な整備・強化を実施します。
- 新たなICT技術の積極的な活用等により、生産性、 インフラLCC(ライフサイクルコスト)を考慮した 事業を推進します。













#### 基本方針5

#### ポストコロナ時代における グループ全体の経営力の強化

- グループ全体の企業価値向上に取り組みます。
- 展開している収益事業の強化と新たな収益事業の 推進に取り組みます。
- 企業・事業活動を通じて環境保全等に取り組みます。

























Q

#### 基本方針2

#### 老朽化や災害に対する 高速道路インフラの信頼性の飛躍的向上

- SMHの更なる進化による維持管理業務の高度化・ 効率化を図り、適切な老朽化対策を実施します。
- 激甚化・頻発化する災害に対応した強靭な高速道 路を構築します。
- 高速道路インフラの信頼性の向上を支える新たな 取組みを推進します。















#### 基本方針4

#### 多様なお客さまのニーズを踏まえた 使いやすさの追求

- 多様なお客さまが使いやすく、快適・便利を感じる ことができるサービスを展開します。
- 地域社会の活性化や観光振興につながる事業活動 を推進します。















#### 基本方針6

#### 新たな日常に対応した 誰もが生き生きと働けるワークスタイルの実現

- 一層のデジタル化の推進により、新たな日常に向 けた業務基盤を確立し、業務の効率化を図ります。
- グループ社員がやりがいを持ち、安心して健康的 に働ける職場環境を整備し、生産性の向上を推進







#### 財務計画

#### ■ 高速道路事業

#### 【損益計画】

高速道路機構との協定に基づき、お客さまか らいただく料金収入から、高速道路機構が保有 する債務の返済に充てる賃借料の支払いおよ び必要な高速道路管理を着実に行います。

#### 【投資計画】

機構資産\*1については高速道路機構との協 定に基づき、外環道(大泉JCT~中央JCT)、横 浜環状南線(釜利谷JCT~戸塚)、常磐道4車線 化事業などの新設・改築事業および高速道路リ ニューアルプロジェクトなどの修繕事業で約2 兆5,000億円の投資を計画しています。

会社資産については、料金収受機械、ETC設 備の整備、老朽化更新などで約2,500億円の投 資を計画しています。

2021年度 ~2025年度累計

¥

賃借料

料金収入

約3兆6,000億円

約2兆6,000億円

約1兆円 管理費など

2021年度 ~2025年度累計

機構資産\*1

約2兆5,000億円

約2,500億円 会社資産

※1 機構資産とは、完成後に高速道路機構へ引き渡すこととしている道路資産のこと

## ■ 関連事業

#### 【損益計画】

経営資源の最適な活用により、お客さま サービスと企業価値を向上させるとともに更 なる効率化により収益力を強化し、最終年度 (2025年度)の営業利益は約21億円を目標に します。

#### 【投資計画】

商業施設の新設・増改築・老朽化更新などの 関連事業資産およびシステムのリプレースな どの事業共用資産に約550億円の投資を計画 しています。

2025年度計画



約21億円 営業利益(連結)

2021年度 ~2025年度累計



会社資産

約550億円

※民営化と高速道路事業のスキームの概要はP6を参照ください。

「中期経営計画の概要」の詳細はこちら https://www.e-nexco.co.jp/company/strategy/mid\_term/



※本表は、中期経営計画(2021~2025年度)における主要重点計画に対してSDGs169ターゲットを紐づけたものであるため、その他の恒常的な取組みは含まれていません。 ※本マトリクスは、笹谷 秀光氏の整理学に基づき整備しました。

\* \*

★: NEXCO東日本グループが事業を通じて貢献する主要なSDGs

本表は、NEXCO東日本グループの中期経営計画(2021~2025年度)における主要重点計画に対してSDGs169ターゲットをマッピ
ングしたものです。各ターゲットの達成に貢献する事業活動を含む計画に対し、幅広く付番しています。

	日本グループの中期経営計画 (2021〜2025年度) における主要重点計画に対して SDGs169ターゲットをマッピ 各ターゲットの達成に貢献する事業活動を含む計画に対し、幅広く付番しています。	1 555 <b>Ā</b> V <b>Ē T</b> A	2 mmt ((((	3 tataar -W-	4 Bost-Res actic	5 5255-888 \$ 880,225	6 seescher	7 star-adder	8 market	9 decement	10 APBORER	11 desirient	12 OCERE COO	13 BREBC	14 ************************************	15 tinatives 16 tince 15 tince	17 (m)
基本方針1	安全・安心で自動運転等のイノベーションにも対応した快適な高速道路の実現																
	*事故多発地点、暫定二車線区間における新たな技術を活用した安全対策			3.6						9.1		11.2					
安心・安全	*首都圏等の交通集中箇所におけるハード・ソフト対策(関越道、京葉道路等)、料金施策による渋滞対策			3.9						9.1		11.6	12.4				
女心*女王	* 交通規制の最小化、減災対策及び事故防止につながる研究、技術開発			3.6						9.1		11.2 11.b					
	*ドライバーストレス軽減を目的とした本線速度規制引上げ (120km /h) への対応									9.1							
	*自動運転に対応した道路側整備の方針を策定し、モデル事業を試行運用								8.2	9.1 9.5							17.17
イノベーション への対応	*隊列走行・ダブル連結トラックへの支援環境を整備(本線合流部安全対策等)								8.2	9.1 9.5							17.17
	*給油·給電施設等の効率的な供給体制を整備							7.3		9.1				13.2			
高度化·効率化	*遠隔監視システムやAI、センサー等の新技術を活用した道路管理の高度化								8.2	9.1 9.5				13.1			
同反化"劝举化	*遠隔収受など料金管理業務の高度化・効率化及びETC専用化に向けた取組み			3.3					8.2	9.1							
基本方針2	老朽化や災害に対する高速道路インフラの信頼性の飛躍的向上																
	*SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)の定着及び深化を図るとともに適用領域を拡大し、遠隔点検のための設備整備などにより、維持管理業務の高度化及び生産性を向上								8.2	9.1 9.5	5						17.17
+V +T // ++ **	*資産健全化のための老朽化対策及び本格的な予防保全								8.4	9.1		11.2	12.2				
老朽化対策	*大型車両の通行の適正化により、車両制限令違反車両を削減及び橋梁健全率を向上									9.1						16.	.3
	*リニューアルプロジェクト推進のための技術基準等を整備								8.2	9.1 9.5	5						
	*構造物の耐震性能を向上させるとともに、防災拠点を整備、管制センター機能を強化及び組織の災害対応力を向上									9.1		11.5 11.b		13.1 13.3			
((( <del> </del>   + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 +	*風水害対策として機能強化と基準の最適化を図り、通行止めを最小化									9.1		11.5 11.b		13.1 13.3			
災害対応	** 大雪時の対策強化とICT技術等による高度化・効率化した雪氷作業システムの構築により、通行止めリスクの最小化を図るとともに、冬期の通行止めによる車両滞留事象の発生を抑制				-	-			8.2	9.1 9.5	;	11.5 11.b		13.1 13.3			17.17
	*災害復旧事例のデータベース構築により災害対応を迅速化									9.1		11.5 11.b		13.1 13.3			
新技術の活用・展開	*RZS(ロードジッパーシステム)など高速道路関連新技術を活用・展開			3.6					8.2 8.8	9.1		11.2					
基本方針3	高速道路の整備・強化と4車線化の推進によるネットワーク機能の充実																
	* 首都圏環状道路を中心とした高速道路ネットワーク強化を検討及び工事の安全を確保しつつ整備を推進(圏央道、横浜環状南線、東関東道、東京外環道、東埼玉道路など)			3.8					8.9	9.1		11.2 11.a					
ネットワーク機能				3.8	·	1		-	8.9	9.1		11.2 11.a					
強化						-			8.9	9.1		11.2 11.a					
				3.8	-	1			8.9	9.1		11.2 11.a					
新技術による	*i-Constructionを推進しSMHとの連携を図るとともに、Al/IoT技術による工事管理の効率化・安全管理を強化								8.2 8.4	9.1 9.5	;		12.2				
高速道路整備						·			ļ	9.1 9.5							
基本方針4	多様なお客さまニーズを踏まえた使いやすさの追求																
	*お客さまの属性の変化や新たな生活様式に対応したSA・PA商業施設のサービス機能を強化、拡充		2.1				6.2		8.9	9.1	10.2	11.2 11.7 11.a					
						1				9.1		11.2 11.7					
快適・便利				3.6		-			8.2	9.1		11.2 11.6					
						1			8.2	9.1		11.2					
	* 高速道路を活用し、地域連携や新たな付加価値を創出				4.7				8.9								17.17
地域社会への貢献	*インバウンドなど多様な旅行者が訪れる地域の観光振興を通じた地域活性化への貢献					-			8.9								17.17
基本方針5	ポストコロナ時代におけるグループ全体の経営力の強化																
T-1-75210	* 持続可能な社会の実現に向けたSDGsの達成への貢献									0							
				-	·				ļ	9.1	·	· [				16.	7
	*技術力・ノウハウを活かした持続可能な国際協力				4.4	-				9.1 9.a							17.16 17.1
	*グループ社員の能力開発及び人材育成のための研修等				4.4	5.1			8.5	311 3.0	10.2						
経営力の強化	*SA・PA事業における社会環境の変化に対応できる収益基盤を構築					3.1		-	8.2		10.2						
	* 外部とのアライアンス等により新たな収益の柱となる事業を組成								8.2								17.17
	**インド事業の継続発展及びコンサルティング業務・アドバイザリー業務の実施を推進	1.5	2.1		4.4					9.1 9.a							17.17
	* ・	1.5	Z.1		4.4				ļ	9.1 9.a							17.16
	* 村就可能な新たな海外事業を快ぎ、試行美施 * 低燃料、低排出機器等の積極活用及び消費エネルギーの最小化			3.9	4.4			7.2 7.3		9.1 9.4		116	12.2 12.5	12.2			17.10
環境保全				3.9		-	6.2	7.2 7.3		9.4			12.2 12.5		14.1	15.1	
基本方針6	*2050年二酸化炭素実質排出ゼロなどの環境方針に基づいた環境マネジメントシステム(ISO14001)の推進及び認証継続実施 新たな日常に対応した業もが生きとも、例けるロークスタイルの実現			5.9			6.3	7.2 7.3		5.4		11.0	12.2 12.4 12.3	13.2	14.1	13.1	
<b>───────────────────────────────</b>	新たな日常に対応した誰もが生き生きと働けるワークスタイルの実現  * 全ての業務プロセスのデジタル化。スマートデバイスを活用した業務スタイルへの変換及び新しい働き方にあった環境整備								8.2 8.5								
₩ 34 th at 1/2																	
業務効率化	*押印、決裁、文書保管のあり方等業務の効率化及びテレワーク等新たなワークススタイルの推進    ***********************************								8.2 8.5								
	*新たな調達管理システムの導入及び調達手続きフローの見直しによる働き方改革の推進、DX(デジタルトランスフォーメーション)の実現			2.4					8.2 8.5								
生き生きと働ける職場環境	*長時間労働の削減及び年次休暇取得の更なる推進により年間総実労働時間を削減			3.4		5.5			8.5								
	*更なる安全意識の向上と工事中事故削減への取組みなど労働安全衛生を推進				4.4				8.8								

# 新しい未来社会に向けたNEXCO東日本グループの取組み

激甚化・頻発化する自然災害や進行する高速道路の老朽化などへの対応、道路ネットワークの機能強化など、 これまで高速道路が果たしてきた役割をこれからも持続的に果たしていくため、着実に事業を進めるととも に、社会情勢の変化に対応した高度なモビリティサービス提供の方向性もとりまとめています。

今後、新たなパートナーシップの構築による事業開発や人材育成にも努め、新しい未来社会に向けて、 NEXCO東日本グループをあげて取り組んでまいります。

01

# 防災・減災、国土強靭化に向けて

~いままでもこれからも、高速道路を通じて社会を支えるために~

## 防災・減災に向けた対策

#### ◎災害に強い道路づくり

災害に強い道路づくりとして、大規模地震発生時に被 災後速やかに機能を回復するため、段差防止構造、落橋防 止構造・横変位拘束構造の設置、橋脚補強や支承部の補強 などの橋梁の耐震補強や、盛土のり面の崩落を防止する ための盛土内滞留水排除対策などを推進しています。

#### ◎関係機関との連携強化

災害への対応は、ハード面のみならず関係機関との連携も欠かせません。大規模災害発生時に緊急交通路を確保し、被災地の復旧復興活動等に貢献するために、警察や消防といった関係機関と合同訓練などを実施しています。また、各インフラ事業者とは災害時連携協定を締結し、更なる連携強化を図っています。

#### ◎災害時の早期復旧

#### (切土のり面崩壊に伴う復旧活動事例)

2021年7月3日に横浜横須賀道路の逗子ICにおいて、

大雨に起因する切土のり面の崩落が発生し、土砂がランプに流出したことから逗子ICが閉鎖となりました。切土のり面上部には住宅地が存在することから、住民の安全確保を最優先に考え、観測機器によるリアルタイム監視など慎重に崩落土砂の撤去を行い、翌日には緊急交通路を確保し、2021年9月30日に逗子ICの利用を再開しました。

#### (福島県沖を震源とした地震における復旧活動の事例)

2022年3月16日深夜に発生した福島県沖を震源とした地震では、最大震度6強が観測され福島県内の常磐道や東北道において、路面のクラックや段差、橋梁の伸縮装置などの損傷が発生し、震災直後は約830㎞の通行止めを実施しました。損傷した舗装路面などの応急補修を迅速に行い、地震発生翌日の3月17日15時30分に東北道全区間の通行止めを解除し、3月18日12時00分に常磐道全区間の通行止めを解除しました。

#### [ 災害に強い道路づくり]

15 E-NEXCO Report 2022



橋脚補強後

**蛍前** 

#### 応急復旧作業の様子

#### [ 関係機関との連携強化]



防災ヘリコプターによる移動訓練 (酒々井PA場外)



携帯通信事業者との連携訓練

#### [ 災害時の早期復旧]





横浜横須賀道路 逗子IC 大雨に起因する切土のり面崩落後(左)と利用再開後(右)の様子







作業の様子

#### 高速道路リニューアルプロジェクトの推進



開通から50年を超える高速道路の割合



#### ◎老朽化の現状

NEXCO東日本グループが管理する高速道路は、開通から50年を超える道路の割合が2030年には2割に達し、2050年には7割を超える見込みです。

老朽化を進行させる主な原因として、大型車交通量の 増加や凍結防止剤の影響などがあげられ、橋やトンネル などの道路構造物は厳しい環境下におかれており、著し い変状が発生しつつある状況となっています。

#### ◎事業の推進状況

高速道路が引き続き経済・社会・医療・防災などの社会 基盤を支える日本の大動脈として役割を果たしていくた めに、道路構造物の大規模更新・修繕事業について2015 年3月25日に国土交通大臣から道路整備特別措置法に基 づき事業許可を受け、2015年度より着手しました。

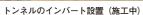
各高速道路会社で共通する「高速道路リニューアルプロジェクト」の呼称やロゴマークを使用するなどの広報に努め、この大規模更新・修繕事業の必要性を正確かつ分かりやすくお客さまにご理解いただけるよう努めています。

「高速道路リニューアルプロジェクト」は、今までは比較的交通量の少ない路線を中心に事業を推進していますが、今年より横浜横須賀道路の釜利谷第二高架橋の床版取替に着手し、今後、首都圏においても本格化します。これまでも、渋滞対策や安全対策等の取組みは行っていますが、各地域において通行止めや対面通行など大規模な交通規制を伴う工事がさらに増加することが予想されます。引き続き、新技術の採用や移動式防護柵(ロードジッパーシステム)を活用した柔軟な交通運用などの渋滞対策により、事業実施に伴うお客さまへの影響を最小限にすべく努めていきます。



橋梁の床版取替







トンネルのインバート設置(施工後)

#### [「高速道路リニューアルプロジェクト」における工事内容]



#### 床版※1の取替

耐久性の高いコンクリート床版へ取り替えます。

※1 床版とは橋梁を通行する自動車などを直接支え、その荷重を桁へ伝達させる構造部材のこと



床板取替工事の実例



#### 床版防水層施工

コンクリート床版の劣化を防止する ため、防水層に高性能な床版防水を 施工します。



## 桁の補強 耐久性を高めるために桁に補強部材を

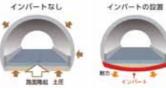
■ 耐久性を高めるために桁に補強部 取り付けます。



#### インバート\*2設置

トンネル周辺から過度な力がかかっているトンネルに対してより強い構造にするため、インバートを設置し、安定性を向上させます。

※2 インバートとは路面の下部に半円形のコンクリートを設置 し、トンネル形状を円形にすることで、変形を防止するもの



対策工事イメージ



#### グラウンドアンカー<sup>※3</sup>施工

切土のり面の長期安定性を確保するために、防食性能 が高いグラウンドアンカーを施工します。

※3 グラウンドアンカーとは切土のり面が変形しようとする力を、高強度の鋼棒などを打ち込むことで安定させるもの



対策工事イメージ

#### 1.橋梁床版取替工事一覧 (2022年度)

. 倘沒	保床版取替工事一覧(2022年度)				
番号	工事名	橋梁名	交通規制区間	交通規制種別	交通規制予定時期
1	道央自動車道 夕張川橋(上り線)床版取替工事	夕張川橋(上り線)	江別東IC~岩見沢IC(上下線)	対面通行規制	2022年5月~7月/2022年8月~10月
2	札樽自動車道 神威橋床版取替工事	神威橋(上り線)	小樽IC~銭函IC(上下線)	対面通行規制	2022年8月~10月
3	東北自動車道 平川橋床版取替工事	平川橋(下り線)	・ 碇ヶ関IC〜大鰐弘前IC(上下線)	対面通行規制	2022年5~10月
4	東北自動車道 上平川橋(下り線)床版取替工事	上平川橋・不動川橋 (下り線)	Wが関に~人駒知門に(エド豚)	刈山畑11 元前	2022#5~10H
(5)	東北自動車道 陣場橋床版修繕工事	陣場橋(上り線)	鹿角八幡平IC~小坂IC(上下線)	対面通行規制	2022年8~10月
	去水内彩主学 泰丁川泰庄吃助鞋子表	鹿妻堰橋(上り線)	成団主に は団に(1 下位)	対面通行規制	2022年3~4月
6	東北自動車道 零石川橋床版取替工事	雫石川橋(上り線)	· 盛岡南IC~盛岡IC(上下線)	対面通行規制	2022年5~8月
(7)	主业内科主义 AD操作汇取益于表	下川原橋 (ランプ)	盛岡IC	片側交互通行規制	2022年10~11月
0	東北自動車道 仲田橋床版取替工事	滝名川橋(上り線)	花巻IC~紫波IC(上下線)	対面通行規制	2022年10~11月
	本业内科主义 用刀川操作证助鞋子表	松ノ木沢橋(上り線)	亚克劳尔区 北河区(1 五倍)	対面通行規制	2022年5~6月
8	東北自動車道 豊沢川橋床版取替工事	松ノ木沢橋(下り線)	平泉前沢IC~水沢IC(上下線)	対面通行規制	2022年8~9月
	主北方弘士学 亚川泰大明的建了市	夏川橋・地田川橋(上り線)	##@APIC BIC/LTG\	サエヌに担加	2022年5~7月
9	東北自動車道 夏川橋床版取替工事	夏川橋・地田川橋(下り線)	者柳金成IC~一関IC(上下線)	対面通行規制	2022年10~12月
	主北方系主义 参河泰方亚加非丁州	越河橋(下り線)		サエヌに担加	2022年5~7月
10	東北自動車道 越河橋床版取替工事	越河橋(上り線)	国見IC~白石IC(上下線)	対面通行規制	2022年9~11月
11)	東北自動車道 第一隈戸川橋床版取替工事	馬番川橋(下り線)	郡山南IC~郡山IC(上下線)	対面通行規制	2022年5~6月
		中曽根川橋(上り線)	麻績IC~更埴IC(上り線)	昼夜連続車線規制	2022年5~7月
12	長野自動車道 中曽根川橋床版取替工事	中曽根川橋(下り線)	麻績IC~更埴IC (下り線)	昼夜連続車線規制	2022年8~11月
(3)	横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋床版取替工事	釜利谷第二高架橋(上下線)	釜利谷JCT~朝比奈IC(上下線)	昼夜連続車線規制	2022年2~10月
14)	北陸自動車道 栄橋床版取替工事	栄橋·貝喰川橋(上下線)	中之島見附IC~三条燕IC(上下線)	昼夜連続車線規制	2022年4~11月
(15)	関越自動車道 木沢川橋床版取替工事	木沢川橋(上り線)	堀之内IC~越後川口IC(上下線)	対面通行規制	2022年8~11月
16	関越自動車道 中之島橋床版取替工事	中之島橋(下り線)	塩沢石打IC~六日町IC(上下線)	対面通行規制	2022年5~11月

#### 2.トンネルインバート設置工事一覧(2022年度)

番号	工事名	トンネル名	交通規制区間	交通規制種別	交通規制予定時期
17)	上信越自動車道 高岩山トンネル補強工事	高岩山トンネル(下り線)	松井田妙義IC~碓氷軽井沢IC(下り線)	昼夜連続車線規制	2022年3~12月
18	長野自動車道 一本松トンネル補強工事	一本松トンネル(下り線)	麻績IC〜更埴IC(下り線)	昼夜連続車線規制	2022年5~7月
19	北陸自動車道 城山トンネル補強工事	城山トンネル (下り線)	朝日IC〜親不知IC(下り線)	昼夜連続車線規制	2022年4~10月
20	北陸自動車道 米山トンネル補強工事	米山トンネル(下り線)	柿崎IC~米山IC(上下線)	対面通行規制	2022年4~11月

<sup>※</sup> 交通規制、工事予定時期については、今後の関係機関協議等により変更する場合があります。

## 災害に強い高速道路ネットワークの構築

激甚化、頻繁化する災害への対応として、高速道路のミッシングリンクの解消および暫定2車線区間の4車線化を実施し、道路ネットワークの機能強化を進めています。こちらでは、首都圏環状道路を中心としたネットワークの整備状況をご紹介します。その他の区間は、P.49をご参照ください。

#### ◎ミッシングリンクの解消

首都圏では、2017年に圏央道 境古河IC~つくば中央ICが開通したことにより、東名高速から東関東道まで、2018年に外環道 三郷南IC~高谷JCTが開通し、関越道~東関東道までつながりました。

現在は、外環道(中央JCT~大泉JCT)・圏央道(釜利谷 JCT~戸塚IC、栄IC・JCT~藤沢IC)・圏央道(大栄JCT~松 尾横芝IC)などの整備を進めミッシングリンクを解消する ことで、時間信頼性の向上、地域経済の活性化、災害発生時 の緊急輸送路確保としての役割が期待されています。

#### ■ 横浜環状南線

横浜環状南線は首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の一部で、横浜横須賀道路の釜利谷JCTと国道1号線を結ぶ、延長約8.9kmの自動車専用道路です。現在、国土交通省とNEXCO東日本が共同して事業を進めています。

横浜環状南線の整備により、横浜港と首都圏内陸部との輸送時間の短縮や定時性の向上などによる 物流効率が良くなり、地域間の交流や沿線の企業進出など経済効果が見込まれます。

また、災害時に緊急輸送路としての役割や道路が寸断された場合の迂回路・代替輸送路としての役割を発揮すると考えられています。







#### [ 工事中の環境対策 ]

公田インターチェンジ部では安全対策の観点から、一般交通と工事用車両の交通を分離するため仮橋を設置し一般道(現道)を付替えて、その下で高速道路の建設を行っています。また、トンネル部(庄戸・桂台・公田笠間)では多くの住宅が密集する中で工事を実施するため、トンネル坑口部に防音ハウスを設置し、粉塵・騒音などによる周辺環境への影響に配慮しながら工事を進めています。



#### ◎ 暫定2車線区間の4車線化

時間信頼性の確保や事故防止、ネットワークの代替性 確保の観点から、計画的な4車線化を実施しています。

首都圏においては、圏央道(久喜白岡JCT〜大栄JCT) などの4車線化事業を進めており、高速道路ネットワークの機能強化に努めています。

# 東埼玉道路 草加八潮IC・JCT~浦和野田線IC 久喜白岡 「東関東道 瀬来IC~鉾田IC 「東田東道 瀬来IC~鉾田IC 「大栄」CT~松尾横芝IC 松尾横芝 「金利谷JCT~戸塚IC 栄IC・JCT~藤沢IC 東金 「東金IC・JCT~松尾横芝IC ※ 「東金 「大栄」CT~松尾横芝IC ※ 「東金 「大栄」CT~松尾横芝IC ※ 「東金 「大栄」CT~松尾横芝IC

#### [ 暫定2車線区間の効果]

渋滞による速度低下の緩和





大規模災害時の交通の確保



#### ■ 圏央道(久喜白岡JCT~大栄JCT)

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、都心から約40~60kmを環状に連絡する延長約300kmの自動車専用道路です。

現在、久喜白岡JCT~大栄JCT間の約92kmの4車線化について、NEXCO東日本が国土交通省と共同して事業を進めています。

当該区間の整備により、交通の円滑化や通行止めリスクが軽減し、物流の効率化による企業立地の更なる促進など地域経済の活性化に寄与します。





# 02

# 自動運転社会の実現を加速させる 次世代高速道路の目指す姿(構想)の推進

2021年4月28日に、高速道路機能・サービスの高度化と社会課題の解決に向けた新たなモビリティサービスを提供するために、『自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)』(以下、「構想」)をとりまとめ、次世代高速道路の目指す姿を実現するために31項目からなる重点プロジェクトを立ち上げました。

31項目の重点プロジェクトの具体化の検討については、順次進めているところですが、現在推進している構想のPR、先行的に試行導入している次世代ハイウェイラジオ、今後次世代高速道路の実現に向けて実施していく実証実験計画等について紹介します。

# 【 将来の目指す姿≪重点プロジェクト≫のイメージ 】 2030年 2030年 2040年 (ANTERNATION OF THE PROPERTY OF

#### ◎ 31項目の重点プロジェクトの概要

	重点プロジェクト名称	概要		重点プロジェクト名称	概要
1	次世代ハイウェイラジオ	走行位置に応じた行先方向の道路交通状況を配信	8	リアルタイム全線監視	カメラなどを活用し、高速道路の状態を常に監視
2	除雪車運転支援	準天頂衛星を活用した除雪車の運転支援	9	ドローン巡回	ドローンを活用した交通状況や道路状態の点検
3	プローブデータでの異常検知	車両からのプローブ情報により異常を早期に把握	10	高度過積載モニタリング	デジタル技術を活用し、監視や取り締まりを高度化
4	交通需要コントロール	混雑状況に応じて通行料金を柔軟に変動	11	大型車専用パーキング	大型車専用のパーキングエリアなどを整備
5	大容量通信設備	様々なデータの収集・配信用の通信設備を整備	12	予約制駐車マス	SA・PAなどに事前予約可能な駐車マスを整備
6	高度渋滞予測情報	AIなどを活用した高精度な渋滞予測の提供	13	スマートグリッド	高速道路の電力網をスマート化
7	自動運転車両の合流支援	本線走行車両の情報を合流車に共有してスムーズ な合流支援を促すシステムを整備	14	イノベーティブな モビリティサービス	他の交通手段との乗換可能なモビリティハブを 整備

# 構想のPR

#### ● 愛称およびロゴマークの作成

構想の具体化の検討・推進に合わせ、より皆さまに構想を広く知ってもらうことを目的に、愛称【moVision(モビジョン)】およびロゴマークを作成しました。

愛称の意味は、「Mobility」と「Vision」を組み合わせた 造語であり、ロゴマークは、未来へと向かう道を表現して います。

#### ● イメージ動画の作成

構想のコンセプトを明確化するために「203X 次世代 高速道路」としてイメージ動画を作成しました。

#### イメージ動画はこちら

https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/future/



#### [ロゴマークとイメージ動画(一部抜粋)]















	重点プロジェクト名称	概要		重点プロジェクト名称	概要
15	次世代燃料供給設備	ワイヤレス給電、水素ステーション設備などを整備	24	災害対応高度化	気象観測データや衛星画像を活用して、自然災 害情報を早期に把握
16	自動運転対応標識	自動運転車両の認識技術に対応した標識を整備	25	車線別・車種別運行管理	車種別の車線運用などにより、運行管理を高度化
17	遊休施設のコンパクトPA化	現在使われていない施設を駐車マスとして整備	26	次世代課金	走行経路を検知して料金を算出する次世代の料 金システムを導入
18	物流MaaS	ダブル連結車両や隊列走行の形成・解除拠点と なる物流中継拠点を整備	27	保全・補修の自動化	高速道路の保全や補修を行う車両を自動化
19	自動運転専用レーン	自動運転・隊列走行車両の専用レーンを整備	28	次世代交通規制	自動運転車両に対応したバーチャルな規制を実施
20	コンテンツ配信	自動運転中に車内で楽しめるコンテンツを配信	29	データ連携	高速道路で収集するデータを外部のデータと連携 し、情報提供を高度化
21	自動点検車両	点検車両を自動化し、効率的に点検を実施	30	除雪車自動制御	自動走行による除雪を実施
22	走行中給電	高速道路を走行しながら充電が可能な走行中ワ イヤレス給電できるレーンを整備	31	道路構造のスリム化	交通容量の向上により道路構造をスリム化
23	バレーパーキング	車両が自動で駐車マスに走行・停車するバレー パーキングを整備			

# 次世代ハイウェイラジオ

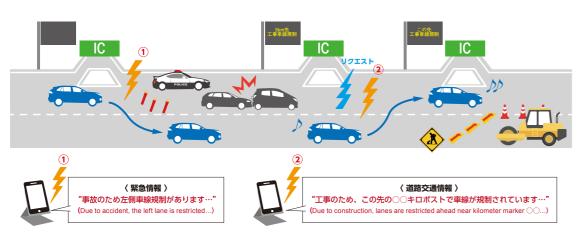
2020年10月29日に、高速道路の安全・安心の更なる向上を目指し、次世代ハイウェイラジオの取組みとして、「E-ハイラジ」アプリを開始しています。

「E-ハイラジ」アプリは、道路交通情報提供の高度化・多言語化に係る実証実験として、公益財団法人交通情報センターと共同で、千葉エリアの3路線(京葉道路、東関東自動車道高谷JCT〜潮来IC、新空港自動車道)を対象に実施しています。アプリは下記のような特徴を持っています。

今後は、高速道路のどの場所を走行中であっても情報が取得できるシームレスな情報提供についての有効性、日本語以外を母国語とするお客さまが、高速道路を走行中に多言語で道路交通情報を取得可能となることによる有用性の検証を通じて、関東地域への展開、更なる拡大を図り、道路交通情報提供の高度化・多言語化に取り組んでいきます。

#### [ 「E-ハイラジ」アプリの特徴 ]

- ① スマートフォンのGPS情報より現在位置と進行方向を判定
- ② 事故や落下物などの直前では≪緊急情報≫をプッシュで配信
- ③ 通行止めなどの≪道路交通情報≫をリクエスト方式で配信、音声認識による操作に対応
- ④ 日本語を含む6言語(日、英、中(簡体、繁体)、韓、タイ)に対応





#### 次世代高速道路の実現に向けた実証実験計画

#### ● 背景

自動運転、高度な運転システムの開発・普及状況をみると、世界初の自動運転レベル3の市場化や先進安全技術の普及が進んでいます。今後の予測をみると、乗用車の自動運転レベル3以上の普及率をみると2030年頃で13%、2040年頃で30%、新車のコネクテッドカー割合をみると2030年頃で70%、2040年頃で90%となっています。

一方で、現在の自動運転車技術では、搭載されている 車載カメラ等では気象状況や道路状況などの前方の情報 (先読み情報)を検知できない状況があります。また、予測 からも自動運転レベル3以上の自動運転車、非自動運転車 が混在する期間が長期にわたることが想定されます。

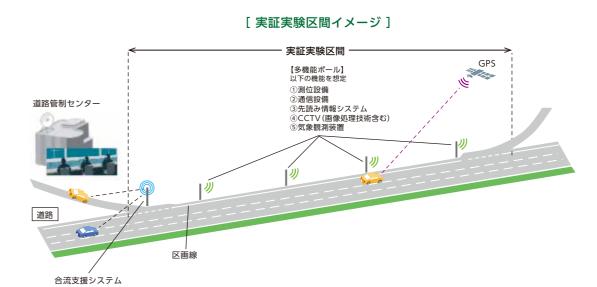
前述のような状況下、更なる自動運転の普及拡大や道路

交通の安全確保を目指すためには、自動運転車の技術開発 のみではなく、走行環境の整備等によるシステム作動エリ アの拡大が必要であり、道路の安全性の向上や道路からの 先読み情報の提供などの支援が重要となっています。

#### ● 目的

そこで、自動運転と非自動運転が混在する状況下において、自動運転車と非自動運転車の安全で円滑な道路交通を確保するため、道路管理の高度化に必要な情報収集・提供系施設および有効な情報提供に関する実証実験、検証を行います。

具体的な実証実験区間の整備に際しては、関係機関と 連携しながら、企業を公募した上で着手する予定です。



<参考> 自動運転レベルの概要

レベル	呼称	概要	安全運転に係る 監視、対応主体	対応する車両の名称
0	運転 自動化なし	運転者が全て動的運転タスクを実行	運転者	_
1	運転支援	システムが縦方向又は横方向のいずれかの車両運動制御のサブタ スクを限定領域において実行	運転者	運転支援車
2	部分 運転自動化	システムが縦方向及び横方向両方の車両運動制御のサブタスクを 限定領域において実行	運転者	運転支援車
3	条件付運転自動化	システムが全ての動的運転タスクを限定領域において実行。 作動継続が困難な場合は、システムの介入要求等に適切に応答	システム (作動継続が困難な場合は運転者)	条件付き自動運転車 (限定領域)
4	高度 運転自動化	システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への 応答を限定領域において実行	システム	自動運転車 (限定領域)
5	完全 運転自動化	システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への 応答を無制限に(すなわち限定領域内ではない)実行	システム	完全自動運転車

出典:官民 ITS 構想・ロードマップ 2017を参考に作成

## 新たなパートナーシップの構築

~業界の垣根を超えた事業開発と人材育成~

## 『ドラぷらイノベーションラボ』を設立

~高速道路会社初の募集型アクセラレータープログラムを実施~



当社は、オープンイノベーションを一層促進し、スタートアップ企業を始めとする幅広い方々と新たな取組みを推進することを目的として、2021年7月に『ドラぷらイノベーションラボ』を設立しました。新たな技術やサービスアイデアなどを持つ企業等と共に、技術・ビジネスモデルを検証し

ながら、次世代の高速道路サービスの実現や、地域の活性化、 社会課題を解決するような事業を創出します。加えて、『ドラぷらイノベーションラボ』がNEXCO東日本グループ全体の「チャレンジマインド」の醸成づくりの場となることを 目指します。

#### [ 共創企業の方々と多様な取組みを実施 ]

3DCGアバターを活用し、 非接触でコンシェルジェがご案内 (常磐道 守谷SA(下り線))

株式会社デジタル・フロンティア





3DCGアバターによる接客の様子



コンシェルジェによる遠隔操作の様子

音楽という耳からの感性を取り入れたアプリ等により 東北地域を回遊していただく企画の検討

株式会社Placy

**E**Placy



両社20代メンバーによるワーキングの様子

ドローンの自動管制における衝突回避実験 (常磐道 南相馬鹿島SA(隣接駐車場))

株式会社FaroStar

FaroStar



右手奥のドローンが自動で別のドローン(左手前)を回避している様子

#### 「仙台 事業構想大学院」を共同開設

~持続可能な東北地域の活性化を担う人材育成に向けた産学共創~





当社は事業構想大学院大学(学校法人先端教育機構、本部:東京都港区、学長:田中里沙)と、「人材育成と地域活性化に係る相互協力に関する基本協定」を2021年8月2日付で締結し、2022年4月に「仙台事業構想大学院」を共同開設しました。

NEXCO東日本は、「地域社会の発展と暮らしの向上を支える」をグループ経営理念に、「つなぐ価値を創造し、地域の発展に貢献すること」をグループ経営ビジョンに掲げ、昨年度から中期経営計画で「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向け変革していく期間」と位置付け、地域社会の活性化や人材育成を強化する方針を掲げています。なかでも東北地方は、東日本大震災からの復興支援を通

じて地域社会と当社との結びつきが強く、少子高齢化と 過疎化の進行が深刻な課題と認識しています。

一方で、事業構想と構想計画を実践研究する事業構想 大学院大学は、事業構想家の輩出を通じて企業、地域、そ して社会の変革を担う人材育成を掲げており、お互いの 理念・目的が合致し、共に人材活性化と新事業創出を目的 として基本協定の締結が実現しました。

今後、宮城県を拠点に双方が保有する知識、経験、人材等を総合的に活用し、「仙台事業構想大学院」において事業構想の実践を志す人材の育成を通じて地域の活性化に貢献していきます。





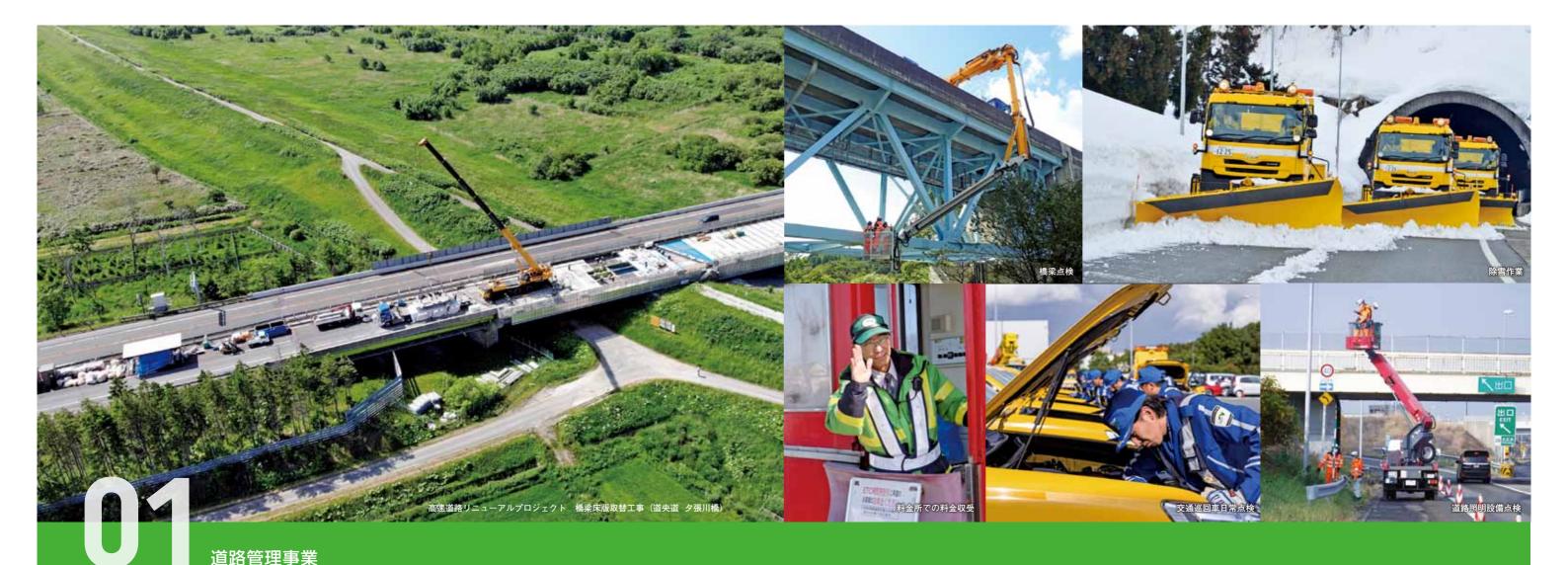


授業の様子

学 位	事業構想修士(専門職) 英語名称:Master of Project Design					
修業年限	2年間					
授 業 日	平日夜間・土曜日					
入学時期	毎年4月					
入学試験	書類選考、面接試験、論述試験					
学 費	入学金10万円、授業料160万円(年額)					
場所	〒983-8477 宮城県仙台市宮城野区榴岡1-1-1 JR仙台イーストゲートビル7階					

※助成金等、その他詳細はHP(https://www.mpd.ac.jp/sendai/)をご覧ください。





# 持続可能なベストウェイを目指して

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)プロジェクトの運用開始
安全走行のための日常管理/「花と緑のやすらぎ」ハイウェイガーデンプロジェクト31
雪氷対策
道路管制センター/交通事故防止への取組み・・・・・・・・・・33
交通事故・落下物などの自動検知技術の開発・実証34
渋滞発生の原因と推移・分析
渋滞発生解消へ向けた取組み
料金収受
地域との連集 28

#### FROM SEO

高速道路は国民の暮らしと経済を支える大動脈であり、ネクスコ東日本管内約4,000kmの高速道路の安全・安心・快適・便利を維持し、機能を向上させることが管理事業に携わる私たちの使命です。

このため日常の点検から清掃、維持補修はもちろんのこと、路上の障害をいち早く発見し対処するためのパトロールや交通管制、お客さまへの的確な交通情報提供、円滑かつ正確な料金収受などの業務を24時間365日行っています。冬季に交通を確保する雪氷対策も私たちの仕事です。

また、交通事故を無くすための交通安全対策、混雑が著しい都市部を中心とした渋滞対策、経年劣化した構造物を繕い取替えて寿命を伸ばす老朽化対策などの機能強化にも取り組んでいます。さらには近年激甚化している自然災害に対して、高速道路が救援・復旧活動を支える「命の道」としての役割を担えるよう平時からその備えに努めています。自動運転などクルマの進化に対応した高速道路の高度情報化への対応も求められており、次世代高速道路の目指す姿の実現にも取り組んでいます。

これらの多岐に渡る業務をICT、ロボティクス、AIなどの最先端技術や新材料、新工法を駆使して遂行することで、より高品質で信頼性の高い高速道路サービスの実現を目指してまいります。

取締役 兼 常務執行役員 管理事業本部長 八木 茂樹

#### ■ SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)プロジェクトの運用開始



SMHとは、高速道路の長期的な「安全・安心」の確保のた めに、ICTやロボティクスなど最新技術を活用し、高速道 路のアセットマネジメントにおける生産性を向上させる プロジェクトです。

SMHツールの導入によって業務の高度化・効率化・品 質向上を目指すとともに、各業務場面における意思決定 プロセスの標準化を図ることで業務の生産性向上に繋げ、 技術者がより知識と経験を最大限生かす「技術的思考が

必要な業務1に専念できる環境の構築を目指します。

2020年6月より第1期運用が開始され、デジタル化さ れた道路管理情報の基盤であるRIMS\*を刷新するととも に、点検データを可視化するBIツール、全周囲道路映像シ ステム、舗装工事発注支援システム (PSS) などを導入し、 特に、「点検・調査」、「分析・評価」、「補修計画策定」、「補修・ 修繕」といった一連の業務プロセスの中で、橋梁や舗装の 補修検討において生産性向上を実現しました。

※RIMS:Road Maintenance Information Management Systemの略。道路保全に関するデータが蓄積された情報システム



#### SMHが考える「技術者×ICT」=とは

▶情報基盤を再構築し、自由なデータの可視化・分析 ▶データ(数値的根拠)に基づく的確な意思決定 ▶支援ツールによる迅速な意思決定 ▶作業手順だけではなく、意思決定プロセスも標準化

> う技術者を単純作業から解放 ○技術者が技術者としての役割に専念

#### 

#### 1 BI (Business Intelligence) ツール 分析・評価 補修計画策定

劣化・老朽化した高速道路の補修計画策定を行う保全 計画会議のために、従来、各データベースから必要情報を 出力し、手作業による会議資料の作成を行っていました。 そのため、会議のための膨大な資料作成、各事務所バラバ

ラな資料様式、個人の経験や知識に頼りがちな検討が行 われ、課題となっていました。

新たな保全計画会議では、点検データを可視化する ツールとしてBIツールを導入しました。その効果として、 会議資料を自動作成、資料様式と確認すべき要点の標準 化、経験や知識に加えデータドリブンな意思決定を行え るようになりました。



また、インフラ管理業務要領を制定することにより、前 述のBIツールを活用した保全計画会議を含む、SMHプロ ジェクトで導入した各ツールを活用した土木構造物の点 検から補修に至るまでの一連の業務プロセスとその運用 ルールを定め、業務プロセスの全社標準化を行いました。

#### 保全計画会議BI画面



#### \*BIツールを活用し点検データから構造 物の状態を可視化。データに基づく意 思決定を実現。 \*データベースとの連携により、資料

は自動生成。 (資料作成日数が13日→3日に短縮)

ポイント

▶会議での確認項目を整理

▶ BI様式と会議シナリオを定義し、 業務プロセスの標準化を実施

業務プロセスの標準化により 業務効率化を達成

#### ② 全周囲道路映像システム 点検・調査 補修計画策定 補修・修繕









#### ポイント

- \*全天球カメラおよびGNSSを搭載した車両を用 いて高速道路および側道の映像を撮影、CV演算 処理を行った3次元映像データを活用したシス
- ▶360度映像を確認ができ、現状把握が容易
- ▶任意の距離や面積が計測可能
- ▶映像に任意のタグを埋め込み情報管理
- ▶3次元モデルの配置が可能



3次元パノラマ映像による、 情報基盤のプラットフォームとして活用

#### ③ 舗装工事発注支援システム (PSS) 分析・評価 補修計画策定 補修・修繕

70時間

#91/10

REA

賠償の健全性を判定

開始状況を把握

V Road-eyeのグループ内理用により 2~3年に1日の傾度で可能に! があせンサによって80Km/hr走行に

✓概算補除面積の計測が可能!

√机上で収地把握し、禁食の時間組織

✓ 技術者の視点や知見を基に各種データの

一元的な可視化や分析機能

ジ線修数等と超算金額を認該算出

が発生回答性域の自動化により生産性丸上!

\* 手作業で行っていた発注図 書作成を自動化。

や分析機能が可能。

ポイント

\*技術者の視点や知見を基に した、舗装補修に関する各

種データの一元的な可視化

- ▶多視点的な情報に基づ く意思決定を高度化
- ▶データ表示や発注資料 を自動化することで業 務プロセスを省力化

生産性の飛躍的向上を達成

④ 点検支援技術(ロボティクス) 点検・調査

現地踏在 (Wellingto)

舗装WG(MIRRIE/工法等の技能的検討

災害時の情報収集として、ドローンの活用を進めてい ます。2021年2月から3月にかけて発生した栃木県足利 市の山林火災で北関東自動車道ののり雨が延焼した際、ド ローンの赤外線カメラなどを用いて延焼の状況の監視を 行いました。

ダ無禁の劣化予測が可能

足利市 山林火災監視写真(左:通常カメラ、右:赤外線カメラ)

また、非GNSS環境下でも飛行できる新型ドローンの実 証実験を行い、箱桁橋内部やトンネル立坑などの点検業務 の適用性の確認を行いました。今後も全社的な検証拡大を 行い、点検方法・運用方法の確立を図り、点検業務の効率 化・高度化を目指します。



新型ドローン実証実験(左:機体、右:箱桁橋内部点検)

SMHプロジェクトは今後、交通や施設管理などの他の分野への展開、AI分析/画像解析/ロボティクス等の最新技術の導 入に取り組むなど、継続的に発展を目指します。

#### ■ 安全走行のための日常管理

NEXCO東日本グループでは、安全に走行していただける道路環境を保持するために、日常的に点検や清掃作業を実施するとともに、いつでも安全に安心してご利用いただけるよう計画的に道路の補修を実施しています。



橋梁点検



受配電設備点検



舗装補修作業



トンネル壁面清掃



トンネル換気設備清掃

#### ■「花と緑のやすらぎ」ハイウェイガーデンプロジェクト

「花と緑のやすらぎ」ハイウェイガーデンプロジェクトとは、SA・PAの園地などを利用しやすく心地良い空間へと転換するとともに、地域らしさの創出と地域との連携を目指した「ハイウェイガーデン」を整備するプロジェクトです。

NEXCO東日本グループでは、お客さまにやすらぎと癒しの空間を提供するため、更なる整備を進めていきます。



ハイウェイガーデン 館山道 市原SA(下り線)

#### ■ 雪氷対策

NEXCO東日本グループが管理する事業エリアは、冬期の気象条件が厳しい地域が多いという特徴があり、安全な交通を確保するため、雪氷対策を実施しています。2021年度除雪作業延長は、年間約500,000km(地球約12周半/年)におよびました。

#### ◎ 2021年度の雪氷対応状況

2020年12月14日からの短期間の集中的な降雪により 関越自動車道 月夜野IC~小出IC間で最大約2,100台の車 両滞留が発生した事象を踏まえ、2021年度から「人命を最 優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避す ること」を基本的な考え方として、地域ごとにタイムライン(段階的な行動計画)を作成し、応援を含めた体制の構築、 関係機関と連携した躊躇のない通行止め、また出控えなど 人々の行動変更を促す呼びかけを通行止め予測の公表と ともに繰り返し広報するなどの取組みを実施しています。

また、降雪時には冬タイヤやチェーン装着指導の実施、 定期的な巡回による道路状況等の確認、車両滞留の原因と なるスタック車両の早期排除等の対応を行っています。

そのほか、日常から関係機関との合同訓練を実施し、乗 員保護等のオペレーションを相互に確認し連携強化を 図っています。

- ○2021年12月26日~27日の警報級大雪(「大雪に関する緊急発表」2021年12月24日発表)に備えて、関越道 大和スマートIC・堀之内ICを計画的に閉鎖し、IC部でのスタックのリスク低減と本線除雪能力の向上を図りました。
- ○2022年1月7日の南岸低気圧による首都圏の降雪時には首都高速道路の通行止め区間に除雪作業の応援派遣を実施しました。今後も通行止めの早期解除に向けた関係機関との連携強化に取り組みます。
- ○1月における24時間降雪量の観測史上最多(59m:帯広市)を記録した2022年1月11~12日は、関係機関と調整のうえ、大雪に備えて道東道と並行する国道を同時刻で予防的に通行止めを実施し、事故、スタックおよび車両滞留を未然に回避するとともに、継続的に除雪を実施することで早期の交通開放につながりました。



除雪作業



冬タイヤ装着指導実施状況(上信越道 新井PA)



合同訓練実施状況(東北道 古川IC)



首都高速道路への応援派遣

高速道路の道路状況を把握し、異常事象への対応やお客さまへの情報提供を行う「交通管制部門」と高速道路のトンネル 非常用設備などを常時監視している「施設制御部門」から構成され、安全で快適な高速道路の提供に努めています。



関東支社道路管制センター

#### ■ 交通事故防止への取組み

#### ◎ 交通巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞などの交通 状況、落下物による道路状況、気象状況などの情報を収集 しています。また、異常事象が発生した時には日夜天候を 問わず現場に急行し、安全かつ迅速に落下物排除、事故対 応を行うため、日頃の訓練も重要になります。

#### ◎ 法令違反車両に対する指導取締り

道路を通行できる車両諸元の最高限度値や、長大トン ネルなどを通行する際に積載できる危険物の品目などは、 法令などで定められています。

特に重量超過車両は、道路の構造物の劣化に重大な影 響を及ぼし、また、交通安全上、重大な事故につながる恐 れがあるため、入口料金所などで厳格に取り締まってい ます。



規制訓練の様子

現場対応の様子

落下物などの処理数 約97,300件 交通管理巡回距離 約64,400km/日(地球約1周半/日) (2021年実績)





取締りの様子(車両引込み)

取締りの様子(車長計測)

#### V O I C E

床板等の道路構造に重大な悪影響を与え、速度低下による交通に危険をおよぼす過積載など の違反車両を見逃さないという強い意志で道路を守り、より良好な状態で次世代につなぐこと。 それが私の従事している車限隊の任務です。違反車両への対応は一筋縄ではいきませんが、事故 を起こす危険性や道路のダメージについて納得いただけるように誠意を持って説明をしていま す。お客さまの安全と道路構造を守るため、日々取締業務にあたっています。



ネクスコ・パトロール関東 千葉車限事業所 隊員 飯髙 一孝

#### ◎ 交通安全対策

交通事故を防止するため、過去の交通事故の発生状況 を分析し、急カーブ区間の注意喚起、速度抑制、車線逸脱 防止などのために、矢羽根板、視認性向上反射テープ、導 流レーンマーク、凹凸レーンマーク、薄層舗装など、様々 な交通安全対策を実施しています。

#### ◎ 逆走防止対策

高速道路の逆走は重大な事故につながることから、高 速道路本線への合流部にラバーポールを設置して無理な 転回・逆走を抑制したり、正しい進行方向を示す矢印路面 標示・看板の設置や平面Y型ICの平面交差部の方向別力 ラー舗装などの逆走防止対策を推進しています。

#### ◎ 暫定二車線区間の正面衝突事故防止対策

上下線がラバーポールで区分されている暫定二車線の 高速道路では、正面衝突事故防止対策として、2017年4 月から土工部および中小橋の区間でラバーポールの代わ りにワイヤロープを設置しています。ワイヤロープを設 置した区間において、反対車線飛出しによる死亡・負傷事 故は発生していません。(2022年3月末時点)

ワイヤロープの設置が困難な長大橋については、2021 年6月8日の「高速道路の正面衝突事故防止対策に関す る技術検討委員会(第5回)」を経てセンターパイプ、セン ターブロックを試行的に設置しています。







薄層舗装(黄色の帯舗装)



ランプ合流部の逆走対策





センターパイプ

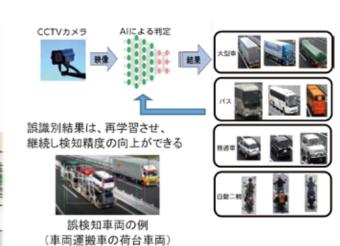
センターブロック

#### ■ 交通事故・落下物などの自動検知技術の開発・実証

高速道路には、渋滞や交通事故など交通状況を把握するため、交通監視カメラを設置しています。これらのカメラを活用 し、事故・落下物などの早期発見に活用し、迅速な対応を行うことで安全性の向上を目指します。これまでトンネル内のカ メラ映像から自動で発見する技術を導入してきましたが、屋外では太陽光や影などの環境要因による影響を受けるため検 知精度に課題がありました。AIなどを活用し、これらの課題解決に向け技術開発・実証を進めています。 ※ 本開発・実証はNEXCO中日本と共に実施しています。







AI学習イメージ

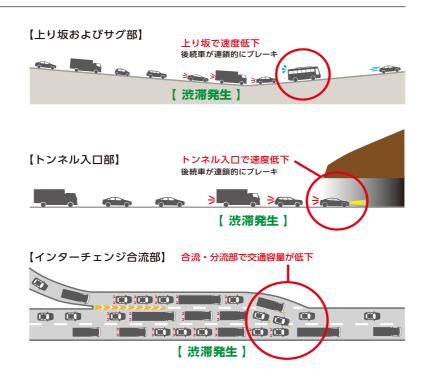
## ■ 渋滞発生の原因と推移・分析

2021年に発生した渋滞のうち約66%が交通集中を原因とする渋滞で、このうち約63%が上り坂およびサグ部で発生しました。

渋滞損失時間は、2008年にはピーク時の5割程度に減少しましたが、休日特別割引が適用された2009年以降は交通量増加の影響を受け大幅に増加しました。

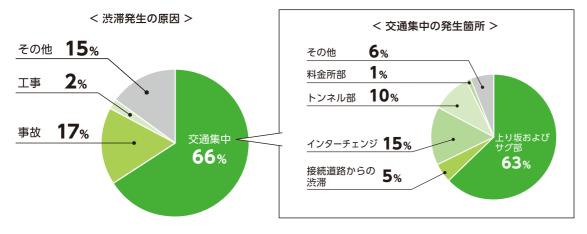
近年は首都圏のネットワーク整備に伴う都心交通のシフトにより再び増加傾向に転じていましたが、2021年は2020年と同様に新型コロナウイルス感染症の影響などにより大きく減少しました。

今後もお客さまの貴重な時間の損失を抑えるべく、継続的に渋滞原因を分析し、より 一層の渋滞対策を推進していきます。



#### < 渋滞損失時間の推移 >



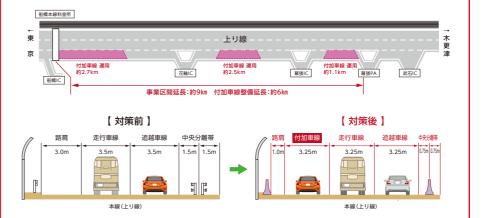


#### ■ 渋滞発生解消へ向けた取組み

#### ◎ 渋滞対策

渋滞が顕在化している箇所においては、渋滞回数の減少や定時性の向上などのため、付加車線の設置(増設)などの渋滞対策を実施しています。





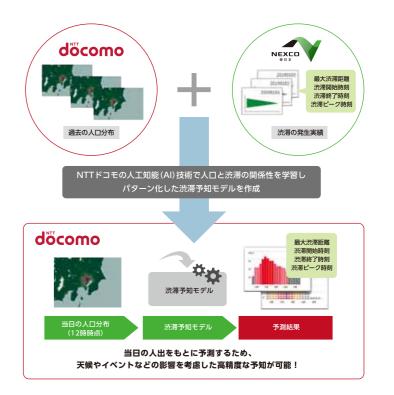


#### ◎ 情報発信の強化

渋滞を避けて快適なドライブをしていただくために、「渋滞予報ガイド」や当社のウェブサイト「ドラぷら」などで、渋滞予測情報を提供しています。

また、渋滞を予測・解説する渋滞予報士®を2017年より北海道、東北、関東、新潟の各支社に配置し、地域ごとに渋滞回避に向けた広報活動を強化しています。

このほか、更なる予測精度・利便性の向上に向け、 東京湾アクアラインでは2017年12月より、関越 自動車道の一部区間では2019年12月より、株式 会社NTTドコモと共同でAI技術を活用した「AI渋 滞予知」を実施しています。



「AI渋滞予知」の詳細はこちら

https://www.driveplaza.com/trip/area/kanto/traffic/ai\_traffic\_prediction.html



#### ○ 料金収受体制の整備と料金管理業務の高度化・効率化

料金所では、お客さまの安全走行を確保し、円滑な収受 を実施するため、交通状況に応じて適切なレーン開放を 行うとともに、お客さまに快適にご利用いただけるよう、 接客マナーの向上に向けた取組みを実施しています。

なお、料金所では、お客さまや社員などの安全を第一に 考え、マスク着用などの衛生対策を徹底し新型コロナウ イルスの感染拡大防止に努めています。

また、当社では、料金精算機を設置し、遠隔地の拠点また は隣接料金所から遠隔操作によってオペレーション業務 (お客さま応対・機械操作など)を実施する体制への移行を 進め、料金管理業務の将来にわたる高度化・効率化を推進 していきます。



お客さまから通行料金を収受 (株)ネクスコ・サポート新潟 主催 令和3年度 ときめき収受コンテスト 優秀賞 名立谷浜料金所 村山 亨一)



遠隔地における料金収受拠点







スマートIC

#### ◎ ETCの普及

近年、ETCの普及は着実に進み、当社管内のETC利用率 は約92.5%(2022年3月実績)となりました。安全かつ快 適にご利用いただけるよう、これからもお客さまの利便 性の向上に努めていきます。

#### ◎ ETC専用化などによる料金所の キャッシュレス化・タッチレス化

2022年4月1日より、東京外環自動車道戸田西IC(入 □) および戸田東IC(入□) を当社管内では初めてとなる ETC専用料金所として運用開始しました。

一部料金所での試行運用開始後の状況を踏まえながら、 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化に計画的に取 り組みます。



ETC専用料金所(東京外環自動車道 戸田東料金所)

#### V O I C E

近年、料金所ではETCの普及や料金精算機の設置が進み、お客さまとは、インタ ーホンを使用した[声]で応対させていただく場面が多くを占めるようになりまし たが、この「声」にどれだけの表情を持たせられるかでお客さまの印象が大きく変 わると、常日頃から考えております。

「声」にさまざまな表情を持たせるため、大きさ、速さ、高さや間の取り方などに 注意し、常にお客さまの気持ちに立ち、気持ちよくご利用いただける「声」での応対 に心掛けております。



(株)ネクスコ・サポート新潟 主催 令和3年度 ときめき収受コンテスト 最優秀賞 糸魚川料金所 辻 勇

#### ■ 地域との連携

#### ◎多様な割引サービスの実施

ETCを活用した時間帯割引、マイレージサービスなど に加え、地域と連携した観光振興の取組みとして、ETC車 を対象とした周遊型割引商品[ドラ割]を販売しています。 2021年度は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮の うえ販売しました。

#### ● 販売中の「ドラ割」(2022年5月現在)

名 称	販売期間
北関東周遊フリーパス	2022.4.1~11.30
信州めぐりフリーパス2022	2022.4.1~11.30
東北観光フリーパス	2022.4.1~12.22
HOKKAIDO LOVE! 道トクふりーぱす	2022.4.15~10.31
2022ツーリングプラン	2022.4.25~11.30

※新型コロナウイルスの感染状況によっては申込受付を一時停止する場 合がございます。申込受付の状況は、ホームページ「ドラぷら」にて ご確認ください。



北関東周遊フリーパス



HOKKAIDO LOVE! 道トクふりーぱす



「ドラ割」を販売するウェブサイト

https://www.driveplaza.com/etc/drawari/



#### ◎交通安全キャンペーンの実施

当社では、各地のSA・PA・料金所等で、警察や自治体な ど関係団体と連携・協働して交通安全キャンペーンを実 施し、高速道路をご利用されるお客さまに交通ルールの 遵守や運転マナーの向上を呼び掛けています。

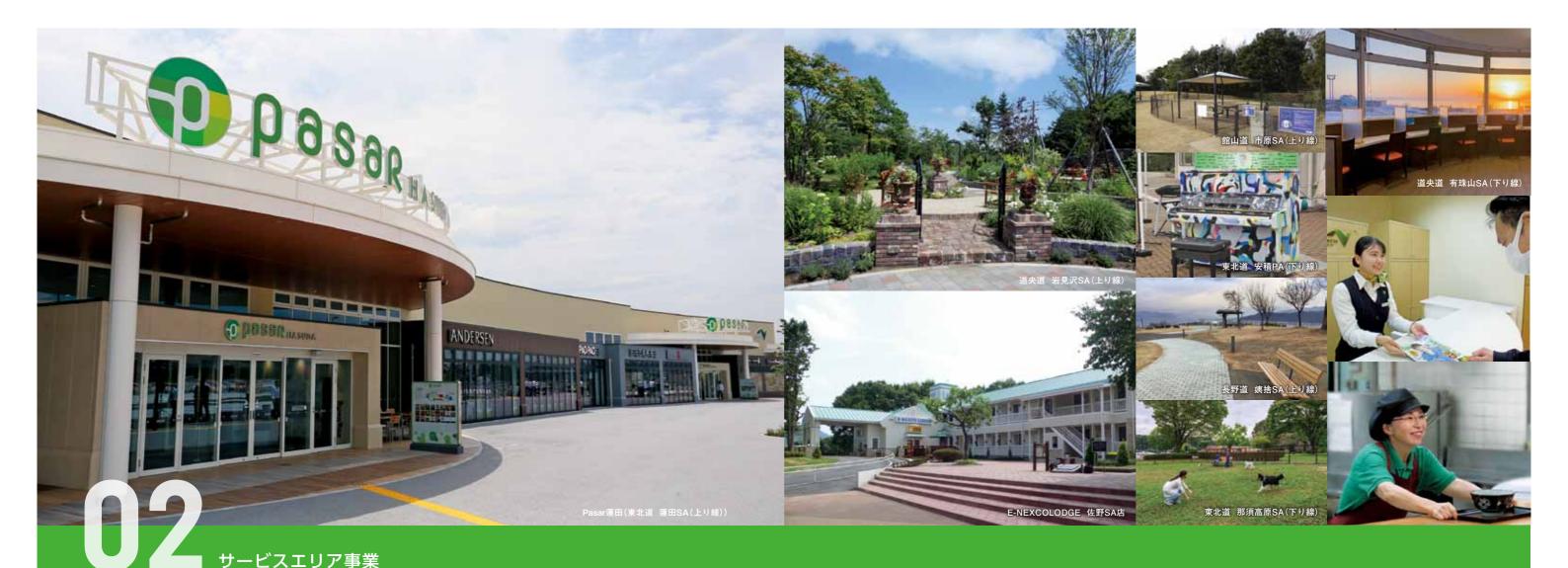




交通安全キャンペーンの様子



春の全国交通安全運動ポスター



# より便利で快適なサービスの提供に向けて

「華づくり」のエリアの展開	41
「礎づくり」のエリアの展開	42
地域との連携	43
利便性向上の推進	44
 暮らしを豊かにする <b>事業の</b> 国	3

#### FROM SEO

サービスエリア事業部門では、高速道路の休憩施設(SA・PA)において「Pasar(パサール)」、「YASMOCCA(ヤスモッカ)」をはじめとする商業施設を運営しているほか、資産活用事業などの高速道路関連ビジネスを展開しています。

SA・PAでは、新型コロナウイルスの流行に対し、施設内の感染防止対策に徹底して取り組むとともに、計画的な商業施設の新築、増改築、老朽化更新など、新たな生活様式に対応したサービス機能の強化・拡充を進めています。

また、地域の観光資源やインフラを活かした旅行事業や、経営資源を 有効活用したホテル事業、オープンイノベーションを促進し新たな取組 みを推進していくためのアクセラレータープログラムなど、様々な事業 にも積極的に取り組んでいます。

今後も、お客さまに安全・安心・快適・便利にご利用いただけるよう、お客さまニーズを踏まえた使いやすさを追求し、新たな技術、社会環境の変化に対応したサービスの提供に努めてまいります。

常務執行役員 サービスエリア・新事業本部長 吉見 秀夫



#### ■ 「華づくり」のエリアの展開

#### ◎ 「Pasar(パサール)」の展開

「Pasar (パサール)」は、"道ナカ"商業施設と称される NEXCO東日本の商業施設のフラッグシップブランドで、 市中で話題の店舗やその場でしか味わえないグルメなど を取りそろえ、バラエティ豊かなサービスを目指してい ます。これまでに、京葉道路のPasar幕張(下り線)をはじ め、首都圏近郊で7店舗を展開しています。

#### Pasar 一覧

東 北 道 羽生PA(下り線)/蓮田SA(上り線)

三芳PA(上り線) 関越道

常磐道 守谷SA(上り線)/守谷SA(下り線) 幕張PA (上り線) /幕張PA (下り線) 京葉道路

#### **○ Pasarとは**

#### pasar

パーキングエリアの[PA]、サービスエリアの[SA]、リ ラクゼーション (Relaxation) の [R] を組み合わせたもの であり、SA・PAの新しい形として、「旅の途中に立ち寄っ てほっと一息つける場所」、「旅の途中で楽しく過ごせる にぎわいの場」をお客さまに提案していきたいという思 いが込められています。





Pasar (関越道 三芳PA(上り線))

#### ◎「ドラマチックエリア」の展開

地域の拠点となるSA・PAでは、「地域性・旅の楽しみ」を凝縮し、旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」を展開して います。その土地の雰囲気を施設の外観やお食事、お土産など様々な形でお届けしています。



東北道 国見SA(上り線)



東北道 国見SA(下り線)

#### ■「礎づくり」のエリアの展開

中小規模のSA·PAでは、「礎づくりのエリア」として、 基本的なサービス(お食事・お土産など)を提供してい ます。また、気軽に立ち寄れる店舗を目指したブランド 「YASMOCCA (ヤスモッカ)」 やお客さまにいつでも便利 にご利用いただく「コンビニエリア」を展開しています。

#### ○ YASMOCCAとは



先を急がれるお客さまが、一休みしたい時に「休もっ か」「休もうよ」と気軽に立寄っていただけるよう「いつも の"ホッと"があるお店 』を目指し、ベーシックエリアの 一部で展開しているブランドです。

ロゴマークは車をイメージし、高速道路を利用される お客さまの"笑顔"と"安全"への思いが込められています。

#### ◎ プライベートブランド

北アルプスのふもと、信州・安曇野で採水した「和みの 天然水」をはじめとし、飲料やお煎餅のプライベート商品 を販売しています。

「和みの天然水」「和みの炭酸水」はSA·PAの自動販売機 で、「お茶」「ぬれやき煎 久助」はYASMOCCAの店舗でお 買い求めいただけます。



YASMOCCA (東北道 矢板北PA(上り線))



コンビニエリア (関越道 寄居PA(上り線))







和みの天然水、炭酸水 お茶

ぬれやき煎 久助











(2022年7月1日現在)

酒々井PAは成田空港から近いこともあり外国人観光客も多いエリアです。おもてなし の心で一人ひとりのお客さまに合わせた快適で便利な空間をご提供し、多様なニーズにお 応えできるよう努力しております。今後感染症が収束し、以前のような活気が戻るときに は外国人のお客さまにも安心してお過ごしいただけるよう、英会話スクールの受講、翻訳 ツールの活用など準備を整えております。世界中のお客さまにご満足いただけるようコン シェルジェ全員で努めてまいります。



酒々井PA インフォメーション チーフコンシェルジェ 大木 恵里

#### ■ 地域との連携

SA・PAでお客さまに快適に利用していただくため、お客さまとのコミュニケーションツールの拡充などの基本的なサービスと、接客レベルの向上に取り組むとともに、地域産品の発掘やそこでしか味わえない料理を提供するなど、地域の魅力発信に努めています。また、自治体による地域振興事業に積極的に参加しています。

#### ◎ ウォークインゲートの整備

110カ所\*に一般道からの歩行者用出入口となる「ウォークインゲート」を設置し、SA・PAを地域の皆さまにもご利用いただけるようにしています。 \*2022年7月1日現在

#### ◎ メディアによる情報発信

高速道路地図やドライブ・観光情報、SA・PAのグルメや お土産品の情報などを掲載した月刊情報誌『ハイウェイ ウォーカー』をフリーマガジンとして発行しています。

また、2021年4月にハイウェイウォーカー公式twitter を開設し、SA・PA耳寄り情報から高速道路沿線のお出かけ情報まで、魅力たっぷりの旬の情報を配信しています。



プレミアム付商品券の取扱店舗 (東北道 蓮田SA(上り線))



E-NEXCO野菜市場 (関越道 赤城高原SA(上り線))



ウォークインゲート (東北道 羽生PA(上り線))









#### 「 お客さまニーズに対応したサービスの展開 ]

「新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」に基づく感染拡大防止対策を徹底したうえで、新しい生活様式における、お客さまの多様なニーズに対応したサービスの充実、展開を図っています。



ハイウェイランチボックス (東北道 蓮田SA(下り線))



マイクロツーリズムへの対応として、遠隔地のおみやげ品 を販売(東北道 蓮田SA(上り線))



非接触案内の試行導入 (東北道 蓮田SA(上り線))

#### ■ 利便性向上の推進

#### ◎ バリアフリー対応

SA・PAを快適にご利用いただけるように、ユニバーサルデザインを取り入れ、施設の段差の解消をはじめ、障がい者等用駐車場、車椅子や筆談ボードを設置するなど施設のバリアフリー化に取り組んでいます。

トイレでは、和式便器の洋式化を進めているほか、ベビーシートや小型手洗い器を備えた大型ブース、子ども用トイレやオストメイト対応(人工肛門または人工膀胱を保有している方のための流し台や手洗い場を設置)トイレの整備を行っています。

#### ◎ 子ども・乳幼児スペースの整備

小さなお子さまやそのご家族が快適に高速道路をご利用いただけるよう、多くのSA・PAでおむつ替えスペースや授乳室の整備を行い、調乳用温水器を設置しています。

また、建物規模の小さな施設でも僅かなスペースを活用してベビーケアルームを設置しています。

#### ◎ 急速充電器の設置

電気自動車をご利用されるお客さまのために、急速充電器の設置を順次進め、現在154カ所\*に設置しています。 今後も急速充電器の利用動向や社会の諸情勢を踏まえ、 増設などを検討します。 ※2022年7月1日現在

#### ◎ シャワーの設置

お客さまのご利用動向の変化や新たな生活様式に対応するため、SA・PAにシャワーの整備を進めており、現在8カ所\*に設置しています。今後も、更なる商業施設のサービス機能の強化・拡充のため整備を進めてまいります。

※2022年7月1日現在



障がい者等用駐車場



大型ブーストイレ



キッズスペース (東北道 蓮田SA(上り線))



おむつ替えスペースと授乳室 (東北道 蓮田SA(上り線))



急速充電器 (京葉道路 幕張PA(上り線))



コインシャワー (関越道 寄居PA(上り線))

#### ◎ 旅行事業

「クルマの旅にもうひとつのよろこびを」のコンセプ トのもと、旅行サイト[ドラぷらの旅]を運営してい ます。社内外のインフラツアーなどの取扱いのほか、 ウィンタースポーツや温泉などの東日本エリアの良質 な観光資源と高速道路とを結びつける旅行商品の開発 なども行っています。また、高速道路会社初となるオン ラインツアーも2021年から実施しています。

#### ◎ Web事業

高速道路をご利用されるお客さまへのトータルサ ポートサイト「ドラぷら」を運営し、様々なドライブ シーンでお役立ていただけるよう、情報をお客さまに 発信しています。

#### 主な提供情報

#### ●料金・経路検索、交通情報の発信

料金・経路検索のほか、ドライブトラフィック(ドラとら)で は、リアルタイムの道路交通状況および渋滞予測情報などを 提供しています。

#### ●SA・PA情報の発信

SA·PAの店舗情報(新型コロナウイルスの影響による変更情 報含む)、イベント・キャンペーン情報、地域情報や思わず旅 に出たくなるようなコラムなど、様々な情報コンテンツを提 供しています。

#### ◎ ドラぷらアプリの提供

モバイル端末に対して、高速道路料金や経路検索な どのWebサイト同様の情報を配信するほか、災害情報 や走行時注意箇所をPUSH通知するなどアプリならで はの機能を実装し、お客さまの安全・安心なドライブを サポートします。

#### ◎ 物販事業

「ドラぷらショッピング」を運営し、お客さまと地域 の架け橋になれるよう、主に東日本エリアの地域産品 を取り揃えECサイトで紹介・販売しています。

#### ◎ カード事業

高速道路料金がお得になるオフィシャルカード 「E-NEXCO pass」を発行しています。高速道路の利用 頻度が多い方向けの「ニコスE-NEXCO pass」、高速道 路の利用や日々の生活でもお得な「イオン E-NEXCO pass」の2種類からご選択いただけます。



インフラツーリズム (関越トンネル探検)









「ドラぷら」トップ画面







「ドラぷらショッピング」トップ画面





ニコスE-NEXCO pass

#### ◎ 保有資産を活用した事業

日比谷駐車場、駐輪場、高架下駐車場、ホテル、トラックターミナルなど、経営資源を活用した多様な事業を展開し ています。



日比谷公園の地下にある日比谷駐車場



HIBIYA RIDE

更衣室、シャワールームを備えた駐輪場「HIBIYA RIDE」



高速道路高架下スペースを占用した駐車場など



高速道路から直接利用できるホテル「E-NEXCO LODGE 佐野SA店



インターチェンジに隣接したトラックターミナル(郡山IC)



東北道・本線料金所跡地でFIT (固定価格買取制度) を活用した太陽光発電。 電力会社に約360世帯分の電力を供給しています。

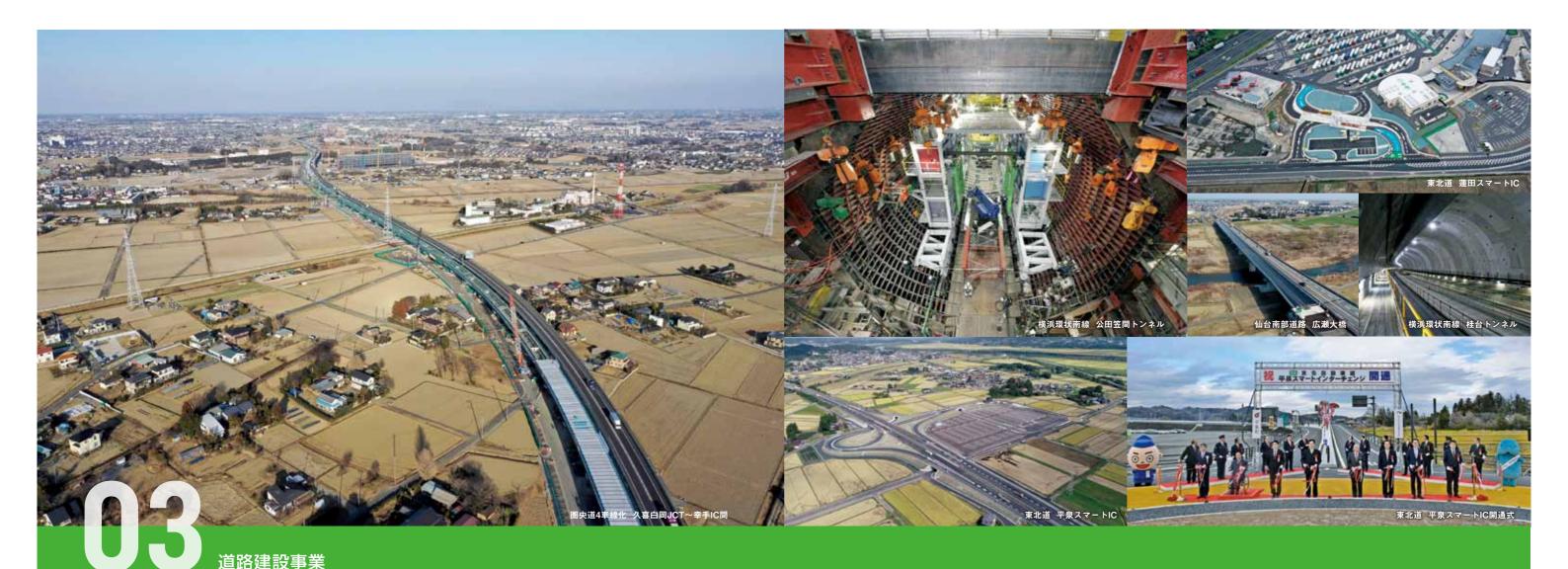
#### V O I C E

ドラぷらショッピングは元気な地域社会づくりへの貢献を使命とする、NEXCO東日本 が運営する「産地直送お取り寄せ」のオンラインショップです。当社が長年にわたり地域連 携を行ってきたからこそ出会えた、各地域の名産や隠れた逸品を中心に、技術商品や防災 グッズ、自動車用品なども取り揃えております。

ショッピングサイトにて掲載しているこだわりの地産商品をご購入いただけたお客さ まから「美味しかった」等の感想を直接頂ける機会も多くあり、やりがいを感じております。 これからも地域とお客さまをつなぐお手伝いをするべく更なる地域産品の充実を図り、 お客さまに魅力ある商品をお届けしていきたいと思っております。



サービスエリア事業本部 新事業推進部 江原 真理子



# 高速道路の整備・強化と 4車線化の推進によるネットワーク機能の充実

高速道路ネットワ-	-クの整備推進					49
地域活性化IC・スマ	ートICの整備	/建設中区	間の事業	€概要 ⋯⋯		50
i-Constructionの	推進/工事変	更等検討会	の試行・			53
<b>北海道の宣海道</b> 路	関海50国年	敕借动里			 	57

#### FROM MEO

建設事業本部では高速道路ネットワークの整備・機能強化を進めています。

我が国では都市部での高速道路ネットワーク整備が遅れてきました。 近年、計画から長期間を要した東京外環自動車道や圏央道などが段階的 に開通し、大きな効果を発揮しています。

物流や人の移動がスムースになるとともに、一般道の渋滞解消により 沿線地域の画期的な環境改善が図られています。引き続き現在建設中の 区間や計画中の路線を早期に完成すことが重要です。

また、渋滞が激しく円滑な交通が阻害されている区間では、車線増設などによる渋滞対策を進めています。地方部では暫定2車線整備区間を4車線化や付加車線を設置することにより、災害時や雪氷期間においても交通路を確保できるよう、安全・安心機能の向上を進めています。さらに、地域活性化の起爆剤となるよう、高速道路とのアクセス性強化を図る目的で、自治体と連携してスマート・インターチェンジの整備を各地で進めています。

これらの整備にあたっては、ICTや最新の技術を活用し、効率的かつ高品質・耐久性の高い道路整備を進めています。

高速道路は未来に向けて益々進化していきます。

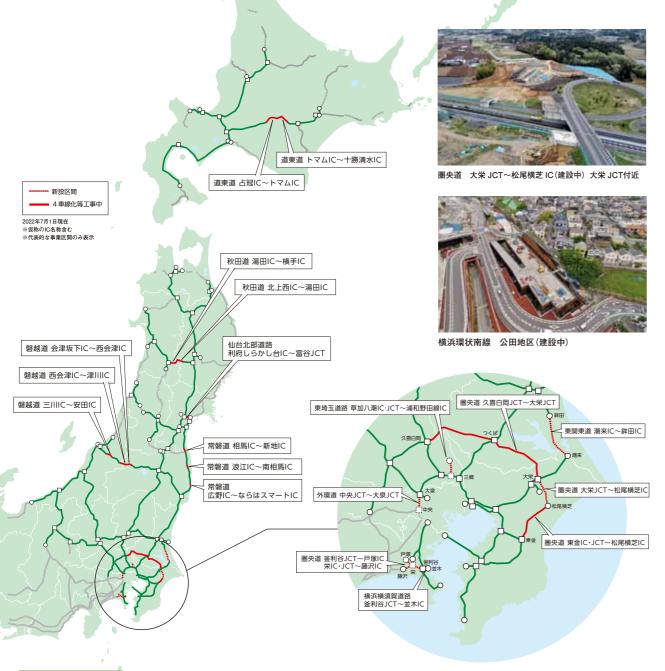
代表取締役 兼 専務執行役員 建設事業本部長 髙橋 知道



#### ■ 高速道路ネットワークの整備推進

NEXCO東日本は、首都圏をはじめとする高速道路ネットワークや4車線化の整備を進めています。2005年以降これまで605kmのネットワークおよび142kmの4車線化・付加車線等の整備を実施しました。2021年6月には、常磐道(いわき中央IC~広野IC)の区間が4車線となりました。

今後も、外環道(中央JCT~大泉JCT)、圏央道(釜利谷JCT~戸塚IC、栄IC・JCT~藤沢IC)などの約85kmのネットワークと、圏央道(久喜白岡JCT~大栄JCT)や、常磐道(広野IC~ならはスマートIC)など約260kmの4車線化等の整備を着実に進め、地域社会の発展に貢献していきます。



#### VOICE

神奈川県にある圏央道の一部である横浜環状南線の建設現場を担当しています。 私の担当は公田ICを含む約1kmの函渠、擁壁工事ですが、この地区は横浜環状南線沿線の中でも特に住宅が近接しており、地域の皆さまとこまめに話し合いの場を設け事業理解を得ながら安全第一に工事を進めています。

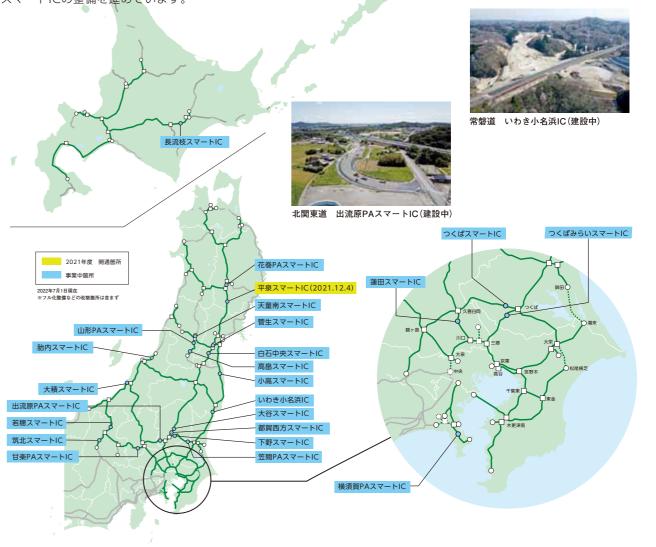
工事を進める中で様々な課題に直面しますが、地域の皆さまや関係機関、工事関係者との日々のコミュニケーションを大切にし、課題解決に向け誠意ある対応を行い、横浜環状南線の早期開通に向けて着実な工事進捗を図っていきたいと思います。



関東支社横浜工事事務所 桂公田工事区 工事長 福澤 祥宏

#### ■ 地域活性化IC・スマートICの整備

既存の高速道路の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため、地方自治体と協力し、地域活性化IC・スマートICの整備を進めています。



#### ■ 建設中区間の事業概要

#### 東関東自動車道(新設事業)

東関東自動車道水戸線(潮来IC〜鉾田IC)は、東京都練馬区を起点として千葉県を経て茨城県水戸市に至る延長140kmの東関東自動車道水戸線のうち、茨城県潮来市を起点に同県鉾田市に至る延長約31kmの高速自動車国道です。現在、国土交通省とNEXCO東日本が共同して新設事業を進めています。



東関東道 潮来IC~鉾田IC

#### 道東自動車道(4車線化事業)

道東自動車道は、道央圏と道東圏を結ぶ北海道横断自動車道の一部を担う高速自動車国道です。2022年3月に新たにトマムIC~十勝清水IC間の約6kmの事業許可を受け、現在、占冠IC~十勝清水IC間、約47kmで、4車線化事業を進めています。



道東道 トマムIC~十勝清水IC

#### 東京外かく環状道路(新設事業)

東京外かく環状道路は、都心から約15km圏域に連絡する延長約85kmの道路であり、首都圏の都心方向に集中する交通を 適切に分散導入し、都心に起終点を持たない交通をバイパスすることで、首都圏の慢性的な交通渋滞の緩和、周辺の生活道 路の通過交通の削減による安全性の向上が期待されます。

また、羽田空港・京浜港と背後圏を結ぶ広域ネットワークが形成され、輸送時間短縮、定時性の向上等により企業活動への支援、物資流動の円滑化、国際観光の発展へ寄与する他、首都直下地震の災害発生時に、被災地への救援ルートの確保が可能になります。

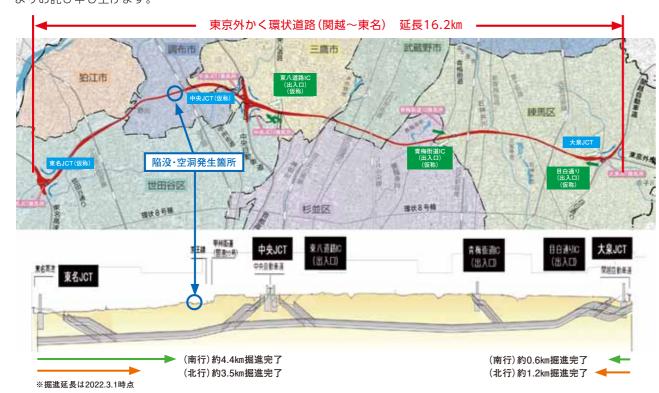
関越道から東名高速までの約16kmについては、2009年度に事業化され、2012年度から、国土交通省、NEXCO東日本、NEXCO中日本が共同で事業を進めています。

東京外環プロジェクトの詳細はこちら https://tokyo-gaikan-project.com/



#### ◎ 陥没・空洞事故の概要

2020年10月18日に調布市東つつじケ丘で発生いたしました地表面の陥没ならびにその後の調査で発見されました3カ所の空洞におきまして、地域にお住いの方々をはじめとする皆さまに大変なご迷惑、ご心配をおかけしていることを心よりお詫び申し上げます。



		10月18日	地表面の陥没を確認
	2020年	10月19日	有識者委員会 <sup>*</sup>
	2020年	11月3日	陥没箇所から約40m北にて、幅約4m×長さ約30mの空洞を確認
		11月21日	陥没箇所から約30m南にて、幅約3m×長さ約27mの空洞を確認
経		1月14日	陥没箇所から約120m北にて、幅約4m×長さ約10mの空洞を確認
緯		3月19日	有識者委員会* 報告書とりまとめ
	2021年	4月2日~7日	発生原因と再防止対策等について沿線区市の住民へ説明
		9月10日	地盤補修範囲を特定し公表
		12月17~18日	地盤補修範囲の特定や補修工事の検討状況を説明
	2022年	3月27日~28日	補償や地盤の補修工事に関するオープンハウスを開催



※2020年10月19日~2021年3月19日 7回開催

#### ◎ 陥没・空洞の推定メカニズム

有識者委員会においては、地盤調査やシールドトンネル工事の施工記録などに基づく、陥没や空洞形成に至る複数の要因分析、メカニズムの特定、また、今後このような事象が発生しないようにするための再発防止策などについて、トンネル工学、地質・水文学、地盤工学、施工法を専門とする委員各位のそれぞれの見地から中立的な立場で議論、検討されました。

その結果、今回の陥没や空洞形成は、礫が卓越して介在する細粒分が極めて少ない砂層が掘削断面にあり、単一の流動化しやすい砂層が地表付近まで続くという、東京外環道全線の中で特殊な地盤条件となる区間において、チャンバー内の良好な塑性流動性・止水性の確保が困難となり、カッターが回転不能になる事象(閉塞)が発生し、これを解除するために行った特別な作業に起因するシールドトンネルの施工が要因であると推定されました。また、結果として土砂の取込みが過剰に生じていたと推定され、施工に課題があったと報告されています。

#### ◎ 住民の皆さまへの対応

#### (住民説明会)

2021年9月に地盤補修範囲を特定したことから、12月に地盤補修工事の検討状況について、説明会を開催いたしました。また、実際にシールドトンネルの現場を見たいというご意見を受け、現地の視察会を12月に開催し、約80名の方に参加いただきました。

2022年3月には、補償や地盤の補修、地盤の調査について、これまでご説明した内容や現在の状況をパネル等を用いて個別にご説明するオープンハウスを開催し、住民の皆さまのご意見やご不安をお伺いしました。

引き続き、住民の皆さまにご理解いただけるよう、丁寧に説明してまいります。

#### (補償などについて)

建物などに損害が発生した場合に、原則として従前の状態に修復、復元するなど現状を回復(補修)することに加え、①家賃減収相当額や②地盤補修工事完了後において生じた不動産売却損、③疾病等による治療費など、実際に発生した損害についても補償いたします。

今後、家屋補償など必要な補償を誠意を持って対応しつ つ、工事により影響を受けた地盤の補修などを行っていき ます。

オープンハウス

#### ◎ 再発防止対策と地域の安全・安心を高める取組み

2021年12月、陥没・空洞の推定メカニズムを踏まえたうえで、「シールドトンネルの設計・施工技術等に関するガイドライン」(国土交通省大臣官房技術調査課)を反映させた、東京外環事業における今後のシールドトンネル施工を安全に行うための「再発防止対策」と振動・騒音対策の強化などの「地域の安全・安心を高める取組み」を、東京外環トンネル施工等検討員会で審議いただき取りまとめました。

取りまとめた「再発防止対策」と「地域の安全・安心を高める取組み」については、2022年1月から2月にかけて、沿線住民の皆さまへご説明させていただき、3月より大泉側および中央側のシールドトンネルの掘進を順次開始しました。

引き続き、再発防止対策を確実に実施し、施工状況や周辺 環境をモニタリングしながら細心の注意を払いつつ、工事 を慎重に進めてまいります。

#### 陥没・空洞事故を発生させない取組み

- ①掘削土砂を分離・沈降させない、閉塞させない対応
- ②過剰な土砂取込みを生じさせない対応
- ③切羽を緩めない対応

#### 地域の安全・安心を高める取組み

- ①振動・騒音対策(緩和、モニタリング強化)
- ②地表面変状の確認(巡回監視の強化)
- ③地域住民の方々への情報提供
- ④シールドマシン停止に伴う保全措置
- ⑤[トンネル工事の安全・安心確保の取組み]の見直し

国内における建設産業の分野では、生産年齢人口が減少することが予想される中で生産性向上は避けられない課題です。 高速道路という重要なインフラの建設・管理を担う中で更なる生産性向上のために、i-constructionの推進に取り組んで います。

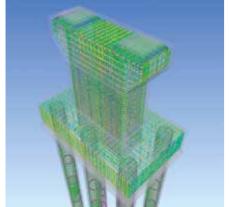
磐越自動車道(三川IC~安田IC間)4車線化等事業では、建設段階から3次元データを活用したICT施工を実施することに より、安全・品質・施工を効率化し、生産性・品質向上を図り、さらに建設段階でのシステムやデータが、開通後の道路管理に 有効に活用できる仕組みの構築を進めています。





AR体験イメージ





属性情報を付加した配筋モデルイメージ(詳細度400)

#### ●i-construction(アイコンストラクション)

「ICTの全面的な活用(ICT)土工」\*などの施策を建設現場に 導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上 を図り、魅力のある建設現場を目指す取組みです。

※ICT (Information and Communication Technology:情報通信技術)を土 工における「測量、設計、施工計画、施工、検査」の全工程で導入し、3次元データを 一貫して使用するものです。

#### ■ 工事変更等検討会の試行

工事受注者との情報共有や、協議の迅速化等の取組みとし て、「工事変更等検討会」を試行しています。検討会は、工事の 変更などに係る審議や工事工程のクリティカルパスなどの共 有や、これらに伴う工事中止判断などの検討を行う場として 開催し、工事の変更手続きの透明性および公平性の向上や、適 正な工期確保と同時に、これらの結果に基づく適切な工事費・ 事業費管理を行うことを目的としています。受発注者が一同 に会することにより、現場での課題共有・問題解決が円滑に図 られる等の効果が発現しており、引き続き本取組みを行いな がら、工事を円滑に進めてまいります。



工事変更等検討会の開催状況

#### ■ 北海道の高速道路 開通50周年 整備効果

#### ◎ 高速道路の整備延長と交通量推移

北海道の高速道路は、1972年の第11回冬季札幌オリンピック開催に合わ せて、1971年12月に北海道初の高速道路として、札樽自動車道(小樽IC~札 幌西IC) および道央自動車道(北広島IC~千歳IC)が開通しました。現在では、 総延長約1,180kmを超え、累計利用台数(有料区間)は、約19億台にのぼりま す。北海道全域を網羅するネットワークの形成により、利便性が向上し、特に 道東自動車道の交通量は、開通から約20年で約10倍に増加しています。

#### 北海道の高速道路整備延長と累計利用台数の推移 (1971年度~2020年度)





道東自動車道(十勝清水IC~芽室IC)の交通量推移

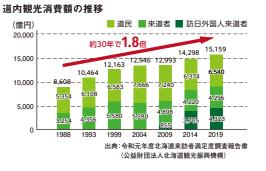
#### ◎ 高速道路の整備効果

開通以降、高速バスによる都市間移動や農畜産物・水産物の輸送など、人・モノの流れを飛躍的に高めるとともに、観光消 費額の増大や大規模商業施設、企業の進出など、沿線の地域経済活性化に寄与しています。

#### 開通前と比較した畜産品産出額(肉用牛・乳用牛)の変化







#### ◎ 高速道路の防災・減災への貢献

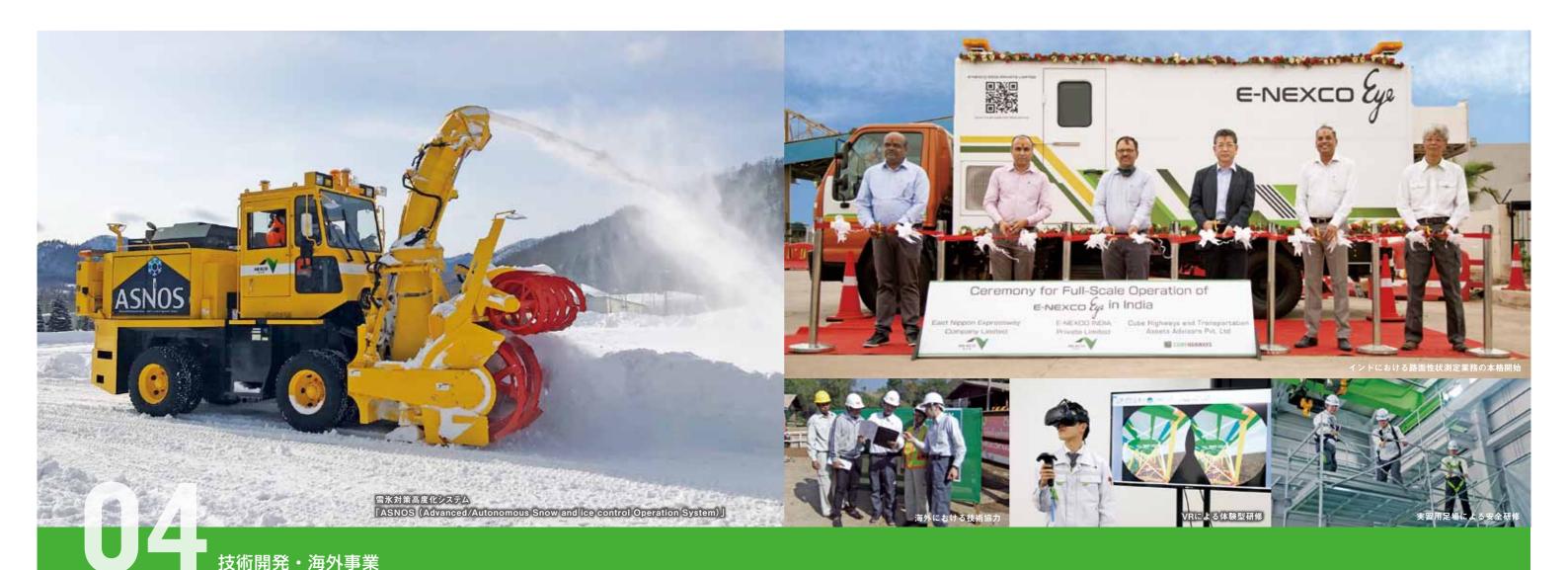
2016年の台風災害において、 道路や鉄道が寸断されるなか、高 速道路が主要な基幹ルート、代替 路として機能し、防災・減災効果 を発揮しました。

今後も安全・安心な社会の実 現、地域経済の発展に寄与するた め、引き続き高速道路の4車線化 や長期保全の取組み等を推進し ていきます。

#### 2016年8月の台風災害状況と道央圏と道東圏を結ぶ基幹ルートの確保状況



出典:国土交通省資料、十勝毎日新聞



# 『進化した技術』で未来を拓く

研究・技術開発の推進	57
技術力向上の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
「技術力・ノウハウ」を活用した地域社会への貢献/高速道路関連新技術の	活用•展開60
高速道路における環境対策	61
「技術力・ノウハウ」を活用した海外への事業展開	63

#### FROM SEO

高速道路ネットワークの安全・安心や信頼性の向上、機能の充実のためには、当社が様々な分野で高い技術力を持ち続け、それを現場で展開していくことが絶対に必要です。これからの時代にふさわしい高速道路機能の高度化や事業の効率化を目指し、技術基準の整備・改正、研究・技術開発、新しい技術、工法、機械の導入などを積極的に進めるとともに、工事安全の徹底に取り組みます。

特に技術開発については、「中期技術開発・活用計画」(2021~2025年度)に掲げる予防保全、災害・降雪対策、情報提供、安全対策などに関する開発目標、活用目標の達成に邁進します。

さらに、持続可能な社会の実現に貢献する環境マネジメント、これまでに培ってきた技術力やノウハウを活かした国外での事業展開、国際協力、国際交流を推進します。

技術力向上の礎は、モノやワザの研究・開発・導入・改良と、これらを担うヒトの育成です。専門性の高い技術者の育成、研究・技術開発への先端技術の活用、国際感覚の涵養、エキスパートによる現場技術支援、現場社員の技術教育、安全啓発により、会社全体の技術力の向上や高度化を図ってまいります。

取締役 兼 常務執行役員 技術本部長 良峰 透



#### ○ ロータリ除雪車の自律走行とシューター操作の自動化

熟練オペレータの高齢化や労働人口減少による担い手不足が懸念されるため、雪 氷対策作業の省力化・効率化等を目的に、準天頂衛星システム「みちびき」を活用した 「自律走行\*1」と「シューター(切り崩した雪を路外へ飛ばす筒状の装置)操作の自動 化\*2」の開発を進めており、2021年度には北海道管内の高速道路\*3にて自律走行並 びにシューター操作の自動化の試験検証を行い、2022年度内の完成を目指します。

- ※1: ドライバーが乗車した状態で、ステアリングやアクセルに触れずに自動で走行操舵するものです。
- ※2: 主にシューターの角度や向き等を、路肩にある標識やスノーポール等に合わせ自動制御するものです。
- ※3: 道央自動車道·岩見沢IC~岩見沢SA間



システム概要図

NEXCO東日本のYouTubeチャンネル「E-NEXCO driveplaza」にて動画公開中 準天頂衛星システムを活用したロータリ除雪車自動化の開発について https://youtu.be/2w-2uNxb460







自動化予定のシューターの動作

『ASNOS (アスノス)』は、NEXCO東日本が 手掛ける雪氷高度化システムの総称です。

ロータリ除雪車の本線自律走行試験の様子

通常の シューターの向き

標識を除けて.

方向転換

#### ◎ 除雪プラウ操作の自動化

除雪トラックにおいては、2018年に開発したGPSを活用した「集中操作器システム\*1」により、凍結防止剤の散布と車両 後部の電光表示板の操作を自動化しています。

また、橋梁ジョイント部などで必要となる除雪プラウの上げ下げの自動化を目指し、準天頂衛星を活用した除雪プラウ の自動化の技術開発に取り組んでおり、「集中操作器システム」と連携したシステムとして、現在、新潟支社管内で開発を進 めています。

※1: GPSの位置情報と凍結防止散布装置・標識装置を連動させ、道路構造に合わせた作業内容(凍結防止散布・標識点滅)を予め登録することにより、当該箇所に近づくと音声ガイ ダンスと自動制御を行う、除雪作業を支援するシステムです。











集中操作器システム



テストフィールドに仮想の橋梁ジョイント(図中 赤枠部)を設定し、除雪トラックを通常の作業速度 で走行させ、仮想の橋梁ジョイント部で除雪プラ ウを自動で上下させる試験

#### ◎ 雪氷対策技術に関する研究

雪氷対策の高度化の取組みとして、低温恒湿試験機、腐食促進試験機を用いた研究・技術開発を行っています。低温恒湿 試験機は、温度・湿度をコントロールすることにより、冬期の環境と同様の状況を再現する装置で、凍結防止剤の固結対策 や路面に発生する氷盤の除去技術などに関する試験・研究を行っています。腐食促進試験機は、塩水散霧→乾燥→湿潤を繰 り返すことにより短時間で腐食環境を再現する装置で、凍結防止剤の散布により腐食した材料の補修に関する試験・研究 を行っています。



腐食促進試験機を用いた材料耐久性試験

低温恒湿試験機を用いた凍結防止剤固結試験

#### ○ 防水機能を有する橋梁プレキャスト床版の開発

高速道路リニューアルプロジェクトにおける橋梁床版取替工事では、床版の耐久性確保の観点から現場にて防水工を行 います。しかしながら、この施工は天候に左右されやすいことから、解決のために防水機能を有する超高強度繊維補強コン クリート(UFC:Ultra High Strength Fiber Reinforced Concrete)層を床版上に敷設したプレキャストPC床版を開 発しました。この床版を現場で採用することにより、確実に計画期間内でより耐久性の高い床版にて工事を完了すること ができます。

#### 防水機能を有するプレキャストPC床版の構造(左)と施工の流れ(右)

プレキャストPC床版の

# ▼ 従来のプレキャストPC床版を用いた施工の流れ プレキャストPC床版 製金標 现场协大工 ▼ 防水機能を有するプレキャストPC床版を用いた施工の流れ 防水性能を有する

# ◎ 開発技術の情報発信

NEXCO東日本グループでは、雪氷対策技術や SMH技術をはじめ、高速道路に関連する様々な 技術開発を行っており、それらの情報を技術イベ ントやマスメディアなどを通じ発信しています。



近未来の雪氷技術アニメーション Future Image 203X







#### ■ 技術力向上の取組み

#### ◎ 技術基準の整備

当社が制定する設計要領などの技術基準は、グループ会社である㈱高速道路総合技術研究所(NEXCO総研)と連携しつつ、室内での試験研究で性能を確認後、現場に展開し引き続き性能を確認し制定する手法を採用しています。

NEXCO3社が2019年12月に策定した「高速道路における安全・安心実施計画」の推進に寄与するため、リニューアル工事、防災・減災、生産性向上などに関する研究成果を技術基準に反映しています。



移動載荷疲労試験機(NEXCO総研)



設計要領などの技術基準類

#### ◎ エキスパート支援

総合技術センターには豊富な知識と経験を有する専門技術者が在籍しており、現地での技術的課題や災害・緊急事象発生時に迅速かつ積極的にアドバイスを行っています。2021年7月に発生した大雨に伴う逗子ICののり面崩落発生時は被災現場に地盤工学のエキスパートを派遣し早期復旧のための技術的助言を行いました。



被災現場での技術的助言

#### ◎ 技術者育成

当社の技術者は技術力とマネジメント力を身につけることを基本として実務年数に応じたカリキュラムによる各種研修 を実施することで、様々な技術課題に対応できる技術者の育成を行っています。

総合技術センターでは、オンラインを活用した工学的基礎知識の講義に加え、現場から撤去した橋梁床版・舗装、土構造などの実物およびトンネル構造模型や3D・VRなどの画像映像技術を活用した体験・体感型研修を体系的に行っています。



3Dによる体験型研修



現場から撤去した橋梁床版による研修

#### VOICE

初任地の管理事務所では舗装補修工事を担当していました。技術的な知識が少ない中、舗装技術基礎研修において舗装の構造や施工の流れなど基本的事項を始め、品質や出来形の管理など実務に関わる内容を学んだことで、日々の業務に活かすことが出来ました。

今年度も橋梁技術基礎研修を受講し、新規路線の橋梁工事を担当し設計業務にも携わる中で、橋梁形式の選定や施工計画など設計者の考え方を理解する助けとなりました。



関東支社 千葉工事事務所 千葉南工事区 戸部 那奈美

#### ■ 「技術力・ノウハウ」を活用した地域社会への貢献

#### ◎ オーバーブリッジ(跨高速道路橋)点検における技術支援

道路橋の維持管理に関する知識やノウハウを活かし、オーバーブリッジの点検業務や損傷診断結果を踏まえた補修計画立案、補修工事の受託のほか、橋梁点検見学会を通じ、技術者不足などの課題を抱える地方公共団体のインフラ維持管理をサポートしています。



橋梁点検作業車によるオーバーブリッジ点検



オーバーブリッジ点検(夜間)

#### ○「インフラ管理情報コンソーシアム」の設立による 道路管理の支援

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の研究成果として、"道路情報のデータ仕様"と"道路情報のデータ交換ルール"を定めた「道路管理情報表現仕様書」および「共通API仕様書」を2018年にとりまとめました。

これらの成果をオープンイノベーションにより、自治体などでの活用を支援すると共に、新たな研究開発の機会や技術・ノウハウの情報交換の場として、2019年10月に「インフラ管理情報コンソーシアム」を設立し、道路管理情報の支援活動を行っています。

(2022年3月現在:会員数21社)



2021年度インフラ管理情報コンソーシアム総会(対面+WEB開催)

#### ■ 高速道路関連新技術の活用・展開

#### ◎ ロードジッパーシステムの導入

ロードジッパーシステムは、コンクリート製防護柵を専用の防護柵移動車両を用いて移動させることができるシステムです。

このシステムは、道路の混雑状況に合わせて車線規制の 範囲を自在に変更が可能で、工事による渋滞の緩和が図れ るほか、コンクリート製防護柵でガードされた中で工事施 工が行えるため、高速道路上で行う工事規制の効率化・安 全性等に寄与する技術で、NEXCO3社が実施する高速道 路リニューアル工事などで導入されています。

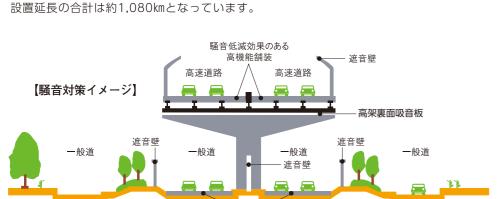


防護柵移動車両 BTM(N-Class) (Barrier Transfer Machine (Narrow-Class))

防護柵移動車両については、日本国内での作業性を考慮した小型化車両BTM (N-Class) を開発し、適用範囲の拡大を図っています。

# ◎ 沿道の生活環境におよぼす影響の低減

# 沿道環境におよぼす影響の低減を図るため、遮音壁設置により騒音対策や環境施設帯の整備などの対策を行っており、



騒音低減効果のある

高機能舗装



環境施設帯の整備事例



遮音壁の整備事例

#### ◎ 自然環境におよぼす影響の低減

エコロードの整備活動やエコ体験学習を実施したり、地域の方々と協力して緑化活動やビオトープの保全作業などに取り組んでいます。

環境施設帯

#### 【エコロードの整備活動】

環境施設帯

あきる野ICビオトープは、圏央道(日の出IC〜あきる野IC)の延伸供用と同時に2005年3月から運用され、道路建設の影響を回避、低減する緩和措置エリアとして、水辺・湿地、草地、中低木林、高木林の4ゾーンからなる新たな動植物の生息・生育空間(ビオトープ)を創出・整備するため、あきる野市を含むこの地方にもともとあった植栽などにより、植生や動植物の自然環境の復元を目的に整備されたものです。

整備後約17年が経過し、現地調査結果から植物種は約150種から約300種となり、動物種(鳥類、両生類・は虫類、昆虫類、水生生物等)も同様に約100種から約200種と増加しており、順調に自然環境の創出が継続されています。

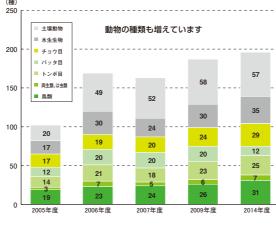




#### 【エコ体験学習やビオトープの保全作業】

地元小学生や高校生、自然環境有識者などの協力のもと定期的な体験学習やビオトープの保全作業などを実施しています。



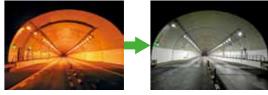




地元高校生とのビオトープ保全作業(青森道 青森中央IC)

#### ◎ 省エネルギー化と視認性に優れた照明の採用

トンネル内の照明を従来の「高圧ナトリウムランプ」から、「LEDランプ」などに変更することで、視認性の向上を図るとともに省エネルギーにも貢献しています。これまで320カ所のトンネルに設置し、2021年度は新たに38カ所のトンネルでLEDランプを設置しています。これまでに実施したLEDランプなどへの変更による使用電力量の削減は年間約4,000万kwh(CO<sub>2</sub>削減年間約2.2万トン)と推計され



高圧ナトリウムランプ

LEDランプ

ます。また、トンネル照明だけでなく道路の照明にもLEDを導入するなど、更なる電力削減に向けた取組みも行っています。

#### ◎ 地球温暖化防止に寄与する樹林形成

高速道路敷地内に、2021年度現在、約3,600haののり面に植樹を行ってきました。この樹林による $CO_2$ の吸収・固定効果は年間約3.8万トンと推計されます。

当社は、これらの樹林を含むグリーンインフラを適正に管理しています。





建設時ののり面植栽状況

約 20年後ののり面植栽状況

#### ◎ 緑のリサイクルへの新たなチャレンジ「バイオマスガス化発電」

高速道路の植栽管理作業で、草刈や樹木の剪定枝、間伐材などの植物資源(バイオマス)が発生しています。

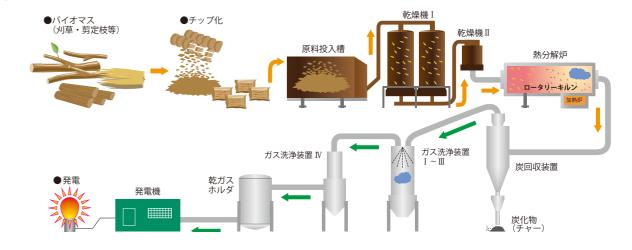
バイオマスガス化発電では、バイオマスを熱分解炉で加熱しガスを発生させ、そのガスをエネルギーとして発電し、料金所の電力の一部として活用しています。

バイオマスを直接燃焼せず、ガス化すると残渣として炭素 (炭)が発生しますので、その炭を土壌改良材等として有効活 用することで廃棄物を抑制することができます。



バイオマスガス化発電プラント

#### ● システムフロー



#### ■ 「技術力・ノウハウ」を活用した海外への事業展開

#### ◎ 路面性状測定車「E-NEXCO Eye」の運用開始

当社は、2009年インド駐在員事務所の開設以来、成長著しいインドを軸とした海外 事業展開を目指し、2019年11月1日に海外現地法人「E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED(ENI)]を設立しました。ENIでは、インドにおける当社グループの技術導入や これに関連する調査、本邦企業向けのインド進出支援などを展開しています。

2021年度は、路面性状測定車両[E-NEXCO Eye]をインドに導入し、12月より国道を 対象にひび割れ、わだち掘れ、IRI(乗り心地の指標)などを計測する路面性状測定業務を開 始しました。

E-NEXCO Eyeは、日本の高速道路で実際に使用している機器をインドの道路運営会社 などと共同で現地仕様にカスタマイズしたもので、車両の組み立ても現地で行いました。

現在、高度な舗装管理への要求が高まっているインドにおいて、最適な補修計画の立案 および安全な道路空間の実現に貢献するため、路面性状測定業務を全面展開していきます。 スタッフ2名の体制で運営



ENIは現在日本人駐在員2名、インド人





ENI担当者(写真左)によるE-NEXCO Eyeの説明



E-NEXCO Eyeの現地組立作業員



路面性状測定研修



E-NEXCO Eveの測定状況



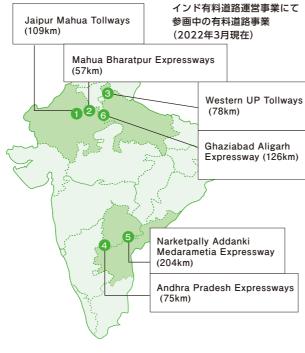
路面性状解析研修

#### ◎ インドの道路運営事業への参画

三菱商事株式会社、株式会社海外交通・都市開発事業支 援機構(JOIN)、日本高速道路インターナショナル株式会 社(JEXWAY)、当社が共同で日本コンソーシアムを設立し、 Cube Highways社 (Cube社) の有料道路運営事業に参画し ています。

当社は高速道路のノウハウを有する株主として、このコン ソーシアムから出資路線の点検業務を受注しました。また、 Cube社との間で休憩施設事業および道路維持管理全般に関 する技術アドバイザリー契約を結び、インドへの技術導入の現 地指導を行っています。

今後も道路運営事業に参画する立場を活かしながら、当社や 日本の高速道路技術をインドへと展開していくことを企図し ています。



#### ◎ ODAコンサルティング業務の実施

当社が有する高速道路の技術やノウハウを活用し、開発途上国を対象にODAコンサルティングを実施しています。イン ドでは持続可能な山岳道路開発のための能力向上プロジェクトを現地省庁と連携して進め、現地の高速道路事業の技術や 能力の向上に貢献しました。





山岳道路技術に関する議論

#### ◎ 国際協力

新型コロナウイルスの世界的拡大の影響で一部の業務は中断していますが、独立行政法人国際協力機構(JICA)を通 じて、高速道路の政策・計画・調査・建設・維持管理に関する長期専門家を派遣しています。また、国土交通省やJICAなど からの依頼で開発途上国の道路技術者を受け入れ、本邦研修を行っています。



JICA専門家による講義(写真左)



本邦研修で橋梁点検を行うJICA専門家(写真中央)

#### ○ 国際交流・国際会議

当社と技術協力協定を締結しているオーストリアASFiNAG社および各国の道路関係機関を訪問し、現場視察や道路技 術について意見交換を行っています。2021年度は、世界道路協会(PIARC)国際道路会議カルガリー大会、インド道路協会 (IRC) 主催の技術セミナー、日印道路交流会議などの学術会議を含む国際会議へ当社およびグループ会社の社員が参加し、 世界の高速道路技術に関する情報収集や、当社グループの技術やノウハウについて海外に情報発信を行いました。



インドWEBINARへ発表者として参加



日印道路交流会議(オンライン開催)



# 社会的責任を果たす役割

「やりがい」や「満足感」を実感できる職場環境づくり ······	67
人材育成/タスク・ダイエット&エスプラス活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
コーポレートガバナンス/リスクマネジメント	70
倫理行動規範の策定/コンプライアンス体制/コンプライアンス推進活動	71
法令遵守と公正性・透明性・競争性を確保した調達の実現/反社会的勢力などへの対応/情報セキュリティ確保への取組み …	72
高速道路事業の着実な進捗に向けた資金調達・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
お客さまの声に対する対応	
CSRに関する取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
地域活性化への取組み	76
環境経営の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
CO <sub>2</sub> 排出量削減への取組み ····································	
高速道路における環境対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
<b>事業に伴うエネルギー•物質の流れとリサイクルの取組み</b>	···· 80
フェークナルダーの比さまからのメッセージ	91

#### FROM SEO

24時間365日、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスを提供する という、私たちの使命を高い次元で実現していくためには、その担い手 である社員が生き生きと働ける環境づくりが不可欠です。

そのため、当社は、副業を広く認めることで、社外においてスキルや経験を得てキャリアや人脈の形成を行い、自身の成長と会社の活性化に繋げるとともに、社員の定年退職年齢を65歳まで引き上げ、高年齢者が活躍できる場を広げています。本年4月には学校法人先端教育機構様と「仙台事業構想大学院大学」を共同開設し、地域を巻き込んで当社も積極的に参画しながら、社会問題解決のための新たなビジネス機会の創出、地域への貢献、人材の育成につなげてまいります。

今後も、目まぐるしく変わる社会環境の変化に柔軟に対応できる人材 力の強化とともに、高速道路事業を通じた地域社会の発展と暮らしの向 上を目指し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

取締役 兼 常務執行役員 総務・経理本部長 椎名 穣



#### ◎ ライフ・ワーク・バランスの推進

NEXCO東日本グループでは、社員の一人ひとりが健康な生活を送り、安心し、やりがいを持って快適に働ける会社をつくるため、社員の健康保持・増進を支援して、ライフ・ワーク・バランスの充実を図れるよう、取り組んでいます。

年次休暇、特別休暇に加え、育児休業などの制度を充実させ、社員が家庭と職場を両立させながら安心して働ける環境を整えています。

# 2021年度休暇取得実績 平均 23.1日/年間

年次有給休暇、夏季特別休暇、 時短推進特別休暇、 設立記念特別休暇の合計



#### [各種休暇制度]

【甘性怀暇削及】	
年次有給休暇	毎年度20日間 ※年度の途中において採用された社員は、別に定める
夏季特別休暇	7日以内(2021年度実績) ※年度の途中において採用された社員は、別に定める
時短推進特別休暇	3日以内(2021年度実績) ※年度の途中において採用された社員は、別に定める
設立記念特別休暇	1日 ※10月1日に在職している社員
育児休業	子どもの養育のため、子どもが3歳に達する日まで
部分休業	小学校3年生までの子どもの養育のため、1日2時間以内
産前・産後休暇	社員が出産する場合は、産前6週間・産後8週間
配偶者分娩休暇	配偶者が出産する場合は、3日以内
子育て休暇	配偶者が出産した場合は、出産した子どもまたは小学校就学前の子どもの養育のため5日以内
看護休暇	小学校3年生までの子どもの看護のため、毎年度5日以内(2人以上の場合は10日以内) 1時間単位で取得可能
介護特別休暇	要介護者の介護のため毎年度5日以内(2人以上の場合は10日以内)1時間単位で取得可能
介護休暇	要介護者の介護のため、通算して186日以内(3回を上限とした分割取得可能)
配偶者同行休業	外国で勤務等する配偶者と生活をともにするため、3年を超えない範囲内

#### ◎ 多様で柔軟な働き方

当社では、テレワーク勤務制度や始業・終業時刻を柔軟に変更できる制度、出産・育児や介護を理由に転居を伴う転勤を 免除する社員の勤務地に関する特例制度、60歳を超えてもそれまでの経験・ノウハウを生かして現場の最前線で活躍でき る勤務制度など、すべての社員が育児や介護など一人ひとりの事情に合わせた柔軟な働き方ができるよう、各種制度を整 備しています。

#### ◎ 育児休業の更なる取得に向けて

当社では、男性・女性社員が仕事と育児を両立できるよう、育児休業の更なる取得を目指しています。 また、育児休業の対象となる社員の上司に、育児休業に関する職場の理解を深めるためにe-ラーニングを開設するなど、 全員でサポートできる体制を整えています。

#### ◎ 労働安全衛生

NEXCO東日本グループの労働安全衛生活動の根本となる基本理念を2013年4月に制定し、グループ全体でこれを共有しています。

また、当社社員の危険および健康障害の防止ならびに快適な労働環境の形成の促進を図り、安全衛生の水準の向上に資するために「労働安全衛生推進委員会」を設置し、健康障害の防止や健康の保持増進のほか、労働災害の原因分析および再発防止に努めています。

#### NEXCO東日本グループ労働安全衛生基本理念

NEXCO東日本グループは、グループの事業に携わるすべての者の安全の確保および健康増進を図ることが、事業実施の根幹をなすものであることを認識し、グループをあげて安全かつ快適な労働環境の維持・向上に努めます。

#### ◎ 社員の健康保持・増進

当社では、心理相談員の資格を有する看護師が常駐する「健康相談室」を本社・支社などに設置し、社員の健康管理をサポートしています。昨今問題となっているメンタルヘルスについても早くから取り組んでおり、ストレスチェック結果を反映させた階層別の研修の実施や、組織単位での分析結果に基づき職場環境改善に向けたアクションプランを作成し実施しています。また、個人単位では、入社3年目までの社員を対象とした外部コーチとの面談の実施など、積極的な取組みを行っています。

#### ◎ 健全な労使関係の維持

当社は、会社における良好な職場環境と人間関係を構築するためには健全な労使関係が基本にあると考え、労働組合からの意見が経営に反映される仕組みとして、経営者と労働組合との間で意見交換を行う「労使経営懇談会」を設けており、相互の理解を深めています。



労使経営懇談会の様子

新入社員研修をはじめ、階層別・業務別に求める人材像を明確にした研修をグループ全体で実施するとともに、「NEXCO東日本総合技術センター」では技術者の育成に向けた体験・体感型研修を実施しています。



現場研修の様子(関越トンネル)



新入社員研修の様子



ヘリポートの説明を受ける様子(守谷SA)

#### ■ タスク・ダイエット&エスプラス活動

NEXCO東日本グループでは、グループ社員一人ひとりが自発的に取り組む実施型の業務改善活動として「タスク・ダイエット&エスプラス活動」を実施しており、活動に取り組む社員のモチベーション向上などを目的として、毎年グループ全体で発表会を開催しています。

2006年度から活動を開始し、これまでに10,000件を超える改善事例が報告されています。



表彰式の様子



オンラインによる改善事例の発表

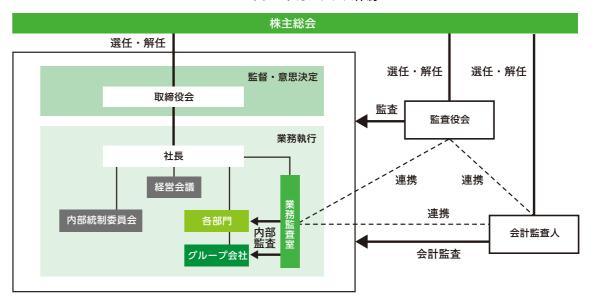


活動推進ポスター

#### ■ コーポレートガバナンス

当社は、コーポレートガバナンスを充実させ業務を適正かつ効率的に遂行するため、内部統制委員会を設置し、コンプライアンス体制(P71参照)、リスクマネジメント体制(下記参照)を構築するなど、内部統制システムの整備を図っています。

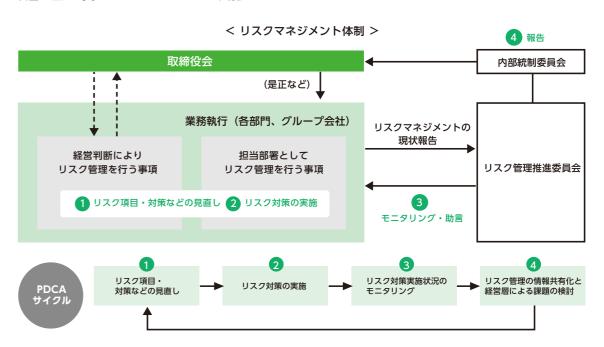
#### < コーポレートガバナンス体制 >



#### ■ リスクマネジメント

当社は、業務執行上のリスクについては、担当部署において対策を講じつつ、経営に大きな影響を与えるリスクに関して取締役会で審議するとともに、「リスク管理推進委員会」を設置し、PDCAサイクルに則ったリスクマネジメントの実施を支援しています。

同委員会では、関係部署が複数にまたがる横断的な事項を中心に、経営に与える影響の大きい最重要リスクを特定し、これらの項目を主な対象としてモニタリングを実施しています。



69 E-NEXCO Report 2022

NEXCO東日本グループの倫理行動規範は、企業の行動原則としての「企業行動基本方針」と、役員および社員の行動原則としての「私たちの行動指針」から成り立っています。また、自分の取るべき行動について迷ったときの判断基準として、【迷ったときの4つの判断基準】を掲載するとともに、個人携帯用カードを作成し、全社員に配布しています。

- I .企業行動基本方針
- Ⅱ.私たちの行動指針
- (1) ルールの遵守 (2) 人間尊重 (3) お客さまとの関係 「お客さまへの姿勢 /個人情報の保護|
- (4) 取引先との関係 (5) 株主・投資家との関係 「株主・投資家への責任/情報の開示」
- (6) 社会との関係 「地域社会への責任 /道路資産等の保全 /反社会的勢力等への対応 /国際社会への責任」
- (7) 環境との関係 (8) 社員との関係



## ■ コンプライアンス体制

当社は、社長を最高責任者とするコンプライアンス推進体制を構築しており、NEXCO東日本グループの全役員・社員が法令・社内規程・倫理行動規範を遵守するとともに、常に高い企業倫理と社会良識を持った行動とNEXCO東日本グループの経営理念・経営ビジョンに適合した行動を実践しています。

また、業務監査室がNEXCO東日本グループ全体のコンプライアンスを統括しています。

#### ◎ コンプライアンス委員会

NEXCO東日本グループとして、コンプライアンスに適合した行動を実践するために、コンプライアンス推進活動に関する事項を審議および検討するため、社外の有識者を委員に含む委員会を設置しています。

#### ◎ コンプライアンス推進責任者

当社では職場ごと、グループ会社では会社ごとにそれぞれ主体的にコンプライアンス推進活動に取り組むためにコンプライアンス推進責任者などを置き、定期的に会議を開催し、コンプライアンス推進に係る情報共有、連絡調整および意見交換などを行っています。

#### ◎ コンプライアンス通報・相談窓口

公益通報者保護法に基づき、当社およびグループ会社ごとに、社内および社外通報・相談窓口を設置しており、これを適正に運用することで、コンプライアンスに関する課題の早期発見・解決を図り、企業としての自浄作用が有効に機能するよう努めています。

#### ■ コンプライアンス推進活動

当社は、役員および社員などのコンプライアンス意識の定着および醸成を目的として、次のような推進活動を実施しています。

#### ①コンプライアンスに関する情報発信

コンプライアンスに関する法令、社内規則や倫理問題をとりまとめた「コンプライアンスマニュアル」を全社員に配布するとともに、「コンプライアンス掲示板」や「コンプライアンスサポート便」を運用することにより、各種情報の配信や意識の向上に努めています。

#### ②コンプライアンス研修・講演会の開催

コンプライアンス意識の浸透と向上を目的として、研修・講習会やeラーニングを継続的に実施するとともに社外講師による講演会を定期的に開催し、意識向上に努めています。

#### ③コンプライアンス意識調査の実施

社員のコンプライアンスに関する意識や課題を確認するとともに、コンプライアンスに関する取組みの効果を検証し、改善につなげるべく当社およびグループ会社 ごとに継続的に意識調査を実施しています。

#### ④コンプライアンス推進強化月間の設定

NEXCO東日本グループでは、10月を「コンプライアンス推進強化月間」に設定し、 社長からのトップメッセージの配信などの各種取組みを実施しています。

コンプライアンス講演会

#### ■ 法令遵守と公正性・透明性・競争性を確保した調達の実現

#### ◎ 適正な調達を確保するための取組み

- \*調達にかかる営業活動の自粛要請と接触禁止の徹底……入札参加希望者に対して、個別の発注条件に関する営業活動の自粛を要請するとともに、社員にも、接触を行わないよう倫理教育を行っています。
- \*調達手続きにかかる情報の管理の徹底……契約制限価格や発注予定などの未公表情報・非公表情報については、情報 セキュリティ対策を実施し、情報漏洩などの防止を徹底しています。

#### ◎ 公正性・透明性・競争性を確保した調達制度の構築と実施

- \*品質と価格に優れた調達の実現……競争契約の方法は、一般競争入札を原則とし、多様な入札契約方式から、事業・工事の特性などを考慮して適切な方式を選択することにより、品質と価格に優れた調達を実現しています。
- \*調達手続き、調達結果にかかる情報の公表……「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づき、工事などの調達情報や、主要工事の平均落札率を公表しています。
- \*調達手続きのDX(デジタルトランスフォーメーション)推進……テレワークなど多様な働き方に対応するため、電子入札・電子契約などDXを推進し、入札参加希望者の負担軽減を図っています。

#### ○ 入札監視機能の強化のための取組み

\*入札監視委員会および入札監視統一事務局の設置……「入札監視委員会」を支社ごとに設置し、入札契約手続きの経緯や審査状況などについて、外部有識者による審議を受けています。

また、「入札監視統一事務局」を設置し、入札契約手続きに関する事前・事後の審査やデータの収集分析を行い、手続きの適正化に努めるとともに、審査状況を入札監視委員会に報告しています。

#### ■ 反社会的勢力などへの対応

市民社会に脅威を与える反社会的勢力および団体などには、毅然として対応します。具体的には、各警察本部や暴力追放センターなどと連携した「不当要求防止連絡協議会」を各支社ごとに設置し、警察への連絡体制の構築と協議会内の情報共有を図るとともに、右のような方針で対応しています。

- ① 「不当要求団体を恐れない」、「不当要求団体に金を出さない」、「不当要求団体を利用しない」ことを実践する。
- ② 不当要求団体による不当な要求は断固拒否する。
- ③ 関係機関との密接な連携と一致団結した協力体制を 確立する。

#### ■ 情報セキュリティ確保への取組み

情報セキュリティに対する脅威が留まることなく変化し、情報資産が常に様々な脅威にさらされている中で、当社はグループ会社と一体となって、事業活動の中で取り扱う個人情報をはじめとする重要な情報資産の安全確保を徹底し、情報セキュリティ対策を実施しています。

#### ◎ 運用体制

情報セキュリティ対策に関する規程を定め、情報資産に接する役員、社員および当社で働くすべての者が係わる情報セキュリティ対策の運用体制を確立・維持・改善し、情報セキュリティを支える活動に継続的に取り組んでいます。

#### ◎ セキュリティ対策

情報システムが配置された区画への入退室管理、情報の重要度に応じた管理、情報セキュリティに関する社員教育や訓練およびサイバー攻撃や情報漏洩に対する技術的な対策など、情報の漏洩、改ざん、窃取などのリスクに対処するため、物理的、人的および技術的なセキュリティ対策を多層的に講じています。また、災害など非常事態が生じた際も情報へのアクセスを確保するため、情報システムを堅牢な施設に配置したり、情報通信ネットワークや機器を二重化するなどの対策を講じています。

万が一、重大な情報セキュリティインシデントが生じた場合は、経営陣により対応方針を決定するとともに被害を最小限にとどめるよう迅速に対応し、原因の究明および再発防止に努めます。

#### ◎ 対策状況の検査

情報資産を適正に管理するため、セキュリティ対策の実施状況を毎年点検し、必要な是正を行っています。

また、外部機関により情報システムの脆弱性やサイバー攻撃などの脅威に対する耐久性を検査し、対策状況の適正性を確認することで、情報システムの安全性を高く保っています。

71 E-NEXCO Report 2022 E-NEXCO Report 2022

#### ◎ 高速道路の建設・更新資金の調達

当社では、お客さまからいただく通行料金収入を、高速 道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに、高速 道路機構への賃借料の支払いにあてています。(P6参照)

一方で、高速道路の建設・更新事業に必要となる資金は、 社債の発行や金融機関からの借入れなどによって調達し ています。

#### ◎「ソーシャル・ファイナンス」によるSDGsへの取組み

当社は、国際資本市場協会(ICMA)が定めるソーシャ ルボンド原則に基づくソーシャル・ファイナンス・フレー ムワークを策定し、第三者評価を格付投資情報センター (R&I)から取得しており、『ソーシャル・ファイナンス』と して資金調達を行っています。

これにより調達した資金は、高速道路の建設・更新事業 を通じて、地域活性化・災害対策・交通安全の推進・環境保 全などといった観点から、社会的課題の解決に役立てて います。

また、2021年度は、東日本大震災から10年が経過した ことを踏まえ、福島県の復興・地方創成をテーマとしたオ ンラインセミナーや地域密着型セミナーへ参加するなど、 投資家等の皆さまに向けてソーシャル・ファイナンスを 通じた当社事業による社会的課題の解決について紹介す るとともに、投資家の皆さまとの意見交換を実施しまし た。今後も、各種SDGsセミナーへの参加などIR活動を通 じて、エンゲージメントを一層推進していきます。

#### ●ソーシャル・ファイナンスとは

社会的課題を解決する事業に充当することを目的とした資金調 達手段です。

当社では、高速道路の建設・更新事業に必要となる資金について、 ソーシャルボンド(社債)およびソーシャルローン(借入金)として 調達し230件を超える投資家・金融機関の皆さまから投資・融資を ご表明いただいています。

[ソーシャル・ファイナンス] について https://www.e-nexco.co.jp/ir/socialfinance/



#### ◎ 日本国債と同等の格付けの取得

当社は、R&I、ムーディーズ・ジャパン (Moody's)、日 本格付研究所 (JCR) から格付けを取得しており、投資家 の皆さまの客観的な投資判断に資するよう努めています。 これら格付機関からは、いずれも日本国債と同等の信用 格付けが付与されています。

#### < 資金調達の推移 (建設・更新資金分)>



※ 2019年7月以降の社債および借入金は全てソーシャルボンドおよびソー



オンラインセミナー『日本再興・地方創生を支える仕組み ~東日本大震災 からの復興とSDGs~ において、東日本大震災からの復興への取組みおよび SDGs債の発行について、株式会社野村資本市場研究所 サステナビリティ研 究センター長 江夏 あかね氏と対談を実施

#### NEXCO東日本の信用格付け

格付投資情報センター(R&I)(発行体格付け)	AA+
ムーディーズ・ジャパン(Moody's) (発行体格付け)	A1
日本格付研究所(JCR)(長期発行体格付け)	AAA

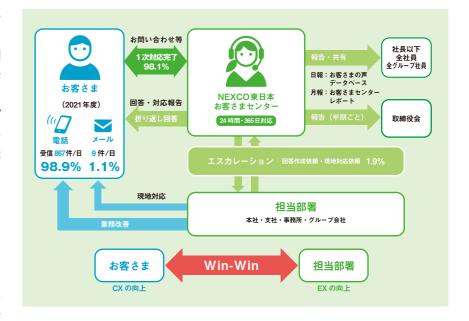
#### ■ お客さまの声に対する対応

お客さまセンターは24時間365 日、有人でお客さま対応をしていま す。お客さまセンターの第一の役割 は、お客さまの窓口として、お問い合 わせ等に高い品質で一元的に対応す ることです。また、いただきましたご 意見・ご要望は、経営層を含めグルー プ全体で共有・分析し、現地対応や業 務改善につなげ、お客さまサービス の向上の取組みに役立てています。

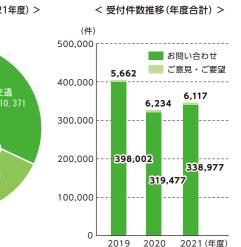
#### ◎「電話問い合わせ窓口格付け調査」 で三つ星を10年連続獲得

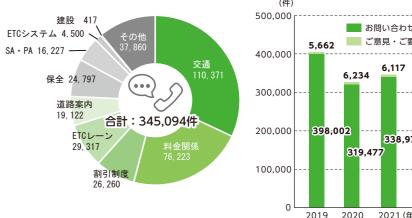
2021年、当社のお客さまセンター は、コールセンターの外部の格付 け専門評価機関(HDI:Help Desk Institute) による [電話問い合わせ 窓口格付け調査」で、最高評価の「三 つ星」を獲得いたしました。2012年 から10年連続となっています。





#### < お問い合わせ、ご意見・ご要望の内訳 (2021年度) >





#### ● お客さまの声を活かした改善事例

#### 東北道 国見SA(上下)バス優先マスにおける異車種駐車抑制の取組み

「国見SA(上下)のバス優先マスに小型車が停まっていて、バスを駐車できないことがしばしばある。対策してほしい。」

E-NEXCO Report 2022 74

#### 【対応の状況】

改善前

駐車マスに警告色(赤)の太枠線レーンマークを設置し駐車することへの抵抗 感を醸成。Twitterおよびデジタルサイネージで広報を実施。



車種に応じた駐車マスへの駐車を実現。



73 E-NEXCO Report 2022

NEXCO東日本グループの事業活動そのものが企業の 社会的責任を果たし、社会の発展に貢献するという考え のもと取組みを進めていますが、それだけではなく、高 速道路事業を活かしたCSR活動として、「地域社会の活性 化」、「交通安全の推進」、「環境保全」を中心に、各種取組み も進めています。

こうした取組みについては、当社コーポレートサイト のほか、各種広報ツールを活用し、社外への発信に努めて います。

#### ≪高福連携(こうふくれんけい)≫

農業と福祉の連携である「農福連携」から着想を得た、 高速道路と福祉が連携して幸福を拡げていく「高福(幸 福)連携」は、SA·PAの美化や植栽といった作業を協働し、 障がいのある方の活躍の機会とすることで、高速道路を 通じて地域社会の活性化に貢献することを目指す取組み です。

ダイバーシティを推進する「高福連携」は、SDGsの目標 10「人や国の不平等をなくそう」への貢献にもつながります。 2018年から全社的に展開していますが、現在では、口 ゴやWebを活用した積極的な発信を行い、統一的なCSR 活動となるよう取組みを後押ししています。

#### ≪子どもたちへの教育支援≫

次世代を担う子どもたちに対して、高速道路の工事現 場やSA·PAの見学会、小学校等への出前授業などを行う ことで、高速道路の役割や交通安全に関する教育支援を 行っています。

その他にも、ビオトープの保全作業やバードハウスの 製作などを通じて環境保護の大切さも伝え、子どもたち が様々な知識や感性を身につけるきっかけになることを 期待して取り組んでいます。



高福連携活動(花壇整備の様子)



# ◆ 高福連携

#### 高福連携の具体例

- ◎ SA・PA内の芝刈り、除草など人手のかかる 美化活動
- ◎ SA・PAなどの装飾などの環境整備活動
- ◎ SA・PAでの福祉施設で製造された商品の 販売
- ◎ 高速道路バス停の清掃活動



SA・PAの見学会

#### VOICE'

鶴岡管理事務所グループでは、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードに、障がい者支援施 設のみなさんと協働してPAの美化や植栽作業を行う「高福連携」、新型コロナウイルスに関わる偏見 や差別をなくすことを目的とした「シトラスリボンプロジェクト」の啓発活動、また、鶴岡市と共に SDGsの普及啓発や達成に向けた取組みを推進する「つるおかSDGs推進パートナー」への登録など、 CSRの取組みを行っています。お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利の向上を目指し、一つひ とつの活動に取り組んでいます。

グループ社員それぞれの特性や強みを認識し、高速道路の効果を最大限に発揮できるよう、そして、 それがSDGsの達成に役立っていることを感じながらこれからもCSR活動を推進してまいります。



鶴岡管理事務所 奥山 彩

#### ◎ CSRの社内浸透

社会の中の会社として、あらゆるステークホルダーの皆さまとの関係を大切にしながら、持続可能な社会の発展に貢献 するためには、CSRに対する社員の意識向上が不可欠です。

近年は特に、2030年に目標の達成期限を迎えるSDGsに関して、社員の知識習得や意識醸成を図るため、SDGsをテーマ とした講演会やセミナーといった各種取組みを行っています。

また、当社では毎年9月を[SDGs月間]と定め、様々なツールを活用しながらSDGsの浸透に取り組んでおり、年々、社員 の間でSDGsが浸透・定着してきているところです。



CSR講演会(講師:株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアスペシャリスト 村上 芽氏)



CSRセミナー (講師:サンメッセ総合研究所(Sinc)所長 川村 雅彦氏) ※2021年度はオンラインにて実施



NEXCO東日本グループ SDGsポスター

#### ■ 地域活性化への取組み

#### ◎ 観光振興

SA・PAにおける観光・物産イベントの開催、地域観光イベントへの 参加、オリジナル観光情報誌・PR動画の作成、スタンプラリーなどの取 組みを、地域と連携して行っています。また、感染症拡大防止に配慮し、 一部イベントをオンライン化するなど、新たな方法も用いながら地域 の魅力を発信しております。



スマートフォンを活用したスタンプラリー



地域の魅力を発信するオリジナル ガイドブック



お客さまからのおすすめスポット投稿によるオリジナルドライブ マップの作成



インバウンド向け観光PR動画

75 E-NEXCO Report 2022

#### ○ ISO14001 (環境マネジメントシステム) 認証取得 (2021年3月25日登録)

SDGs達成に貢献するCSR経営の推進に向け、国際規格であるISO14001 (環境マネジメントシステム)を本社として認証を取得し運用しています。また、現在の環境を取り巻く社会情勢をふまえ、新たに環境委員会を設置し、「環境行動指針」も併せて改訂(2021年1月29日)しています。

環境保全および環境活動を 推進し、社員における環境意識 の向上を図るため、環境方針・ 環境行動指針携帯カードを全 社員へ配付しています。





環境方針・環境行動指針携帯カード



ISO14001登録証

#### **環境方針** (2007年7月制定)

NEXCO東日本は、環境への取組みを経営の重要課題と位置付け、社会の責任ある一員として、地球環境の保全や循環型社会の形成に貢献するとともに、沿道の生活環境や自然環境の保全の取組みを進めることにより、社会から信頼される企業を目指します。

#### 環境行動指針 (2021年1月改訂)

NEXCO東日本は、環境方針に基づき、以下の行動を行います。

#### Ⅰ.環境保全の取組み

#### 1.地球温暖化防止への貢献

- ◎ 高速道路のネットワーク整備・強化や渋滞対策による交通の円滑化、のり面の樹林健全化により、二酸化炭素の削減に貢献します。
- ◎ 2050年二酸化炭素実質排出ゼロを目指します。

#### 2.循環型社会形成への貢献

◎ 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進、グリーン調達を推進することにより、循環型社会形成に貢献します。

#### 3、環境負荷の低減

- ◎ 事業活動のすべての段階において法令遵守し、環境 負荷の低減に努めます。
- ◎ 持続可能な社会の実現に向けグリーンインフラの構築に努めます。
- ◎ 生物多様性環境の保全に資するべく、自然環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- ◎ 沿道の生活環境に及ぼす影響の低減に努めます。

#### Ⅱ.技術開発

○ 持続的・効果的な地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

#### Ⅲ.環境経営の取組み

#### 1.環境マネジメント

- ◎ 環境保全の状況を毎年度分析·評価することにより、 取組みを持続的·効果的に実施します。
- ◎ ISO14001による環境マネジメント経営を実施します。

#### 2.コミュニケーション

- ◎ 環境マネジメントの結果を「NEXCO東日本レポート」により公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。
- ◎ 地域の方々や自治体、国などと連携した社会環境活動に取り組みます。

#### 3.社員教育

○ 社員教育を通じて、環境に関わる意識向上、企業風 土の醸成をさらに高めます。

### ■ CO₂排出量削減への取組み

#### ◎ 高速道路にかかわるCO。排出量

当社管内において、2021年度に排出されたCO<sub>2</sub>は約720万トンと推計されます。その内訳は、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるものが97.0%、道路やSA・PAなどの維持管理にかかわるものが2.5%、オフィス(社屋)にかかわるものが0.1%、建設・修繕工事の建設資材にかかわるものが0.4%となっています。

#### ◎ 維持管理にかかわるCO₂排出量の推移

維持管理にかかわる $CO_2$ 排出量のうち、約9割はトンネル照明・道路設備など電気の使用によるものです。電気使用量の削減は $CO_2$ 排出量の削減やエネルギー資源の節約にもつながることから、省エネタイプへの機器の更新や効率的な機器・機材の運用を進めています。その結果、管理延長1km当たりの $CO_2$ 排出量は2021年度には45.4トン- $CO_2$ となっており、2013年度の57.1トン- $CO_2$ から約20%削減しています。

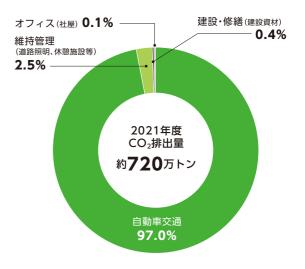
#### ◎ オフィス活動にかかわるCO。排出量の推移

クールビズやウォームビズ、照明の消灯、ハイブリッド自動車の導入などにより、オフィスで使用するエネルギー使用量の削減に努めています。2021年度は約4,000kl使用しており、2013年度の約4,400klから約1割削減しています。

#### < オフィス活動におけるエネルギー使用量の推移 >



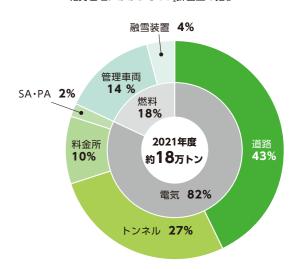
#### < 高速道路にかかわるCO₂排出量の内訳 >



#### < 維持管理にかかわるCO₂排出量の内訳 >



#### < 維持管理にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の推移 >



#### 新たな高速道路料金体系による環境改善

高速道路の整備により安定した速度での走行が可能となり、一般道の利用に比べ $CO_2$ のほか、 $NO_X$ やSPMの排出量も削減されます。

首都圏では、圏央道、外環道などの高速道路ネットワーク整備が進み、2016年度にスタートした新たな料金体系の導入効果と相まって、長距離交通は都心通過から外側の環状道路に転換し、また、首都高速の短距離移動利用の増加による一般道の交通の円滑化など、渋滞損失時間の減少、旅行時間の短縮・定時化による交通改善効果を発揮しています。

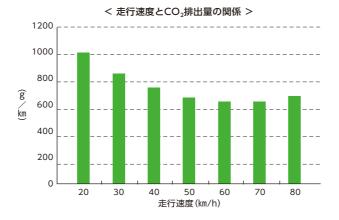
これらの交通改善は、 $CO_2$ などの排出抑制にも寄与するものです。

#### ◎ 料金所や本線の渋滞緩和によるCO₂の削減

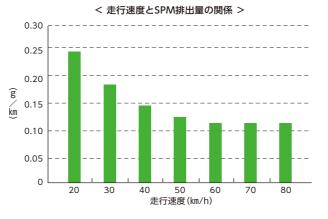
自動車は低速時や加速時に多量の燃料を消費します。 そのため、ETC利用の促進や本線の渋滞緩和は $CO_2$ 排出量の削減に効果をもたらします。

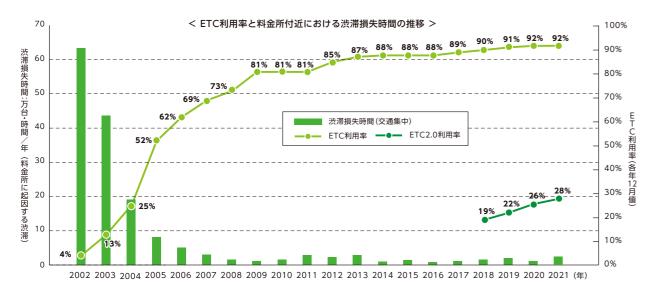
2021年のETC利用率は92%となり、料金所付近における渋滞損失時間は、ETC導入初期の2002年に比べ約98%減少しています。

本線では、渋滞が顕在化する箇所において付加車線の設置(増設)などの渋滞緩和対策を実施しています。また、更なる渋滞緩和対策として渋滞予測情報の提供など、渋滞回避に向けた広報活動を行っています。





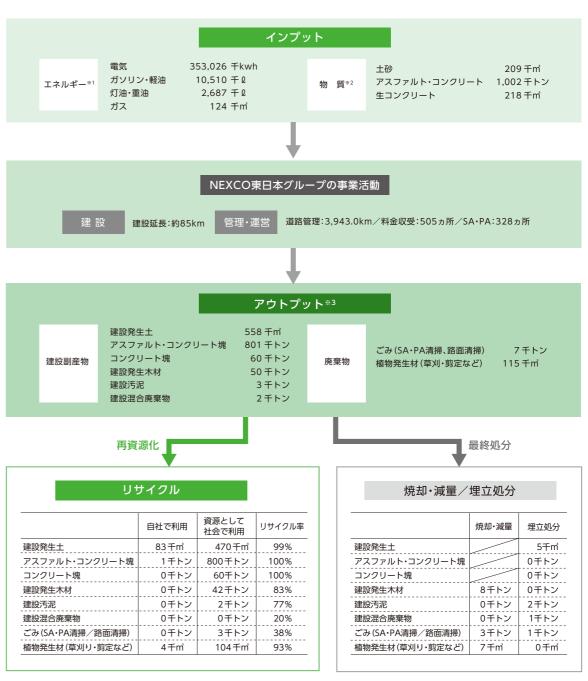




#### ■ 事業に伴うエネルギー・物質の流れとリサイクルの取組み

NEXCO東日本グループの事業で使用するエネルギーは、トンネル照明・道路設備などの電気、維持管理車両や融雪装置などの燃料です。また、高速道路の工事では、主に土砂、アスファルト・コンクリート混合物、生コンクリートを使用しています。

これら事業により排出された建設副産物、廃棄物(ごみ)については、可能な限り再生資源としてリサイクルしています。



- ※1 エネルギー投入量:2021年度事業を集計
- ※2 物質投入量:2021年度に完了した工事を対象に主要資材(土砂、アスファルト・コンクリート、生コンクリート)を集計
- ※3 物質の排出量:2021年度事業を対象に建設リサイクル法に定められた建設副産物のほか、SA・PAのゴミ箱から回収されるごみ、路面清掃から回収されるごみ、および草刈・樹木剪定作業により発生する植物発生材について集計

観光や地域振興を皮切りに幅広い分野で連携し、北海道の魅力を道内外に発信

# ノードハンノ事業で入べの土冶を支えていい

● 継続した災害備蓄品の食料寄贈を締結



北海道庁

右) 官民連携推進室 小長谷 由之様

中) 都市環境課 大島 あい様

左) 観光振興課 **間宮 寿之**様

#### ● 魅力あふれる北海道の更なる活性化を図る 包括連携協定

北海道庁では、民間企業などからノウハウやアイデアのご支援をいただきながら、公共サービスの充実や行政コストの削減など、地域課題の解決を目的に、現在、民間企業など110社(2022年5月時点)と包括連携協定を締結しています。

NEXCO東日本とは2015年6月に協定を締結し、それ以降、北海道の歴史や文化などの価値を再認識することを目的に2017年に制定された「北海道みんなの日(7月17日、愛称:道みんの日)」のPRや、2020年7月に誕生した民族共生象徴空間「ウポポイ」の周知、北海道植樹祭の協賛、SA・PAのデジタルサイネージなどを活用したPRなど幅広い分野で積極的に協働いただいています。

また協定締結以前から、NEXCO東日本が発行する「北海道ドライブガイド」による道内観光のPRなどにもご助力いただくなど、長年にわたって協力関係を築いてきました。

#### ● NEXCO東日本とコラボした 「ガーデンフェスタ北海道2022」と 「HOKKAIDO LOVE!」プロジェクト

2022年6月25日~7月24日にかけて、北海道の恵庭市をメイン会場に花と緑のイベント「ガーデンフェスタ北海道2022」を開催しました。これは、毎年全国各地の都市が持ち回りで行う都市緑化意識の高揚を目的とした花と緑に関する国内最大級のイベントです。

今年は、市民主導で「花のまちづくり」が進められてきた恵庭市にある花の拠点「はなふる」をメイン会場に、道内32カ所の公園や庭園を協賛会場として実施しました。ただ、協賛会場が道央・道南・道北・道東まで幅広く点在するため、参加者に周遊していただくにはどうすればいいかが課題として挙がりました。

その際、NEXCO東日本が以前より実施している「北海道スマホスタンプラリー」のスポットに、新たに「ガーデンフェスタ北海道2022」のメイン会場と協賛会場あわせて11カ所を登録していただき、加えてガーデンフェスタのスポットを周遊した方を対象とした賞も設定してもらうなど、課題解決につながるアイデアをご提供いただきました。

また、アフターコロナも見据えて食や自然といった北海道の魅力を発信し、国内外の「北海道ファン」の来訪意識を高める官民連携プロジェクト「HOKKAIDO LOVE!」(2020年6月始動)では、北海道内の全ての高速道路が定額で乗り放題になるETC車限定ドラ割と「HOKKAIDO LOVE!」とのコラボ企画「HOKKAIDO LOVE! 道(みち)トクふりーぱす」を販売していただくなど、道内外に対してイベント・プロジェクトの周知や観光振興に大きく寄与していただきました。

#### ● 今後も幅広い分野で協力関係を充実させ 北海道を盛り上げたい

広大な北海道を周遊するためには、高速道路の存在は必要不可欠です。人が多く集まるSA・PAで、その地域の旬や特色などを盛り込んだ観光・物産イベントを実施し、北海道の魅力を広く効果的に発信いただける取組みに今後もご協力いただければと思っています。また「ガーデンフェスタ北海道2022」は1ヵ月で終了しましたが、メイン会場や協賛会場は既存施設を活用しているため、今後もこれらの公園や庭園をより多くの方に楽しんでいただくためにも、NEXCO東日本と継続して連携できればと考えています。

あわせてこうした観光振興や情報発信に留まらず、デジタル化の推進や脱炭素の実現など、さまざまな地域課題の解決にも協働して取り組み、総合的な視点から北海道を盛り上げることができればと期待しています。



花の拠点「はなふる」



## NEXCO東日本と共に東北の風土に根差したフードバンク事業で人々の生活を支えていく



特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN **富樫 花奈** 様

#### ● 生活困窮者に食を届ける 「ふうどばんく東北AGAIN」

「ふうどばんく東北 AGAIN」は、東北初のフードバンク団体として2008年11月に設立しました。団体名には、「もったいない」の心や人との助け合いを大切にする東北の"風土"に根差した事業を展開していきたい、また、「AGAIN」は「あがいん」と読むように、寄付された食品を"再度"(=AGAIN) "あがらいん"(東北弁で「お食べください」の意味)の気持ちで困っている方にお配りしたいという思いが込められています。

私たちは、食品口スの削減と生活困窮者を支援することを目的に、食品廃棄物のうち可食部分を企業や一般家庭などから寄贈いただき、必要な方に届けています。また、こども食堂(おやこ食堂)とカフェを開設し、地域のコミュニティづくりや地域の拠り所として活動するとともに、フードバンク事業の勉強会や小学校での出前授業、活動を通してのSDGs実現に向けた講演会など、団体の活動を多くの方に知っていただくための広報活動も積極的に行っています。さらに、NPOやボランティア団体と連携し、勉強を必要とする子どものために寺子屋を開いたり、生活保護が必要な方に窓口を紹介するなど、食品を配布して終わりとするだけではなく、根本的な生活の立て直しができるよう、食を切り口にして多方面から生活困窮者を支援しています。



こども食堂の様子



弁当支援

そうした私たちの活動に賛同し、協力していただけることになったのがNEXCO東日本です。今回、2021年1月15日付で「寄贈に関する同意書」を締結し、保存期限が2カ月程度となった災害備蓄品の食料を寄贈していただくことになりました。NEXCO東日本には、これまで3回にわたりアルファ米や缶詰など災害用食品を寄贈していただいており、調理せずに食べられる有用な食料として、ガス・電気等を利用できない生活困窮者にありがたく配布しています。支援先である東日本大震災の復興住宅では、震災を忘れないように防災食を食べ、常に災害に備えるという観点からも、この配布を大変喜んでいました。

震災から10年以上が経ちますが、いまだに生活が立ち直っていない方々が多くいらっしゃいます。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で失職した方は多く、生活困窮者が増え続けているのが現状です。その中で、一度に寄付していただく量が多い企業は貴重ですし、大きな組織が動くことによって世の中の意識も変化していくため、企業が果たす役割は非常に大きいといえます。食料は配れば無くなってしまうものです。NEXCO東日本には、一度の支援だけで終わらず、継続して関わっていただけることに心から感謝しています。

#### ● 高速道路ネットワークを持つ NEXCO東日本だからできること

フードバンクは各県に存在しており、それぞれがさまざまな事情や課題を抱えています。その課題の一つが物流です。実際、災害時に物資を必要なところに届けられなかったことが今までに何回もありました。災害直後は、いかに現地と紐づいている団体に物資を届けられるかというのが重要です。そんなとき、NEXCO東日本が管理する高速道路ネットワークをうまく活用して、確実に物資を届けられたら、こんなに心強いことはありません。

コロナ禍で2021年度の当団体における総支援重量は170tとなり、前年度の96tと比べると支援量が急増していることが分かります。今後も、NEXCO東日本をはじめとする企業や人の力を借りて、支援を必要としている方の笑顔につなげていきたいと思っています。



災害備蓄品の寄贈 (写真左・中央:NEXCO東日本社員、右:富樫様)

81 E-NEXCO Report 2022 E-NEXCO Report 2022

### 高速道路と福祉の連携で障がい者の未来を守りたい

群馬県太田市



太田市役所 福祉こども部 障がい福祉課 課長補佐 **荻野 寛之**様

#### ● 障がい者就労支援施設の利用者がつくった製品を 販売するふくしショップ「ぐんぐん」

群馬県の南東部に位置する太田市は、金山八王子丘陵の豊かな緑を有する、人口22万人の都市です。同市は輸送機器産業を中心に形成された北関東随一の工業都市であり、農業においてもヤマトイモや小玉スイカなど、県内有数の産業出荷額を誇っています。また、福祉の分野において、市内の就労系





や生産活動を行っている事業所では、障がに向けた る事業所では、に向けた 引練や地域イベント売 訓練や地域を出版では の参加・製造すが、 の参っていますが、 所等と情報サイをといる がらいますがあること がらいまで、 がいることを で、 で、 で、 で、 で、 と がいますがいますがること で、 で、 で、 で、 と がいますがいますがいますがいます。

その一環として、障がい福祉課では、平成

25年に「障害者優先調達法」\*の施行を受け、ふくしショップ「ぐんぐん」を企画し、取り組んできました。これは、月1回、庁舎の市民ロビーにおいて、障がい者がつくった製品を販売するというものです。今回、NEXCO東日本高崎管理事務所から「障がい福祉に関わる方々とタイアップしたい」とお声がけいただき、この「ぐんぐん」を北関東道太田強戸パーキングエリアに出店しました。

NEXCO東日本にご提案いただいた際、「高福連携の取組みとして障がい者の活躍の機会を設け、高速道路を通じて地域社会の活性化を目指している」と聞き、コロナ禍での新たな「ぐんぐん」の出店場所を開拓できるだけでなく、パーキングエリアを利用される市外の方にも我々の取組みを広くアピールできることに大きなメリットを感じました。

#### ● 市内外の人に障がい者の活動を 広く知っていただける機会に

開催にあたり、これまで「ぐんぐん」に参加していただいた障がい者就労支援事業所向けに説明会を行ったほか、市のホームページや広報紙などで取組みの周知を図りました。こうした高福連携の取組みは、私たちにとって初めての試みで不安もありましたが、NEXCO東日本の皆さまに何度も話し合いの場を設けていただき、細かいアドバイスをいただいたことで何とか準備を進めることができました。また、今回ご参加いただいた障がい者就労支援施設の職員の皆さまにも、開催前日の夜遅くまで商品展示等のレイアウトを試行錯誤していただきました。

そうして開催した「ぐんぐん」は、施設利用者にも喜んでいただけたようで、「高速道路で販売した喜びを家族に伝えた人も多かった」と聞いています。施設職員の皆さまからは、今後の開催アイデアがいくつも上がっており、「高福連携のもと、この取組みを続けていきたい」という声をいただいています。障がい福祉課としても、市内外の方に障がい者の活動を広く知っていただける良い機会になったとともに、アイデアを具現化させるヒントを得ることができ、今後もこの取組みを継続し、定着させていけたらと考えています。

# ■ 高福連携の取組みで障がい者の就労支援につなげたい

障がい福祉は、障がいのある子を持つ親が抱える親族が亡くなった後の生活への不安、いわゆる「親亡き後問題」が大きな課題です。その中で、就労機会の場を増やすことは重要であり、行政ができる親に代わる支援の一つであると考えています。今回のNEXCO東日本との取組みは、そういった意味でも大きな成果を得られたと感じています。今後も「ぐんぐん」だけにとどまらず、NEXCO東日本が行っている清掃や植栽などの活動にも参加させていただき、障がい者の就労支援につなげられればと思っています。そして、「みんなで支える福祉のまちづくり」を推進し続け、地域で暮らす障がい者、またその家族の不安が少しでも減っていくことを願っています。



北関東道 太田強戸PAでの販売会の様子

#### ※障がい者が就労によって経済的な基盤を確立するために、国や地方公共団体等が率先して障害者就労施設等から物品等の調達を推進するよう、必要な措置を講じることを 定めたもの。

#### NEXCO東日本と地域のつながりを通じて地元をもっと盛り上げたい



関越トンネルコンシェルジュ 田村 恭平 様

### ● 普段見ることのできない高速道路の裏側を楽しめる 「関越トンネルインフラッアー」

「関越トンネルインフラツアー」は、2018年よりNEXCO東日本が始めた関越トンネルの裏側を見学できるツアーです。同ツアーは、緊急時に使用する避難坑や巨大なファンが目を見張る大型送風機、高さ180mに及ぶ換気塔の登頂など、普段の高速道路利用では見ることのできないトンネルの裏側に触れられる魅力あふれるものです。

その「関越トンネルインフラツアー」が企画された際、新潟県南魚沼郡湯沢町で民宿を営む私にガイドをしませんか、というお話しをいただきました。宿泊業の傍ら観光ガイドとしても活動しており、ちょうど全国通訳案内士の資格も取得し、さらにガイドの活動を本格化させたいと考えていたところでした。そこで、この嬉しい依頼を快諾し、関越トンネルの裏側を第三者の目線で紹介する「関越トンネルコンシェルジュ」として活動することになりました。

1回のツアー時間はおおよそ2時間半で、越後湯沢駅か関越自動車道 土樽PAに集まり、そこからジャンボタクシーに乗って避難坑に入っていきます。その間、車内では、見学時にスムーズに説明内容を理解してもらうことと、ツアーへの期待感を高めてもらうことを狙いとして、関越トンネルの設備について説明する音声を流しています。また、見学中も適宜質疑応答を実施するなど、貴重な体験を存分に楽しんでいただけるよう心がけています。

#### ●NEXCO東日本が「地域とつながる」ことで 地域振興の足掛かりに。その思いに共感

この「関越トンネルインフラツアー」のガイド依頼のお話をいただいた当初、親交のあるNEXCO東日本の社員の方にツアーの開催理由を尋ねたことがありました。すると、高速道路というインフラの重要性を広く認知していただくことや、

お客さまと直接接点を持つことに加え、「地域とつながり、連携して観光振興や地域貢献したい」との答えが返ってきました。私自身、観光はその地域やブランド力を盛り上げるためのツールだと考えていたため、NEXCO東日本の考えに触れ、地元民の一員として大変共感し、一緒に盛り上げていこうと思いを一つにしたことを今でも覚えています。

現在、関越トンネルコンシェルジュとして活動しているのは私を含めて3名です。そのメンバー内で特に重要視していることは、「関越トンネルインフラツアー」を通してNEXCO東日本が高速道路をご利用されるお客さまの安全確保に全力で向き合っていることを伝えることです。普段何気なく通っているトンネルも、実は安全に運用するために細かなところまで配慮した設計が為されていることを知り、感動される参加者も多くいらっしゃいます。そうしたNEXCO東日本の姿勢を、それとなくツアー参加者の方に言葉で伝えることが、我々地元民ができるNEXCO東日本への恩返しだと思っています。

#### ●NEXCO東日本と湯沢町 お互いが助け合える関係をさらに醸成したい

今後も協力してツアーを行っていくにあたり、関越トンネルコンシェルジュとしてさらに知識に磨きをかけ、よりわかりやすい解説を心がけていくことが私の目標です。合わせてツアーにおける案内や仕切りなど、我々ができることであればどんどん関越トンネルコンシェルジュに任せていただき、少しでもNEXCO東日本の皆さまの思いに応えていきたいと考えています。そして、ゆくゆくはコンシェルジュ自体の数をもっと増やすことで、こうした観光ツアーが毎日どこかで行

われているような地域にし、NEXCO東日本の皆さまとともにサポートし合いながら地域を盛り上げていければと期待しています。



関越トンネルインフラツアーの様子



ツアーのPR動画への出演

#### 東日本高速道路株式会社(East Nippon Expressway Company Limited) 〒100-8979 東京都千代田区霞が関三丁目3番2号 新霞が関ビルディング TEL:03 (3506) 0111 (代表) 所 在 地 (サービスエリア事業本部) 〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目3番17号 MOMENTO SHIODOME 6階 本 代 表 者 代表取締役社長 由木 文彦 資 設 <u>17</u> 2005年10月1日 数 2,457人(2022年3月31日時点、社外への出向者を除き、社内への出向者を含む) 高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、 業 目 もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること 高速道路の管理運営・建設事業、サービスエリア事業、駐車場事業、高架下活用事業、 事 業 内 容 トラックターミナル事業、カード事業、ウェブ事業、ホテル事業、海外事業 など

北海道支社		〒004-8512 札幌市厚別	艺大谷地西五丁目12番30号 TEL:011(896)5211(代表)			
	東	北	支	社	〒983-8477 仙台市宮城野	予区榴岡一丁目1番1号 JR仙台イーストゲートビル TEL:022(395)4002(代表)
	関	東	支	社	〒330-0854 さいたま市	宮区桜木町一丁目11番20号   大宮JPビルディング   TEL:048(631)0001(代表)
	新	潟	支	社	〒950-0917 新潟市中央国	【天神一丁目1番 新潟プラーカ3 TEL:025(241)5111(代表)

## 役員一覧

#### 取締役



取締役会長 岡本 圀衞

1969年6月 日本生命保険相互会社入社 2005年4月 同社代表取締役社長 同社代表取締役会長 2018年4月 同社取締役相談役 2018年6月 当社取締役会長(非常勤) (現在) 2018年7月 日本生命保険相互会社相談役(現在)



代表取締役社長 由木 文彦

伊勢田 敏

1983年4月 建設省 (現国土交通省) 入省 2015年7月 国土交通省住宅局長 同省総合政策局長 2018年7月 同省国土交通審議官 2020年7月 復興庁事務次官 2021年10月 三井住友海上火災保険株式会社顧問 2022年4月 当社顧問 2022年6月 当社代表取締役社長 (現在)

取締役 兼 常務執行役員 経営企画本部長

1986年4月 建設省(現国十交涌省)入省

2015年7月 当社経営企画本部本部付部長

2018年7月 同省九州地方整備局長

常務執行役

2022年6月 当补取締役 兼 常務執行役員

2016年6月 国土交通省道路局高速道路課長

2019年10月 一般社団法人日本建設業連合会

経営企画本部長 (現在)



代表取締役 兼 専務執行役員 建設事業本部長 髙橋 知道

1982年4月 日本道路公団入社 2015年6月 当社執行役員管理事業本部 副本部長 兼 保全部長 2016年6月 当社執行役員 関東支社長 2018年6月 当社常務執行役員 関東支社長 2019年6月 当社取締役 兼 常務執行役員 管理事業本部長 料金システム開発室担当 2022年6月 当社代表取締役 兼 専務執行役員 建設事業本部長 (現在)

取締役 兼 常務執行役員 技術本部長

2015年7月 当社管理事業本部本部付部長

2022年6月 当社取締役 兼 常務執行役員

技術本部長 (現在)

2016年6月 当社経営企画本部経営企画部長

当社執行役員 関東支社長 2021年6月 当社常務執行役員 関東支社長

1986年4月 日本道路公団入社

良峰 透

2019年6月



#### 取締役 兼 常務執行役員 管理事業本部長 八木 茂樹

1986年4月 日本道路公団入社 2014年10月 当社事業創造企画室長

2015年3月 当社事業創造企画室長 兼株式会社ネクスコ東日本イノベーション&コミュニケーションズ 代表取締役社長 2016年6月 当社管理事業本部保全部長 2019年6月 当社執行役員 東北支社長 2021年6月 当社常務執行役員 東北支社長 2022年6月 当社取締役 兼 常務執行役員 管理事業太部長 料金システム開発室担当 (現在)



取締役 兼 常務執行役員 総務·経理本部長 椎名 穣

1986年4月 日本道路公団入社 2014年7月 当社総務・経理本部総務部長 当社関東支社副支社長 2018年7月 当社総務・経理本部本部付部長 2019年6月 当社執行役員 総務・経理本部人事部長 2022年6月 当社取締役 兼 常務執行役員 総務・経理本部長 (現在)



#### 取締役 宮川 暁世

2014年3月 同社情報企画部課長 2016年4月 同社情報企画部次長 2017年4月 同社財務部課長 2019年6月 同社企業金融第6部次長

2022年6月 当社取締役(非常勤) (現在)

#### 監査役



監査役(常勤) 佐藤隆二

1984年4月 日本道路公団入社 2016年7月 当社総務・経理本部総務部長 2019年6月 株式会社ネクスコ・トール関東 **直務取締役** 2020年6月 株式会社NEXCO保険サービス 代表取締役社長 2022年6月 当社監査役(常勤) (現在)



#### 監査役(常勤) 黒田 泰則

1987年4月 安田火災海上保険株式会社入社 2014年9月 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 2015年4月 同社運用企画部長席付特命部長

兼損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社 運用企画部長 2017年4月 同社経理部長兼 SOMPOホールディングス株式会社 経理部長席付特命部長

2018年4月 損害保険ジャパン株式会社執行役員 経理部長 兼SOMPOホールディングス株式会社

執行役員経理部長 2019年6月 SOMPOホールディングス株式会社 執行役経理部長

2021年4月 同社執行役員 経理部長 2022年4月 損害保険ジャパン株式会社顧問 2022年6月 当社監査役(常勤)(現在)



#### 監査役(常勤) 河内 祐典

1991年4月 大蔵省(現財務省)入省 2016年7月 内閣府政策統括官 (経済社会システム担当) 付 参事官 2019年7月 預金保険機構国際統括室長 2020年7月 同機構調査国際部長 2021年7月 財務総合政策研究所副所長 2022年6月 当社監査役(常勤)(現在)



#### 監査役 矢ケ崎 紀子

1987年4月 株式会社住友銀行 (現株式会社三井住友銀行) 入行 1989年10月 日本情報サービス株式会社 (現株式会社日本総合研究所)

上席主任研究員 2008年10月 国土交通省観光庁参事官(観光経済担当) 2014年6月 日本貨物鉄道株式会社社外取締役(現在) 2018年4月 東洋大学国際観光学部教授 2019年4月 東京女子大学現代教養学部教授(現在) 2020年6月 東武鉄道株式会社社外取締役(現在)

2021年6月 当社監査役 (現在)

#### 執行役員



常務執行役員 サービスエリア・新事業本部長 吉見 秀夫

1987年4月 日本道路公団入社 2016年10月 当社管理事業本部営業部長 2018年6月 当社本社 総務·経理本部経理財務部長 2019年6月 当社執行役員 総務·経理本部経理財務部長 2022年6月 当社常務執行役員 サービスエリア・新事業本部長 (現在)

執行役員	堀圭一	建設事業本部副本部長 兼 建設部長
執行役員	阪上 浩志	料金システム開発室長
執行役員	松坂 敏博	経営企画本部経営企画部長
執行役員	原島 敏明	総務·経理本部人事部長
執行役員	佐藤 雄彦	総務·経理本部経理財務部長
執行役員	長内 和彦	北海道支社長
執行役員	田仲 博幸	東北支社長
執行役員	千田 洋一	関東支社長
執行役員	梅木 秀郎	新潟支社長

(2022年7月1日現在)

※取締役会長 岡本 圀衞および取締役 宮川 暁世は、非常勤の社外取締役です。監査役 黒田 泰則、河内 祐典および矢ケ崎 紀子は社外監査役です。

**85** E-NEXCO Report 2022 E-NEXCO Report 2022 86

……グループ会社(2022年7月1日現在)

#### 株主総会 監査役会 取締役会 監査役 会長 監査役室 経営会議 社長 内部統制委員会 コンプライアンス委員会 業務監査室 リスク管理推進委員会 料金システム開発室 労働安全衛生推進委員会 経営企画本部 経営企画部 情報システム部 管理事業本部 営業部 東京湾横断道路㈱ 保全部 ㈱NEXCOシステムソリューションズ 施設部 総務部 総務·経理本部 交通部 人事部 ITS推進部 広報·CSR部 高速道路トールテクノロジー㈱ 経理財務部 建設部 建設事業本部 ㈱NEXCO保険サービス 用地部 技術本部 技術•環境部 ㈱ネクスコ東日本トラスティ 海外事業部 サービスエリア・ サービスエリア事業部 新事業本部 事業創造部 新事業推進部 総合技術センター ネクセリア東日本㈱ ㈱高速道路総合技術研究所 ㈱ネクスコ東日本リテイル 日本高速道路インターナショナル(株) ㈱ネクスコ東日本エリアサポート E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED 東北高速道路ターミナル(株) ㈱ネクスコ東日本イノベーション &コミュニケーションズ 北海道支社 東北支社 関東支社 管理事務所(5カ所)工事事務所(2カ所) 管理事務所 (13カ所) 工事事務所 (3カ所) 管理事務所 (14カ所) 工事事務所 (6カ所) 管理事務所(4カ所)工事事務所(1カ所) ㈱ネクスコ・サポート北海道 ㈱ネクスコ・トール東北 ㈱ネクスコ・トール関東 ㈱ネクスコ・サポート新潟 ㈱ネクスコ・エンジニアリング北海道 ㈱ネクスコ・エンジニアリング東北 ㈱ネクスコ・トール北関東 ㈱ネクスコ・エンジニアリング新潟 ㈱ネクスコ・メンテナンス北海道 ㈱ネクスコ・メンテナンス東北 ㈱ネクスコ東日本エンジニアリング ㈱ネクスコ・メンテナンス新潟 ㈱ネクスコ・パトロール東北 ㈱ネクスコ・メンテナンス関東 ㈱ネクスコ・パトロール関東

## グループ会社一覧 (2022年7月1日現在)

子会社21社 関連会社7社

会社	出資関係	地区名	業務内容	本社所在地
㈱ネクスコ・トール東北	子会社	東北地区		仙台市青葉区
㈱ネクスコ・トール関東	子会社	関東地区	料金収受業務	東京都墨田区
㈱ネクスコ・トール北関東	子会社	関東地区		さいたま市大宮区
㈱ネクスコ・エンジニアリング北海道	子会社	北海道地区		札幌市白石区
㈱ネクスコ・エンジニアリング東北	子会社	東北地区		仙台市青葉区
(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	子会社	関東地区他	保全点検業務	東京都荒川区
(㈱ネクスコ・エンジニアリング新潟	子会社	新潟地区		新潟市中央区
(㈱ネクスコ・メンテナンス北海道	子会社	北海道地区		札幌市白石区
㈱ネクスコ・メンテナンス東北	子会社	東北地区		仙台市青葉区
㈱ネクスコ・メンテナンス関東	子会社	関東地区	維持修繕業務	東京都千代田区
㈱ネクスコ・メンテナンス新潟	子会社	新潟地区		新潟県長岡市
㈱ネクスコ・パトロール東北	子会社	東北地区		仙台市青葉区
㈱ネクスコ・パトロール関東	子会社	交通管理業務 関東地区		さいたま市中央区
㈱ネクスコ・サポート北海道	子会社	北海道地区		札幌市厚別区
㈱ネクスコ・サポート新潟	子会社	料金収受および   交通管理業務   新潟地区		新潟市中央区
㈱ネクスコ東日本トラスティ	子会社	用地調査管理、財産	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京都港区
ネクセリア東日本㈱	子会社	サービスエリア・/ 商業施設の管理・j	パーキングエリア内 軍営	東京都港区
(㈱ネクスコ東日本リテイル	子会社	サービスエリア・/ 直営店舗運営業務	パーキングエリアの	東京都港区
(株)ネクスコ東日本エリアサポート	子会社		パーキングエリア内 	東京都港区
(㈱ネクスコ東日本イノベーション& コミュニケーションズ	子会社	SMH関連技術や情 調査・研究・開発業	青報基盤高度化技術の 務など	東京都港区
E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED	子会社	インドにおける高	速道路の技術支援業務、調査業務など	インド国ハリヤナ州
東京湾横断道路㈱	関連会社		ンの維持管理、料金収受等の管理、 グエリアの管理・運営	東京都品川区
㈱NEXCOシステムソリューションズ	関連会社		基幹システムなどの	東京都新宿区
概高速道路総合技術研究所	関連会社	高速道路3会社の 調査・研究および	東京都町田市	
 高速道路トールテクノロジー㈱	関連会社	高速道路3会社の 料金収入の計数管	東京都中央区	
MNEXCO保険サービス	関連会社		命保険の代理店業務	東京都千代田区
	関連会社	 仙台南トラックタ 郡山トラックター	ーニナル、 ・ミナルの管理・運営	宮城県名取市
<ul><li>日本高速道路インターナショナル(株)</li></ul>	関連会社		東京都千代田区	

	営業道路名	延 長(km)	交通量(通行台数/日)	料金収入(千円/日)
	道央自動車道	443.5	96,685	91,899
		23.3	2,596	2,646
	札樽自動車道	38.3	44,575	17,732
		206.1	8,194	23,755
		680.5	295,551	426,982
		15.6	3,652	1,311
	   八戸自動車道	81.3	6,749	9,321
		11.4	2,049	742
	   秋田自動車道	143.6	16,377	16,712
亭	山形自動車道	109.8	18,677	15,104
速	   磐越自動車道	212.7	17,225	34,314
高速自動車国道	   日本海東北自動車道	91.6	21,437	10,683
車国		51.5	9,492	6,079
道	関越自動車道	246.3	198,681	221,283
		203.4	54,471	89,451
	   常磐自動車道	300.4	194,822	197,322
		55.7	77,753	35,275
		92.1	178,355	104,213
		3.9	3,045	658
		49.2	201,909	99,615
		135.0	69,030	71,012
		42.7	6,568	20,523
		195.8	45,312	73,234
	小計	3,433.7	1,573,205	1,569,868
	深川留萌自動車道	4.4	1,661	225
	日高自動車道	4.0	4,878	708
	 百石道路	6.1	5,469	716
		14.5	4,933	1,495
	秋田外環状道路	9.5	5,020	1,564
	琴丘能代道路	17.1	3,665	1,481
	仙台北部道路	13.5	18,160	6,745
		7.8	43,191	6,835
	仙台東部道路	24.8	59,841	21,290
設	仙台南部道路	12.9	24,152	6,974
般有料道路	東北中央自動車道(旧:米沢南陽道路)	8.8	6,325	1,708
道	東水戸道路	10.2	13,887	3,722
哈	京葉道路	36.7	283,122	65,592
	 千葉東金道路	16.1	51,632	14,287
	東京湾アクアライン	15.1	48,370	37,200
	東京湾アクアライン連絡道	7.1	33,379	7,829
	富津館山道路	19.2	13,639	5,773
	圈央道(首都圏中央連絡自動車道)	216.7	203,023	168,979
	第三京浜道路	16.6	125,627	26,491
	横浜新道	11.3	113,335	32,466
	   横浜横須賀道路	36.9	101,487	49,341
	小計	509.3	1,164,796	461,420

●延長:2022年4月1日現在 ●交通量および料金収入:2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日) ●交通量・料金収入の合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

## 建設道路一覧

#### ■ 新設区間

	区 間(IC・JCT名は仮称含む)	延長(km)*
関越自動車道新潟線 (東京外環自動車道)	中央JCT~大泉JCT	10
東関東自動車道水戸線 (東関東自動車道)	潮来IC~鉾田IC	31
一般国道4号(東埼玉道路)	草加八潮IC·JCT~浦和野田線IC	10
	釜利谷JCT~戸塚IC	9
一般国道468号(圏央道)	栄IC・JCT~藤沢IC	7
	大栄JCT~松尾横芝IC	19
計		85
	東関東自動車道水戸線(東関東自動車道) 一般国道4号(東埼玉道路) 一般国道468号(圏央道)	東関東自動車道水戸線(東関東自動車道)       潮来IC~鉾田IC         一般国道4号(東埼玉道路)       草加八潮IC・JCT~浦和野田線IC         釜利谷JCT~戸塚IC       栄IC・JCT~藤沢IC         大栄JCT~松尾横芝IC

(2022年7月1日現在)

#### ■ 拡幅区間

	路線名	区間	延長(km)*
	北海道横断自動車道黒松内釧路線	占冠IC~トマムIC	26
	(道東自動車道)	トマムIC~十勝清水IC	21
	東北横断自動車道釜石秋田線	北上西IC~湯田IC	22
	(秋田自動車道)	湯田IC~横手IC	15
京体内科本同学		会津坂下IC~西会津IC	11
高速自動車国道	東北横断自動車道いわき新潟線 (磐越自動車道)	西会津IC~津川IC	9
	(6613)+2)	三川IC~安田IC	15
		浪江IC~南相馬IC	2
	常磐自動車道	相馬IC~新地IC	9
		広野IC ~ならはスマートIC	5
	一般国道6号(仙台南部道路)	今泉IC~山⊞IC	3
	一般国道16号(横浜横須賀道路)	釜利谷JCT~並木IC	4
\$0. <del>≠</del> -业√ ×× 0.4	一般国道47号(仙台北部道路)	利府しらかし台IC~富谷JCT	7
一般有料道路	一般国道126号(千葉東金道路)	東金IC・JCT~松尾横芝IC	16
	一般国道127号(富津館山道路)	富津竹岡IC~富津金谷IC	3
	一般国道468号(圏央道)	久喜白岡JCT~大栄JCT	92
	計		260

※延長は、端数処理を行っています。合計は、その関係により合わない場合があります。

(2022年7月1日現在)

## インターチェンジ/SA・PA

#### ■ インターチェンジ

施設数	インターチェンジ	446	(2022年7月1日現在)
心可以	スマートIC	59	(2022年7月1日現在)

#### SA • PA

施設数	328	SA・PA (うち、商業施設有196、商業施設無132(2022年7月1日現在))	
心設致	154	急速充電器 (2022年7月1日現在)	
店舗総売上額	1,275億円	(2021年度実績)	

#### < 連結財務諸表のポイント >

#### 《連結貸借対照表》

・資産の部は、高速道路機構へ引き渡す前の道路資産である仕掛道路資産が多くを占め、負債の部は、道路資産の建設のた めに調達した道路建設関係社債・長期借入金が多くを占めます。

#### 連結貸借対照表 (単位:億円)

		科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資産	資産の部						
	流動	資産	15,572	9,303	9,498	10,073	11,805
		現金および預金	1,397	1,180	965	1,090	996
		仕掛道路資産	10,991	5,395	6,081	6,212	7,609
		その他の流動資産	3,183	2,726	2,451	2,770	3,199
	固定	資産	2,927	3,163	3,369	3,461	3,538
		有形固定資産	2,408	2,578	2,712	2,798	2,808
		無形固定資産	122	149	188	223	277
		投資その他の資産	396	435	468	438	452
	繰延	資産	11	7	11	14	18
資産	資産合計		18,511	12,474	12,879	13,550	15,362
負債	負債の部						
	流動	負債	2,893	3,472	2,614	2,395	2,610
	固定	負債	13,385	6,694	7,859	8,811	10,397
		道路建設関係社債·長期借入金	12,362	5,669	6,806	7,309	9,014
		その他の固定負債	1,022	1,024	1,053	1,502	1,383
負債	合計		16,279	10,166	10,473	11,207	13,007
純資	産の語						
	株主		2,401	2,442	2,542	2,444	2,427
		資本金	525	525	525	525	525
		資本剰余金	587	587	587	587	587
		利益剰余金	1,288	1,329	1,429	1,331	1,314
	その	 )他の包括利益累計額	△ 169	△ 134	△ 136	△ 101	△ 72
純資	産合語	<u></u>	2,231	2,308	2,405	2,343	2,354
負債	·純資	産合計	18,511	12,474	12,879	13,550	15,362

(億円単位未満端数切り捨てのため、表上の計算は合わない場合があります。)

#### 《連結損益計算書》

- ・営業収益の内訳は、高速道路事業における料金収入や高速道路の新規開通等に伴う道路資産完成高、関連事業の売上高 であり、料金収入が多くを占めます。
- ・営業費用の内訳は、高速道路事業における道路資産賃借料や管理費用等であり、高速道路機構との協定に基づく道路資 産賃借料が多くを占めます。なお、道路資産完成原価については、営業収益の道路資産完成高と同額を計上しています。
- ・2021年度の営業損失は47億円となり、親会社株主に帰属する当期純損失は14億円となりました。

#### 連結損益計算書 (単位:億円)

科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
営業収益	10,564	19,431	12,643	11,946	10,303
高速道路事業	9,755	18,659	11,817	11,281	9,838
料金収入	8,376	8,599	8,574	7,143	7,416
道路資産完成高	1,293	9,985	3,160	4,058	2,348
その他の営業収益	85	74	82	79	73
関連事業	873	838	891	742	555
SA・PA事業	416	416	406	243	248
受託・その他の事業	456	422	484	498	307
セグメント間取引の消去	△ 64	△ 66	△ 65	△ 77	△ 90
営業費用	10,566	19,386	12,542	12,005	10,351
高速道路事業	9,783	18,649	11,741	11,300	9,871
道路資産賃借料	6,018	6,211	6,118	4,809	5,168
道路資産完成原価	1,293	9,985	3,160	4,058	2,348
管理費用等	2,471	2,451	2,462	2,432	* 2,355
関連事業	847	805	867	783	570
SA·PA事業	392	385	384	291	267
受託・その他の事業	454	419	482	492	302
セグメント間取引の消去	△ 64	△ 67	△ 65	△ 77	△ 90
営業利益(△損失)	△ 1	44	100	△ 59	△ 47
高速道路事業	△ 27	10	76	△ 18	* △ 33
関連事業	25	32	23	△ 41	△ 14
経常利益 (△損失)	33	75	137	△ 25	△ 12
親会社株主に帰属する当期純利益(△損失)	208	41	99	△ 97	* △14

(億円単位未満端数切り捨てのため、表上の計算は合わない場合があります。)

※ 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業を重点 的に進めています。当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しており、営業収益には計上されない一方、 管理費用等には103億円含まれています。この事業を除いた場合の高速道路事業の営業利益は69億円、当期純利益は88億円となります。

#### (注) 当社グループの事業区分およびその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分		主要内容
高速道路事業		高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所の建設、管理等
関連事業	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に 基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

**91** E-NEXCO Report 2022 E-NEXCO Report 2022 92

#### 企業CMのご案内

#### ●俳優の濱田岳さんを起用した 新シリーズのテレビCM放映開始

お客さまをはじめ、普段あまり高速道路をご利用にならない方も含めたより多くの方が、ご自身を重ね合わせて「私のために役立っている」「私の暮らしを良くしている」と期待し、親しみを感じてもらえるようなコミュニケーションを展開していきたいと考え、新しいテレビCMの放映を2022年4月から開始しました。

濱田さんが幼い娘を「ずっと見守っていく」という思いと、当社が高速道路を将来にわたり安心・安全に保つために実施しているリニューアルプロジェクトを重ねて表現しています。

今後、第2弾のテレビ CM も計画していますのでご期待ください。

#### ●フリーアナウンサーの中川絵美里さんを起用し、 リニューアル工事 C M などに出演

高速道路を利用するお客さまに対して、「NEXCO東日本からのお知らせ」を丁寧に、真摯に、わかりやすく伝えるコンシェルジェ役として、リニューアル工事をはじめ企画割引(ドラ割、周遊プラン等)や雪道広報などに随時出演します。



濱田岳さんが、父親役として出演する 「高速道路リニューアルプロジェクト篇」より





ドラぷら YouTubeチャンネルへ

中川絵美里さんと マナーアップキャラクター 「マナーティ」

新たな広報タレントの濱田岳さん、中川絵美里さんが出演するCMなどは、サービスエリア・パーキングエリア等に設置しているデジタルサイネージ放送や、ポスターでの掲示もしています。ドライブ休憩などお立ち寄りの際には、ぜひご覧ください。

#### 提供番組「MY BEST WAY」のご案内

2019年4月から放送している「MY BEST WAY」は、ナビゲーターがおすすめのドライブスポットやSA・PAのお土産、グルメ情報など「旅の喜び」や「楽しさ」を提供するミニ番組です。

今年度は番組をリニューアルし、ナビゲーターとドライブパート ナーが各県のドライブスポットを紹介していきます。

毎週火曜日 20:49~、BSテレ東にて放送中。YouTubeで見逃し配信も行っていますので、ぜひご覧ください。





見られます

ドライブパートナーは声優の明坂聡美さん

#### コーポレートサイトのご案内

コーポレートサイト https://www.e-nexco.co.jp/





#### 【表紙写真について】





#### 「新潟県の自然と高速道路」

表紙の写真は、NEXCO東日本グループが管理する北陸自動車道 親不知IC付近を撮影したものです。断崖絶壁が海岸線まで迫り、かつては交通の難所と言われたこの地に、高速道路が1988年に開通しました。非常に厳しい地形・自然環境の中、今後も安全・安心な高速道路空間をご提供できるよう道路構造物の更新・修繕を順次進めています。

目次の写真は、海岸線から離れ山側に進んだ上信越道 中郷IC~上越高田IC間において、残雪の妙高山を望み撮影 したものです。2019年に上信越道の4車線化がすべて完了し、ネットワーク機能の強化に努めてきました。

当社グループが管理する高速道路により、様々な地域と地域をつなぎ、人・モノの移動を支えていることを感じていただければと考え、これらの写真を選定しました。

24時間、365日、お客さまの声をお聞きしています。

N E X C O 東日本お客さまセンター

0570-024-024 \$\tag{03-5308-2424}

24時間365日、お客さまの声をお聞きしています。高速料金やETC割引、交通情報などお気軽にお問い合わせください。